

2025 年 7 月

食料安全保障月報

(第 49 号)



令和 7 年 7 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年 6 月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

2025 年 7 月食料安全保障月報（第 49 号）

目 次

概要編

I	2025 年 7 月の主な動き	1
II	2025 年 7 月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「米国の生育状況と貿易動向」	5

（資料）

1－1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去 10 年平均との増減比較）	1 0
1－4	穀物等の国際価格の動向	1 3
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 4
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 5
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 7
5	食品小売価格の動向	2 1
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 2
7	FAO 食料価格指数	2 4

今月のコラム

「ベトナムの食料事情：農林水産業と貿易」	2 5
----------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 2.2%減の見込み
	＜カナダ＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5%減の見込み（AAFC）
	＜豪州＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.5%増の見込み（ABARES）
	＜EU27＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 14.6%増の見込み（EC）
	＜ロシア＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 2.3%増の見込み
	＜ウクライナ＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 6.0%減の見込み
	＜中国＞	2024/25 年度の輸入量は前年度から 70.7%減の見込み

2	とうもろこし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 5.6%増加する見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.8%減少する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み	
	＜ウクライナ＞2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.8%増加する見込み	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み	
3	コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	＜タイ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減少する見込み	
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 7.7%減少する見込み	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み	
	＜インド＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み	
	＜ベトナム＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.4%減少する見込み	
II	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.7%減少する見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み	
	＜カナダ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.9%減少する見込み（AAFC）	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.8%減少する見込み	
	（参考 1）本レポートに使用されている各国の市場年度について（2025/26 年度）・・・	27
	（参考 2）単位換算表・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	（参考 3）各国のクロップカレンダー一覧（主要品目毎）・・・・・・・・	28

【利用上の注意】

表紙写真：ロシアスタヴロポリ地方ノヴォアレクサンドロフスキー地区
開花期を迎えたひまわり畑。（2025 年 7 月 1 日）

(概要編)

I 2025 年 7 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

7月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、2025/26年度の状況について、品目別にみると、小麦については、豪州、カザフスタン、パキスタンで収穫面積・単収ともに前年度より減少、イランで単収が減少し生産量が減少するものの、EU、インドで収穫面積・単収ともに前年度より増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は、同年8月には侵攻前の水準まで低下したものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、米国、ウクライナで収穫面積・単収ともに前年度より増加、アルゼンチンで収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

大豆については、ブラジルで収穫面積・単収ともに増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に肉、乳製品、植物油の価格上昇等により、5月の127.3から、6月(最新値)は128.0と上昇（参考：2024年6月121.0、2023年6月123.0、2022年6月155.7、2021年6月125.4、2020年6月93.1）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値の約9割の水準で推移。



写真：ウクライナ・ドニプロペトロウ
スク州の小麦畑。作柄は良好。

撮影日：2025年7月7日



写真：ロシア・クラスノダル地方の大
豆畑。作柄は良好。

撮影日：2025年7月1日

ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 7 月需給報告によれば、2025/26 年度のウクライナの小麦の生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 6 % 減少し 2,200 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の減少等を受け、前年度より 3 % 減少し 1,550 万トンとなる見込み。2025/26 年度のとうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに増加することから、前年度より 14% 増加し 3,050 万トンとなる見込み。また、輸出量は、生産量の増加等を受け、前年度より 9 % 増加し 2,400 万トンとなる見込み。

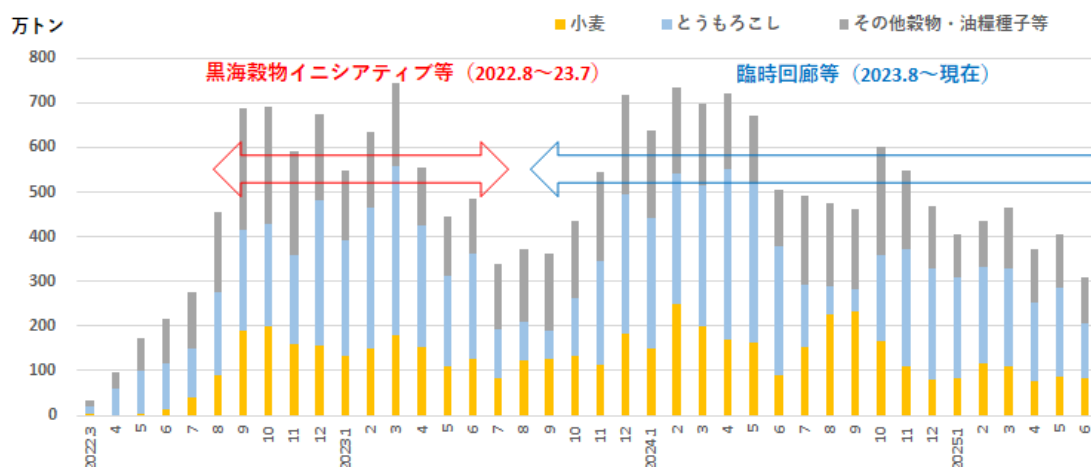
現地情報会社によれば、2025 年 6 月末現在、2025/26 年度の秋播き作物（冬小麦）の作柄は概ね良好及び並みだが、南部では干ばつ、西部では病害による被害が一部で発生している。7 月 10 日現在の冬小麦の収穫進捗率は 9 %。6 月末現在、春播き作物（春小麦）の作柄は概ね並みであり、作物は乳熟期を迎えている。とうもろこしの作柄は概ね良好であり、作物は子葉形成期（7～17 葉期）を迎えている。

臨時回廊からの輸出状況

2022 年 7 月 22 日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年 8 月以降、オデーサ港等 3 港からの輸出が再開したが、2023 年 7 月 17 日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022 年 8 月～23 年 7 月）は、穀物・油糧種子等 6,846 万トン（うち、小麦 1,728 万トン、とうもろこし 2,949 万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023 年 8 月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU 域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022 年 3 月～2025 年 6 月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

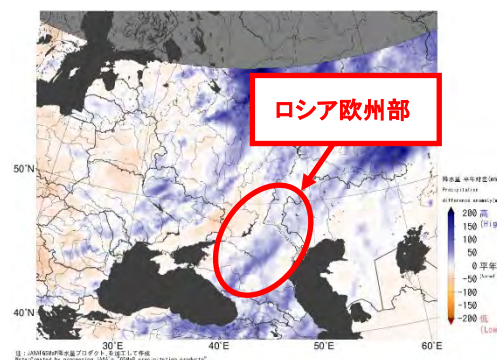
注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 ロシア：2025/26 年度の冬小麦の生産量は増加する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のロシアの小麦生産量は 8,350 万トン（うち、冬小麦は 6,050 万トン、春小麦は 2,300 万トン）と、前月予測から 1 % 上方修正され、前年度から 2 % 増加する見込み。収穫面積は 2,670 万ヘクタールと、前月予測から 2 % 下方修正され、前年度から 4 % 減少。単収は 3.13 トン/ヘクタールと、前月予測から 3 % 上方修正され、前年度から 6 % 増加する見込み。なお、USDA のロシアの作物生産推計には、クリミアの生産量は含まれない。

ロシアの欧州部（冬作物の大部分が栽培されている地域）では、秋季と早春に厳しい乾燥に見舞われたものの、5 月の降雨により冬小麦の作柄が回復し、現在、収穫作業が開始されている。

図：ロシアの降水量（平年対差）
（2025 年 5 月 1～15 日）



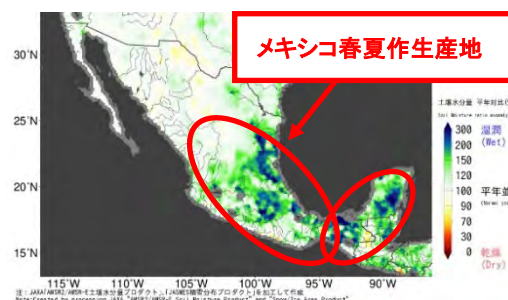
出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

2 メキシコ：2024/25 年度のとうもろこしの生産量は減少する見込み

USDA によれば、2024/25 年度のメキシコのとうもろこし生産量は 2,310 万トンと、前年度から 3 % 減少する見込み。収穫面積は 650 万ヘクタールと前年度から 6 % 増加。単収は 3.55 トン/ヘクタールと、前年度から 9 % 減少する見込み。

メキシコのとうもろこしは、夏の雨季と冬の乾季に栽培され、雨季の春夏作（5～6 月に作付け、2 月に収穫）が総生産量の 70% を占める。2024/25 年度は 6 月下旬より降雨に恵まれ、前年度より多くの春夏作とうもろこしが作付けされた。メキシコ農業・食品・水産情報サービス（SIAP）によれば、春夏作の収穫面積は前年度から 7 % 増加し 560 万ヘクタールとなった。生育期間を通じて十分な降水量に恵まれ、生産量も増加した。一方、総生産量の 30% を占める秋冬作は、その大半（60%）が灌漑用水に依存しているが、2024/25 年度は主産地での降雨不足により灌漑用水が不足し、単収が減少すると見込まれている。

図：メキシコの土壌水分量（平年対比）
（2024 年 6 月）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

3 フィリピン：2024/25 年度のコメの生産量は増加する見込み

USDA によれば、2024/25 年度のフィリピンのコメ生産量は 1,235 万トンと、前年度から 0.2% 増加する見込み。収穫面積は 470 万ヘクタールと、前年度から 1 % 減少。単収は 4.17 トン/ヘクタールと、前年度から 1 % 増加する見込み。USDA の市場年度は第 3 四半期（7～9 月）から始まる。フィリピンのコメ生産量は第 4 四半期と第 1 四半期に最も多く、それぞれ総生産量の約 38% と 23% を占める。フィリピン統計局（PSA）の公式推計によれば、第 3 四半期の収穫面積及び生産量は 2019/20 年度以来の最低水準となった。その後、生育条件の回復に伴い、第 4 四半期の収穫面積は前年同期比 2 % 増、生産量は前年同期比 1 % 弱増。第 1 四半期の収穫面積は前年同期比 2 % 減の 114.8 万ヘクタール、生産量は前年同期比 1 % 弱増の 469.9 万トン。暫定報告によれば、第 2 四半期の収穫面積は前年同期比 9 % 増の 97.3 万ヘクタール、生産量は前年同期比 13% 増の 436 万トンとなる見込み。第 2 四半期は、生育条件に恵まれ作物が順調に生長しており、収穫面積、生産量ともに史上最高を更新する見込み。

II 2025 年 7 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、6 月末、190 ドル/トン台半ばで推移。7 月に入り、米国、カナダ及び欧州の高温による小麦の作柄懸念等を受けて 200 ドル/トン台半ばまで上昇した。その後、北半球における冬小麦の収穫進展等を受けて下落し、7 月中旬現在、190 ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、6 月末、160 ドル/トン台半ばで推移。7 月に入り、米国の高温乾燥懸念等を受けて 160 ドル/トン台後半まで上昇したものの、米国の良好な天候やブラジルの豊作見通し等を受けて下落し、7 月中旬現在、160 ドル/トン台前半で推移。

コメは、6 月末、420 ドル/トン台前半で推移。7 月に入り、アジアの主要市場における需要減退やインド産米等との競合を受け、400 ドル/トン台後半まで下落し、7 月中旬現在、400 ドル/トン台後半で推移。

大豆は、6 月末、370 ドル/トン台後半で推移。7 月に入り、大豆油相場の高騰や米国の関税協議に対する期待感等から 380 ドル/トン後半まで上昇した。その後、米国の良好な天候等を受けて 360 ドル/トン半ばまで下落し、7 月中旬現在、360 ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント

2025/26 年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度より 1.7% 増の 28.97 億トン。消費量は、前年度より 1.2% 増の 29.13 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り 25.7% となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前年度より、コメは減少も、小麦、とうもろこしは増加し、穀物全体では増加となり、28.97 億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体では増加となり、29.13 億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメは減少も、小麦、とうもろこしは増加し、穀物全体では増加し、5.13 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.48 億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は 7 月の USDA 「PS&D」による)

IV 2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2025/26 年度の油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.93 億トン。消費量は前年度を上回り 6.89 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加するものの、期末在庫率は前年度を下回り 21.1% となる見込み。

(注：数値は 7 月の USDA 「PS&D」等による)

V 今月の注目情報: 米国の生育状況と貿易動向

USDAは、6月30日、作付面積報告（Acreage）を公表した。米国の小麦、大豆の作付面積は前年度から減少し、とうもろこしの作付面積は増加した。現在の生育状況は、小麦については、乾燥の影響により春小麦の作柄に懸念があるものの、とうもろこし、大豆については、生育に適した天候に恵まれ順調に生長しており、いずれも作柄は良好で豊作が期待される。米国の生産動向とそれを取り巻く貿易動向についてまとめた。

注：文中の「2025/26 年度」等は市場年度で、米国の小麦は 2025 年 6 月から 2026 年 5 月、とうもろこし及び大豆は 2025 年 9 月から 2026 年 8 月。国や作物によって異なる（品目別需給編参照）。

1 作付面積報告

USDA が 6 月 30 日付けで公表した 2025/26 年度の作付面積報告によれば、小麦の作付面積は前年度に比べ 1.3%減少した。このうち生産量の 7 割を占める冬小麦は 0.2%減少、デュラムを除く春小麦は 5.5%減少、デュラム小麦は 2.1%増加となった。

とうもろこしの作付面積は前年度に比べ 5.1%増加した一方、大豆の作付面積は 4.2%減少した。これは、作付時の価格が、大豆よりとうもろこしの作付けに有利であったことから、大豆からとうもろこしに作付けがシフトしたことが要因とみられる。

6 月 30 日のシカゴ商品取引所の小麦価格は、作付面積及び四半期在庫が市場予想を上回ったことから下落した。とうもろこし価格は、作付面積が市場予想を下回ったことから一時的に上昇したものの、米国コーンベルトの広範囲で生育に適した天候見通しが価格を押し下げた。大豆価格は、四半期在庫が市場予想を上回ったことから一時的に下落したものの、堅調に推移する大豆粕価格に連れ価格が上昇した。

2 米国の品目ごとの生育状況

(1) 小麦

USDA 「Crop Progress」（2025.7.14）によれば、冬小麦は収穫期終盤を迎えており、7 月 13 日現在の収穫進捗率は 63%。前年同期（70%）及び過去 5 年平均（64%）をいずれも下回っている。作柄評価については、7 月 6 日時点で「良～優良」の割合が 48%と、シーズンを通して生育に適した天候に恵まれた前年同期の 51%を下回った。他方、春小麦は出穂が進んでおり、7 月 13 日現在の出穂進捗率は 78%。前年同期（74%）及び過去 5 年平均

表1 米国の小麦、とうもろこし、大豆の作付面積、収穫面積

単位: 万エーカー			
	小麦	とうもろこし	大豆
作付面積 対前年度比	4,548 ▲1.3%	9,520 +5.1%	8,338 ▲4.2%
収穫面積予測 対前年度比	3,664 ▲4.8%	8,677 +4.7%	8,254 ▲4.1%

資料: 米国農務省「Acreage」(2025.6.30)

注: 1 エーカーは約0.4ha

表2 米国の小麦、とうもろこし、大豆の四半期在庫

単位: 千トン			
	小麦	とうもろこし	大豆
2024年6月	18,954	126,930	26,401
2025年6月	23,147	117,953	27,425
対前年度比	+22.1%	▲7.1%	+3.9%

資料: 米国農務省「Grain Stocks」(2025.6.30)

表3 米国作付面積報告を受けた価格動向
(シカゴ穀物取引所の9月限の価格)

単位: ドル/ブッシェル			
	6月27日	6月30日	対前日比
小麦	5.41	⇒ 5.38	▲0.5%
とうもろこし	4.12	⇒ 4.09	▲0.5%
大豆	10.17	⇒ 10.18	+0.1%

写真1 インディアナ州の小麦畑
作柄は良好 (2025. 7. 7)



撮影者: Neil Mylet

均（75%）をいずれも上回っている。作柄評価については、「良～優良」の割合が 54%と、一部地域で乾燥による影響を受け、前年同期の 77%を下回っている。

USDA 7 月需給報告によれば、2025/26 年度の米国の小麦生産量は 5,249 万トンと、前月予測から 21 万トン上方修正され、前年度から 2.2%減少する見込み。

（2）とうもろこし

USDA 「Crop Progress」 (2025.7.14) によれば、7 月 13 日現在、とうもろこしはシルキング期を迎えており、シルキング進捗率は 34%。前年同期（39%）を下回っているものの、過去 5 年平均（33%）を上回っている。主産地の中西部では、4 月に降雨過多から作付作業に遅れが生じたが、5 月は温かく乾燥した気候となり作業は急ピッチで進展した。その後、概ね生育に適した天候に恵まれ作物は順調に生長し、作柄評価は「良～優良」の割合が 74%と、前年同期（68%）を上回っている。とうもろこしは、受粉期を迎える 7 月終盤から 8 月にかけての天候が作柄の決定に大きな影響を与えるといわれており、今後の天候に注視が必要である。

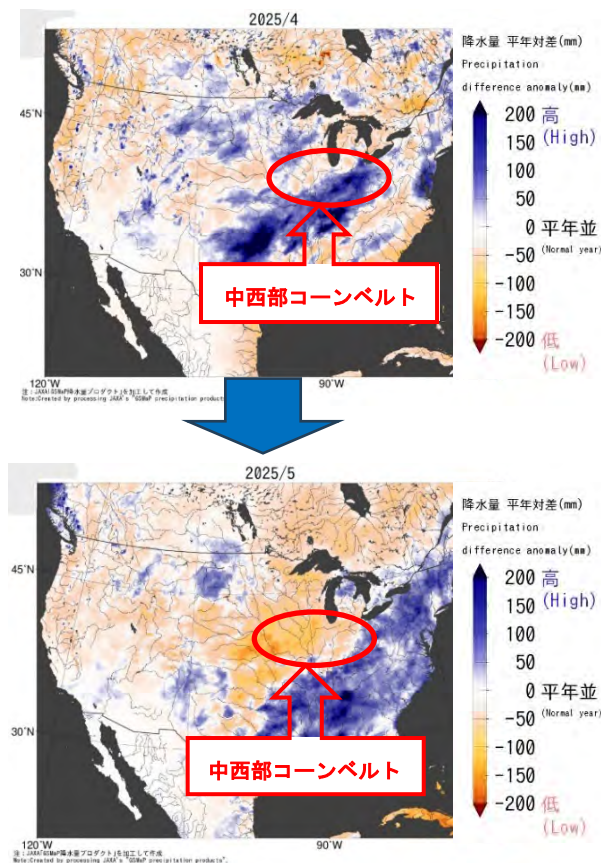
USDA 7 月需給報告によれば、2025/26 年度の米国のとうもろこし生産量は 3 億 9,893 万トンと、前月予測から 292 万トン下方修正されたものの、前年度からは 5.6%増加する見込み。

（3）大豆

USDA 「Crop Progress」 (2025.7.14) によれば、7 月 13 日現在、大豆は開花期を迎えており、開花進捗率は 47%。前年同期（49%）を下回り、過去 5 年平均（47%）並みとなっている。シーズンを通じて生育に適した天候に恵まれ、作柄評価は「良～優良」の割合が 70%と前年同期（68%）を上回っている。大豆については、開花期を迎える 7 月から 8 月までの気温と降雨が作柄の決定に大きな影響を与えるといわれており、今後の天候に注視が必要となる。

USDA 7 月需給報告によれば、2025/26 年度の米国の大豆生産量は 1 億 1,798 万トンと、前月予測から 14 万トン下方修正され、前年度から 0.7%減少す

図 1 北米の降水量の平均対差 (2025. 4)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

写真 2 インディアナ州の出穂期を迎えた
とうもろこし (2025. 7. 7)



撮影者：Neil Mylet

写真 3 インディアナ州の大豆畑
作柄は良好 (2025. 7. 7)



撮影者：Neil Mylet

る見込み。これは、作付時の価格が大豆よりとうもろこしの作付けに有利であったことから、大豆からとうもろこしに作付けがシフトし、大豆の作付面積が減少したことによる。

3 各国の生産・貿易動向

(1) 小麦

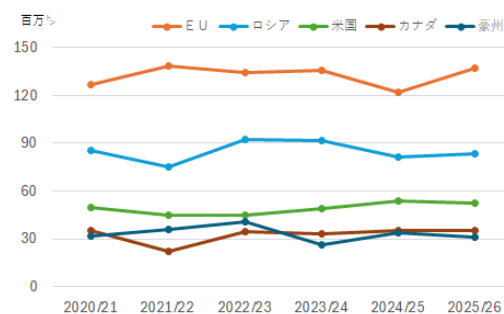
USDA 7 月需給報告によれば、2025/26 年度の米国産小麦の輸出量は 2,313 万トンと、前月予測から 68 万トン上方修正され、前年度から 2.9%増加する見込み。主要輸出先国はメキシコを筆頭にアジア諸国となっている。

一方、他の主要小麦輸出国について、ロシアの 2025/26 年度の生産量は 8,350 万トンと、前月予測から 50 万トン上方修正され、前年度から 2.3%増加する見込み。ロシアの小麦生産量の約 7 割を占める冬小麦は、秋から春先にかけての乾燥により作柄の悪化が懸念されたが、5 月に待望の降雨に恵まれ、開花と登熟に好影響を与え、生産量が上方修正された。輸出量は 4,600 万トンと、前月予測から 100 万トン上方修正され、前年度から 7.0%増加する見込み。過去最高を記録した 2023/24 年度（5,550 万トン）から 17.1%減少するものの、米国の輸出量を大きく上回り、6 年連続で世界第 1 位の輸出国の座を維持する見込み。ロシア政府は、7 月 9 日より小麦の輸出関税率をゼロとしており、引き続き価格競争力を維持するとみられる。

EU については、2025/26 年度の実生産量は 1 億 3,725 万トンと、前月予測から 70 万トン上方修正され、降雨過多により大きく生産量を減らした前年度から 12.4%増加する見込み。輸出量についても 3,250 万トンと、前月予測から 200 万トン下方修正されるものの、前年度から 22.6%増加する見込み。主要輸出先はアフリカ諸国である。

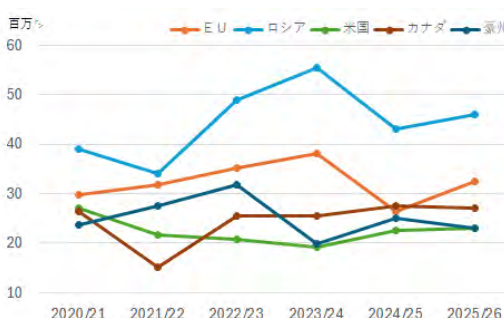
カナダについては、2025/26 年度の実生産量は 3,500 万トンと、前年度（3,496 万トン）と同水準の見込み。輸出量についても 2,700 万トンと前年度（2,750 万トン）とほぼ同水準。普通小麦は、インドネシア、中国、日本等のアジア諸国、デュラム小麦は、アルジェリア、モロッコ、イタリア等を主要な輸出先とする。

図 2 主要小麦輸出国の実生産量推移



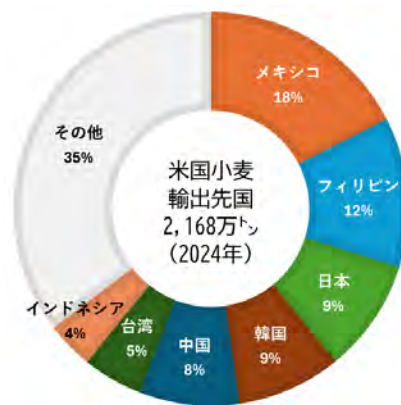
出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図 3 主要小麦輸出国の輸出量推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図 4 米国の小麦輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省にて作成

写真 4 ロシアスタヴロポリ地方

収穫間近の冬小麦。(2025. 7. 1)



(2) とうもろこし

USDA によれば、2025/26 年度の米国産とうもろこしの輸出量は 6,795 万トンと、前月予測からの変更はなく、3 年連続で世界第 1 位の輸出国の座を維持する見込み。米国産とうもろこしは価格競争力があり、今後も多くの輸出市場を獲得し続けることが期待される。主要輸出先はメキシコ、日本、コロンビア、韓国となっており、中国はそのシェアを大きく落としている。

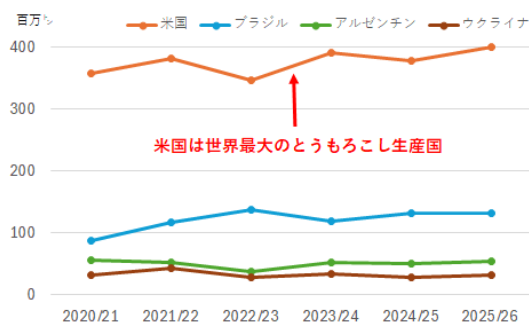
一方、世界第 2 位のとうもろこし輸出国であるブラジルの 2024/25 年度の生産量は 1 億 3,200 万トンと、前月予測から 200 万トン上方修正され、前年度から 10.9%増加する見込み。ブラジルのとうもろこし生産量の約 8 割を占める冬とうもろこしは、前作の大豆の収穫遅れに伴い作付けが遅れ、生育期間中の降雨量の不足が懸念されたが、今年は、例年雨季が終了する 5 月に安定した降雨に恵まれ、2022/23 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量を記録する見込み。輸出量も 4,300 万トンと、前年度（3,827 万トン）から 12.4%増加する見込み。

2025/26 年度の実産量については、とうもろこしの作付作業が 8 月以降に開始されるため予想の域を出ないが、1 億 3,100 万トンと前年度とほぼ同水準となる見込み。輸出量についても 4,300 万トンと、前年度と同水準の見込み。

アルゼンチンについては、2024/25 年度の実産量は 5,000 万トンと、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.0%減少する見込み。前年度に病害虫のヨコバイによる被害が作付け意欲に負の影響を与え、収穫面積は 640 万ヘクタールと、前年度から 17.7%減少したものの、産地の大部分で生育に適した天候に恵まれたことから、単収は 7.81 トン/ヘクタールと前年度から 19.1%増加した。輸出量は 3,450 万トンと、前月予測からの変更はなく、前年度から 4.8%減少する見込み。

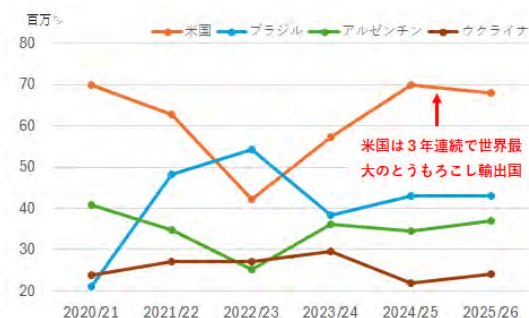
2025/26 年度の実産量については、9 月以降に作付作業が開始されるため、現時点では予想の域を出ないが、5,300 万トンと前年度から 6 %増加すると見込まれている。これは、ヨコバイ被害の改善により作付面積が回復すると見込まれることによる。輸出量については 3,700 万トンと、生産量の増加に伴い、7.2%増加すると見込まれている。

図 5 主要とうもろこし輸出国の実産量推移



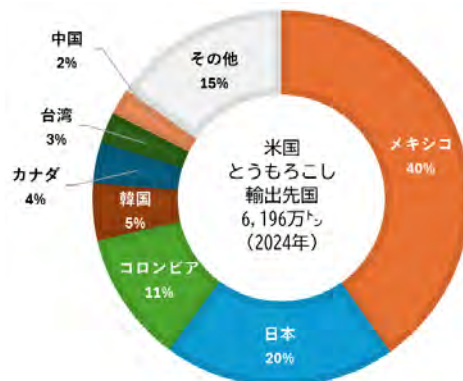
出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図 6 主要とうもろこし輸出国の輸出量推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図 7 米国のとうもろこし輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省にて作成

写真 5 ブラジルパラナ州の冬とうもろこし
作柄は良好（2025. 6. 29）



撮影：Thiago Terabe

主要なとうもろこし輸入国である中国は、従来は主に米国産及びウクライナ産とうもろこしを輸入してきたが、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻を受け、同年11月からブラジル産とうもろこしの輸入を開始した。その後ブラジルからの輸入が増加し、中国税関によれば、2024年10月～2025年5月のブラジルからのとうもろこし輸入量は72.4万トン、ウクライナからは31.0万トン、米国からは3.9万トンと、ブラジルからの輸入量が米国からの輸入量を大きく上回る状況となっている。中国は、食料安全保障の観点から、穀物の国内生産を拡大し、輸入先国を多角化する政策を推し進めている。

(3) 大豆

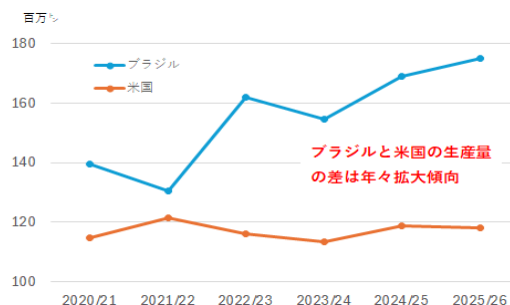
USDAによれば、2025/26年度の米国産大豆の輸出量は、4,749万トンと、前月予測から191万トン下方修正され、前年度から6.4%減少する見込み。主要輸出先は中国である。

一方、世界最大の大豆輸出国であるブラジルの2024/25年度の大豆生産量は1億6,900万トンと、前月予測から変更はなく、収穫面積、単収ともに増加し、前年度から9.4%増加する見込み。輸出量は1億210万トンと、前年度から2.0%減少するものの、世界第1位の輸出国の地位を維持する見込み。

2025/26年度の実産量については1億7,500万トンと、大豆の作付作業が9月以降に開始されるため予想の域を出ないが、前年度から3.6%増加し、史上最高を記録すると見込まれている。輸出量についても1億1,200万トンと、史上最高を記録更新すると見込まれている。

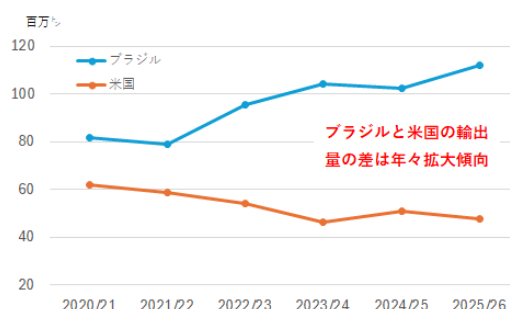
米国及びブラジルの主要輸出先である中国は、世界全体の大豆輸入量の約6割を占める世界最大の大豆輸入国である。中国は、年々ブラジルからの輸入を増加させており、昨今の米国の通商政策も踏まえ、今後の動向に注視したい。

図8 主要大豆輸出国の生産量推移



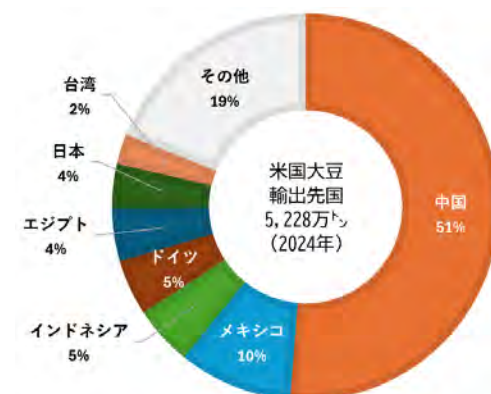
出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図9 主要大豆輸出国の輸出量推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図10 米国大豆輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省にて作成

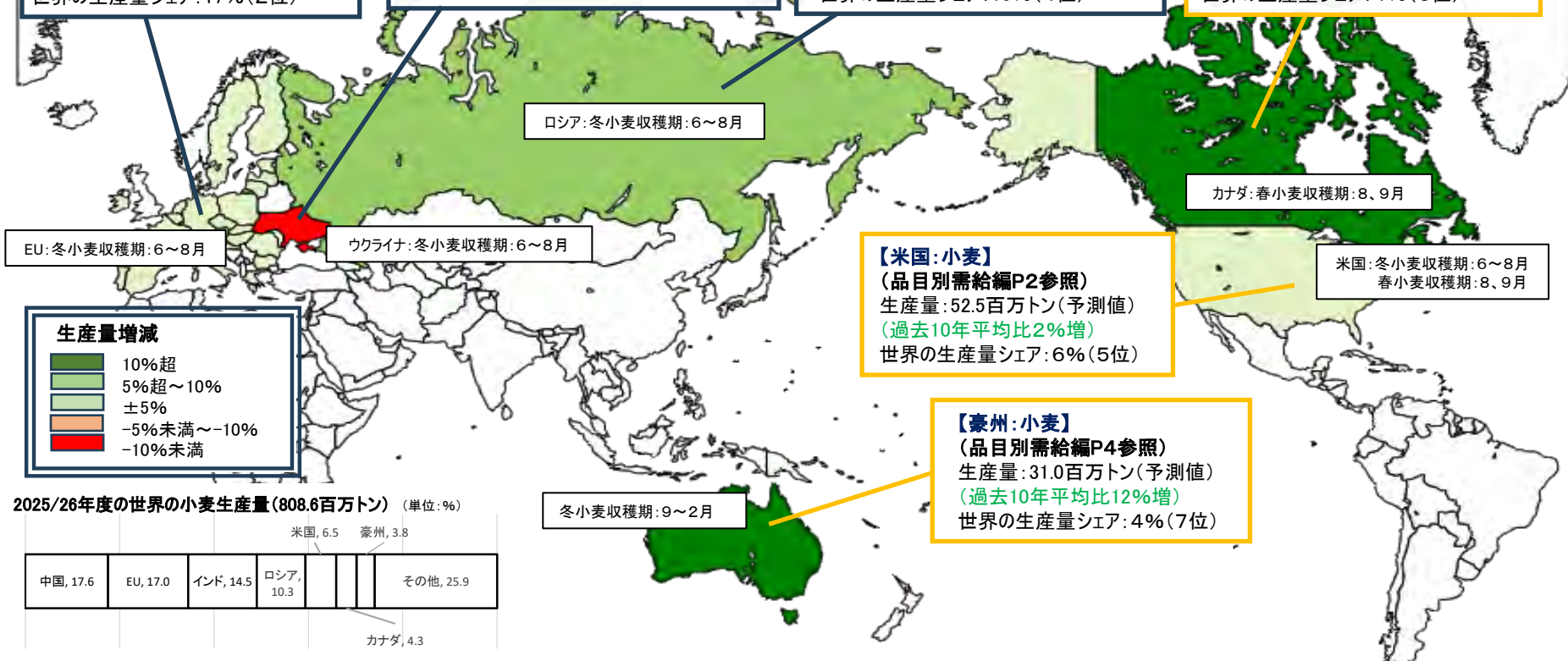
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(7月版)

【EU:小麦】(品目別需給編P5参照)
生産量:137.3百万トン(予測値)
(過去10年平均比2%増)
世界の生産量シェア:17%(2位)

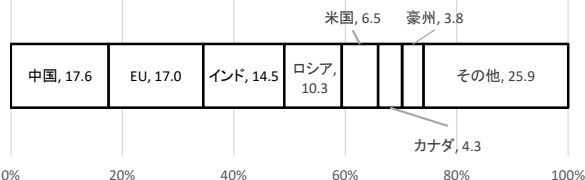
【ウクライナ:小麦】(品目別需給編P7参照)
生産量:22.0百万トン(予測値)
(過去10年平均比16%減)
世界の生産量シェア:3%(9位)

【ロシア:小麦】(品目別需給編P6参照)
生産量:83.5百万トン(予測値)
(過去10年平均比6%増)
世界の生産量シェア:10%(4位)

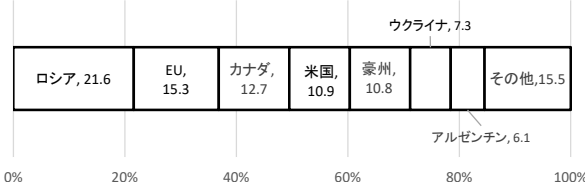
【カナダ:小麦】(品目別需給編P3参照)
生産量:35.0百万トン(予測値)
(過去10年平均比11%増)
世界の生産量シェア:4%(6位)



2025/26年度の世界の小麦生産量(808.6百万トン) (単位:%)



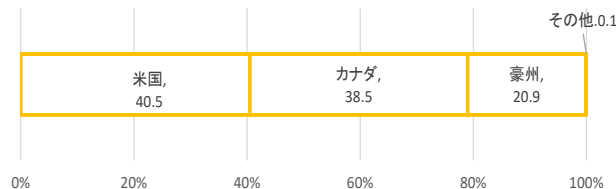
2025/26年度の世界の小麦輸出力(213.1百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界の小麦輸入量(208.8百万トン) (単位:%)

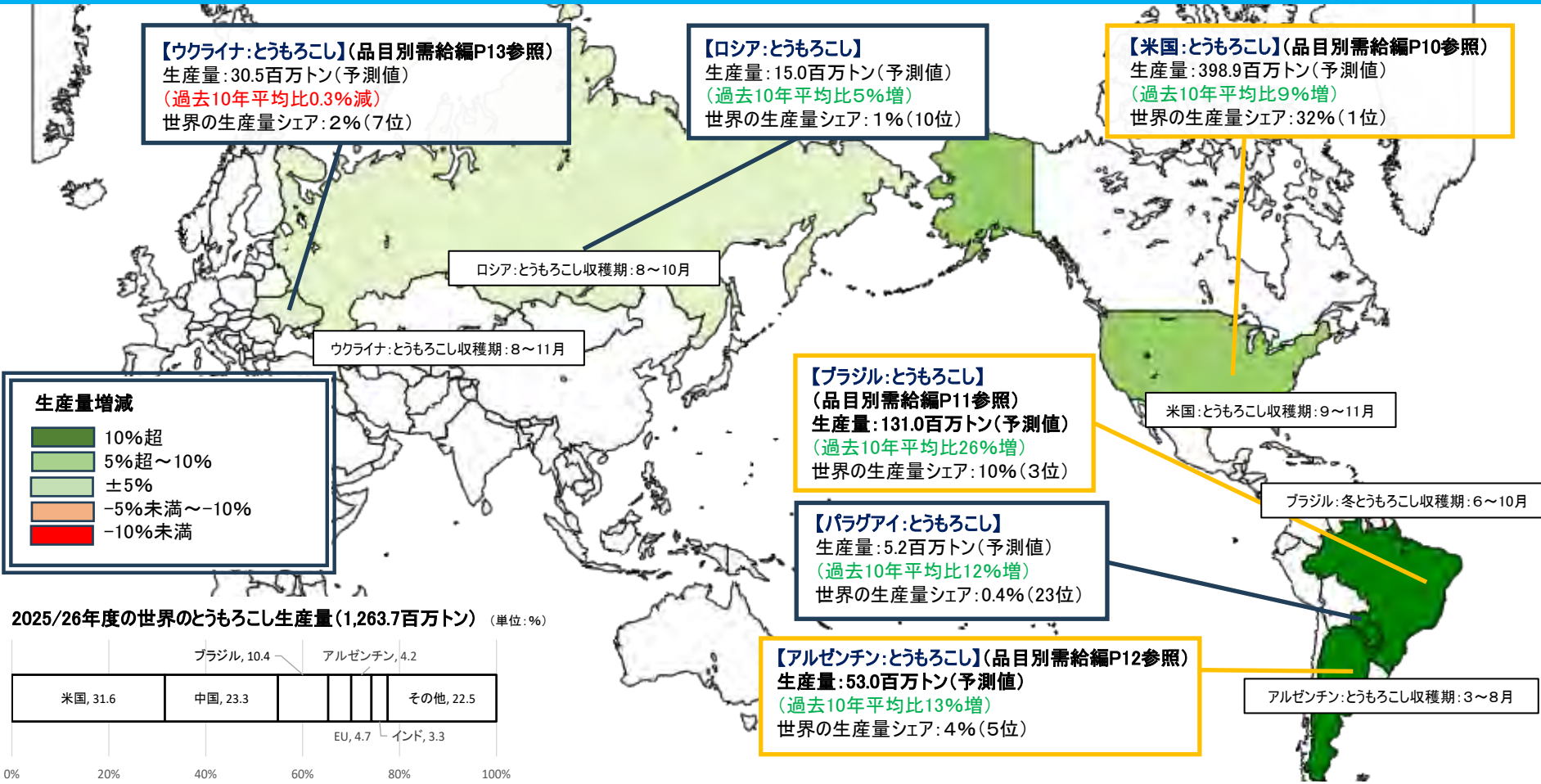


2024年の日本の小麦輸入量(5.2百万トン) (単位:%)

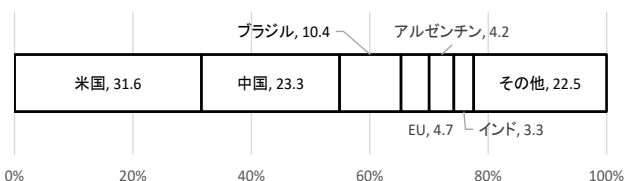


- 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

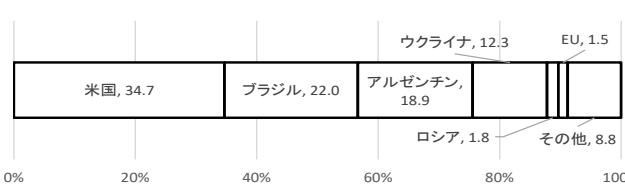
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(7月版)



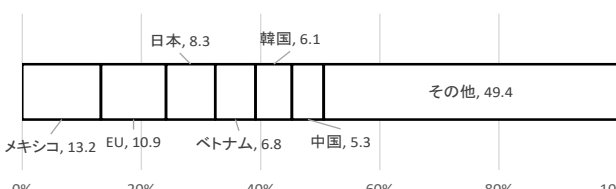
2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,263.7百万トン) (単位:%)



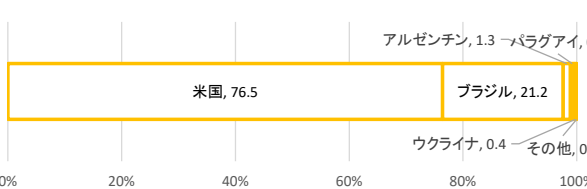
2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(195.8百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸入量(187.8百万トン) (単位:%)



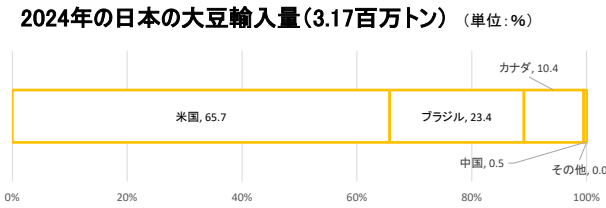
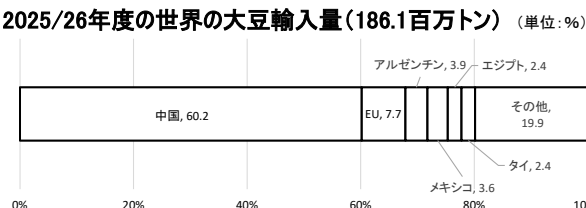
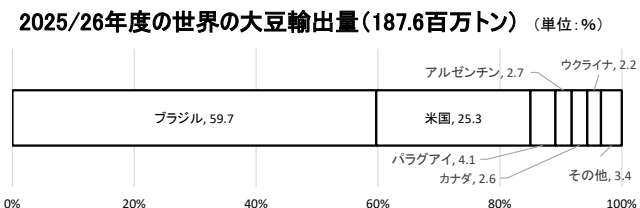
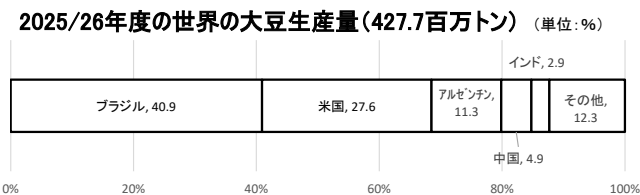
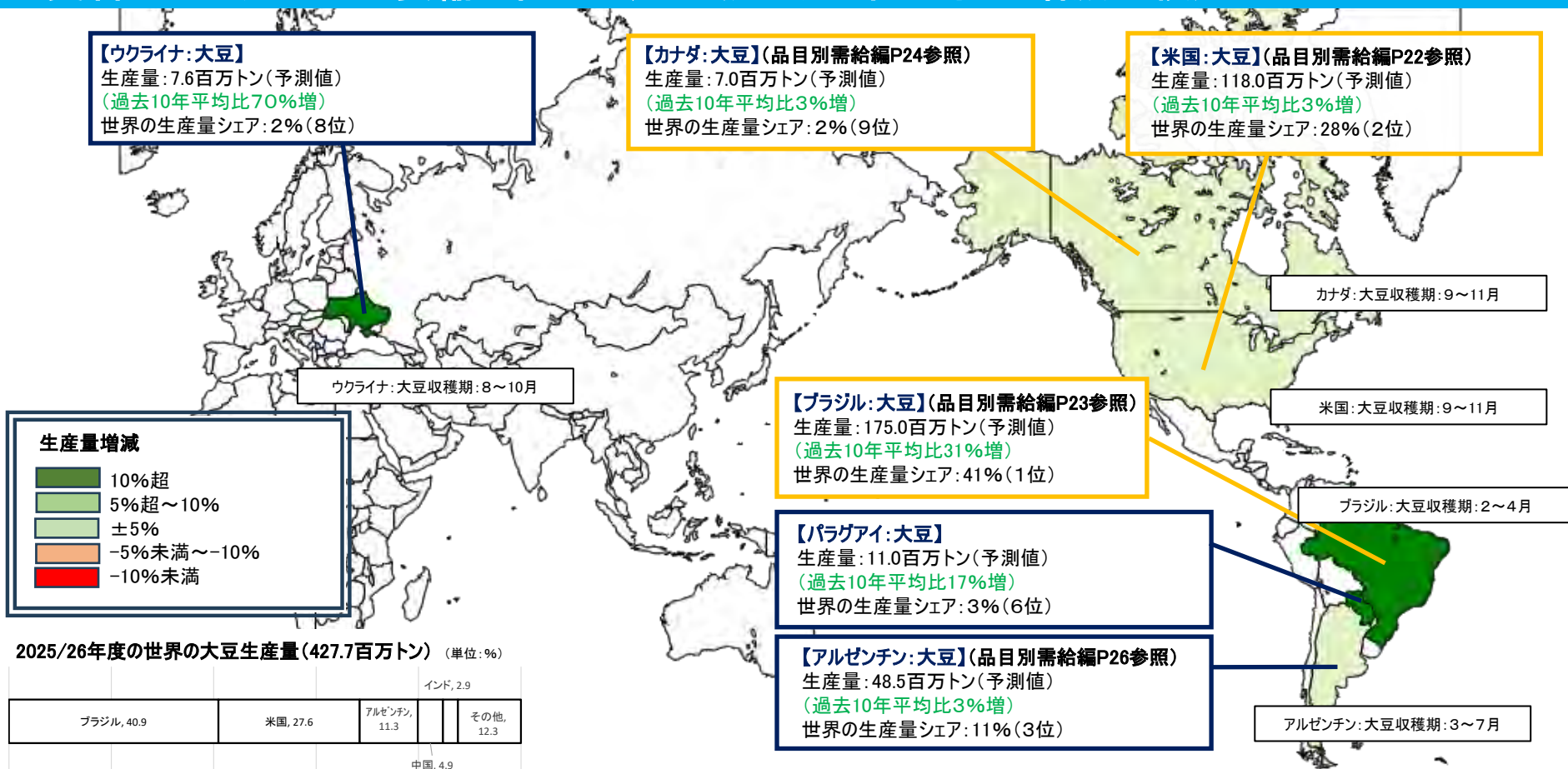
2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン) (単位:%)



○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.7)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(7月版)



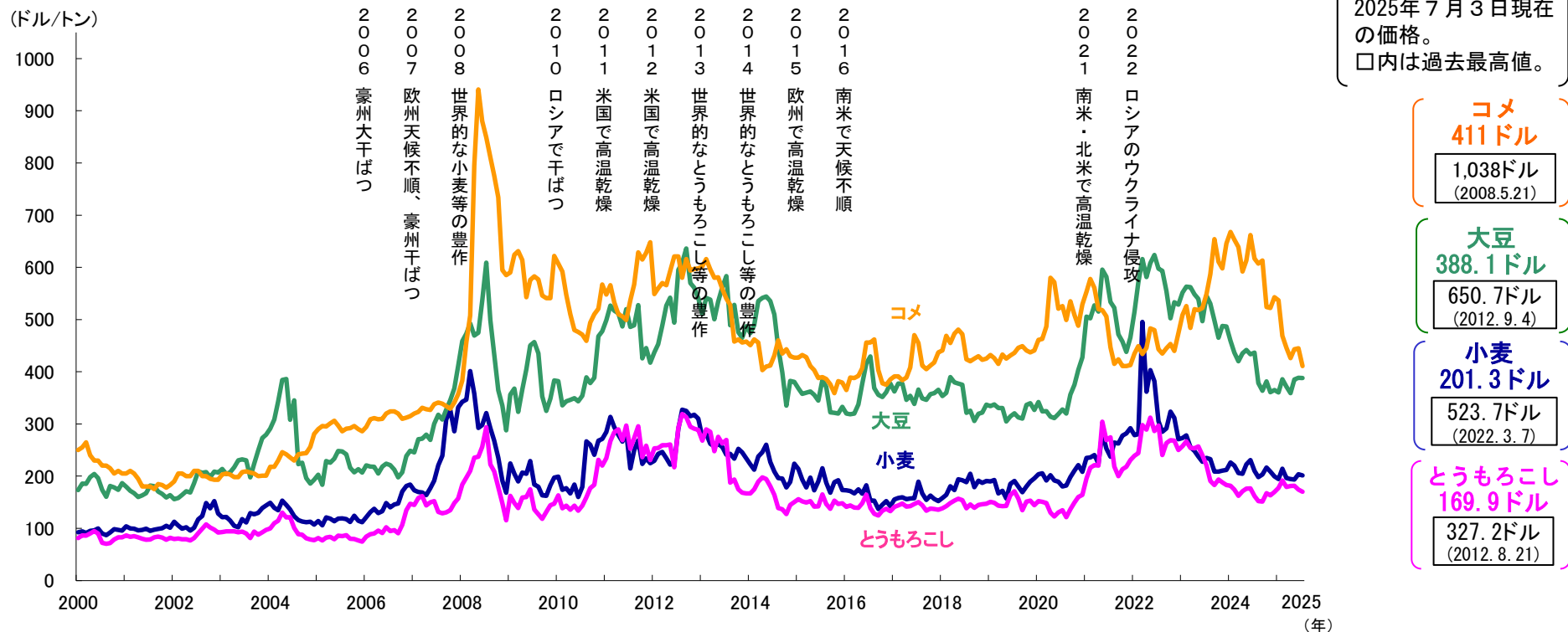
○ 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.7)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1－4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



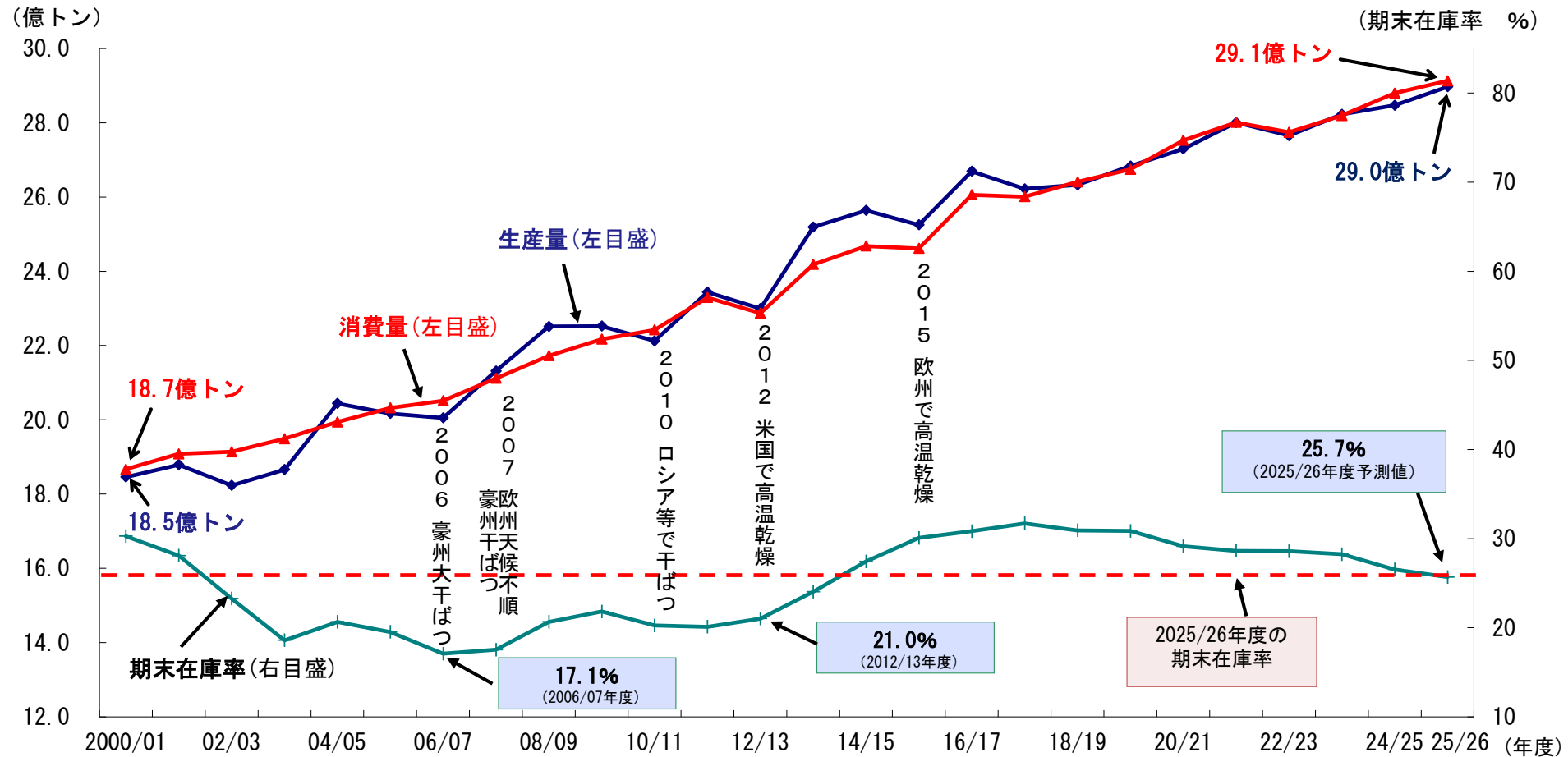
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。なお、7月4日（金）が休場のため、7月3日（木）の価格。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、25.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

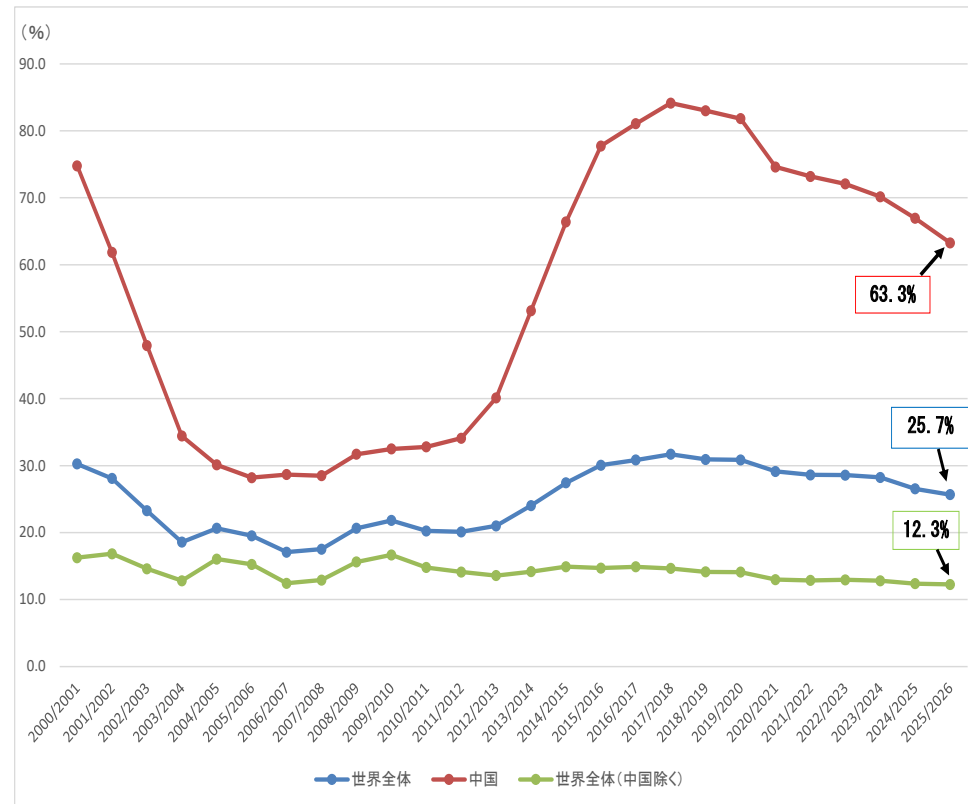


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2025)、「PS&D」

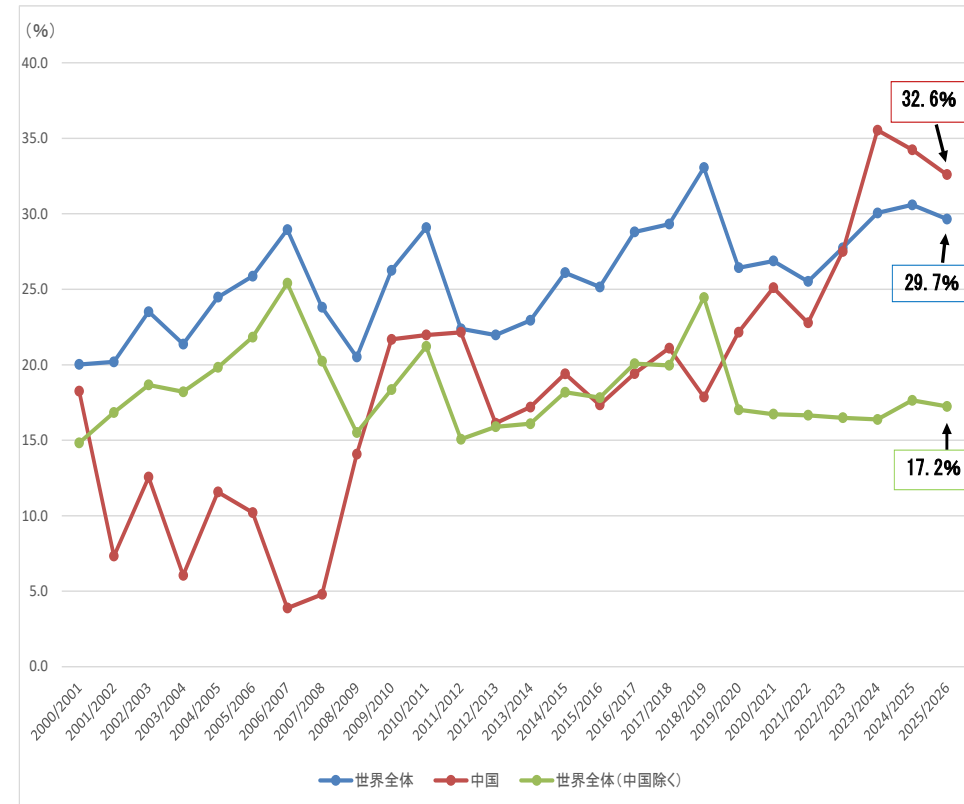
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(July 11, 2025)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

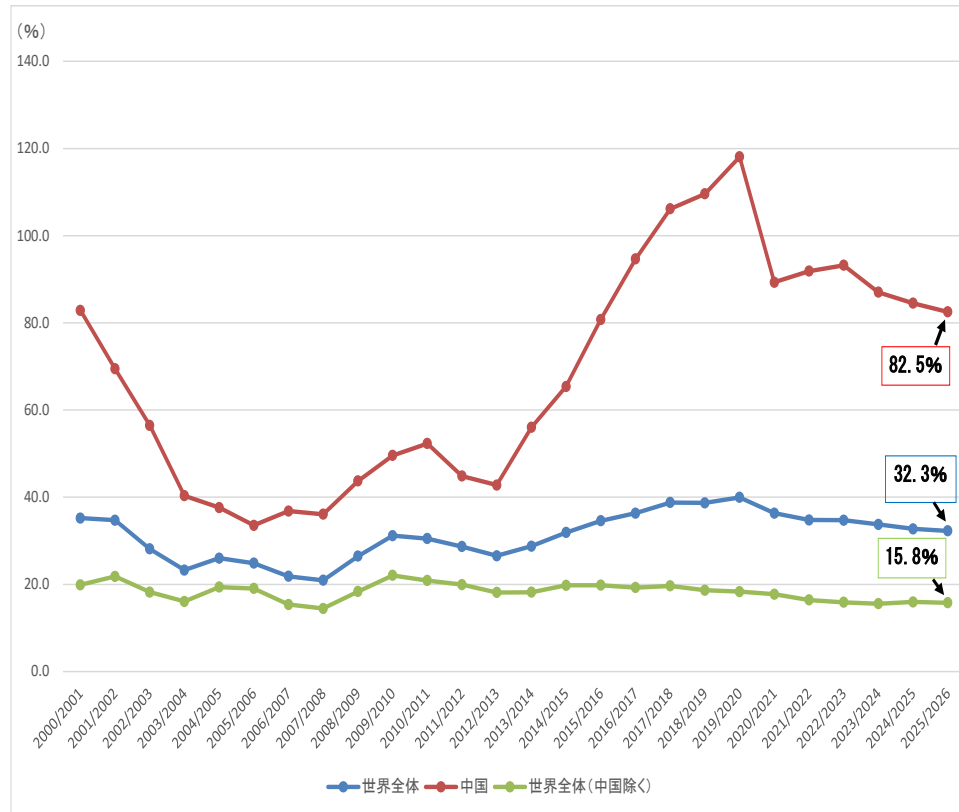
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

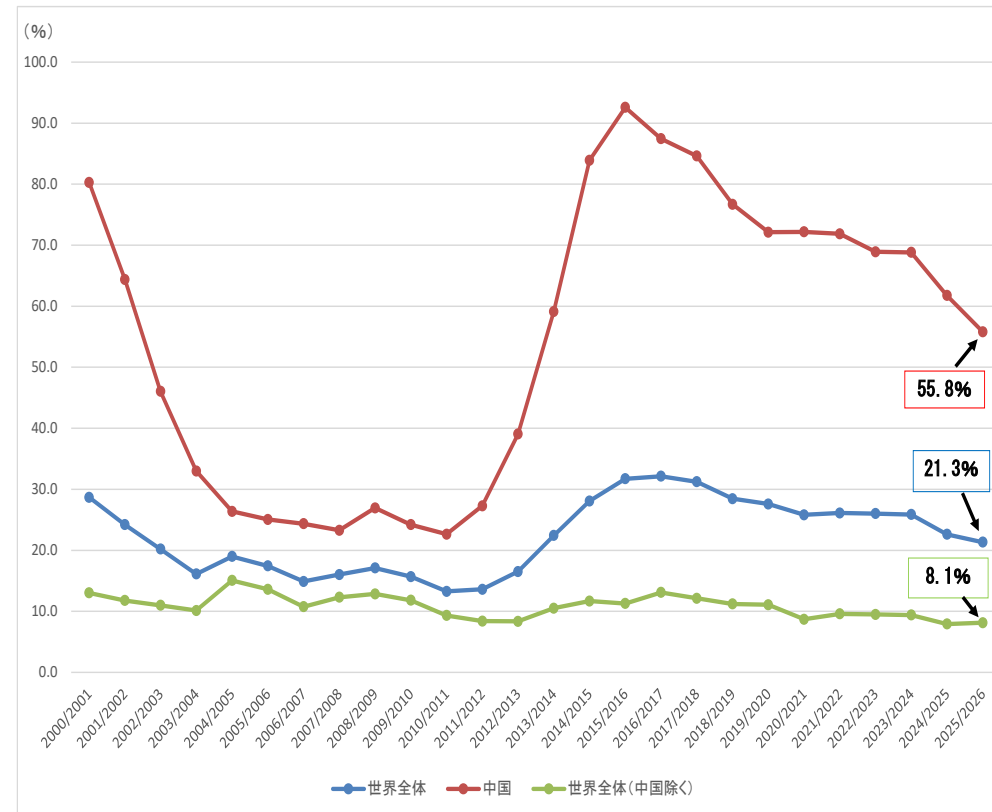
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 11, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

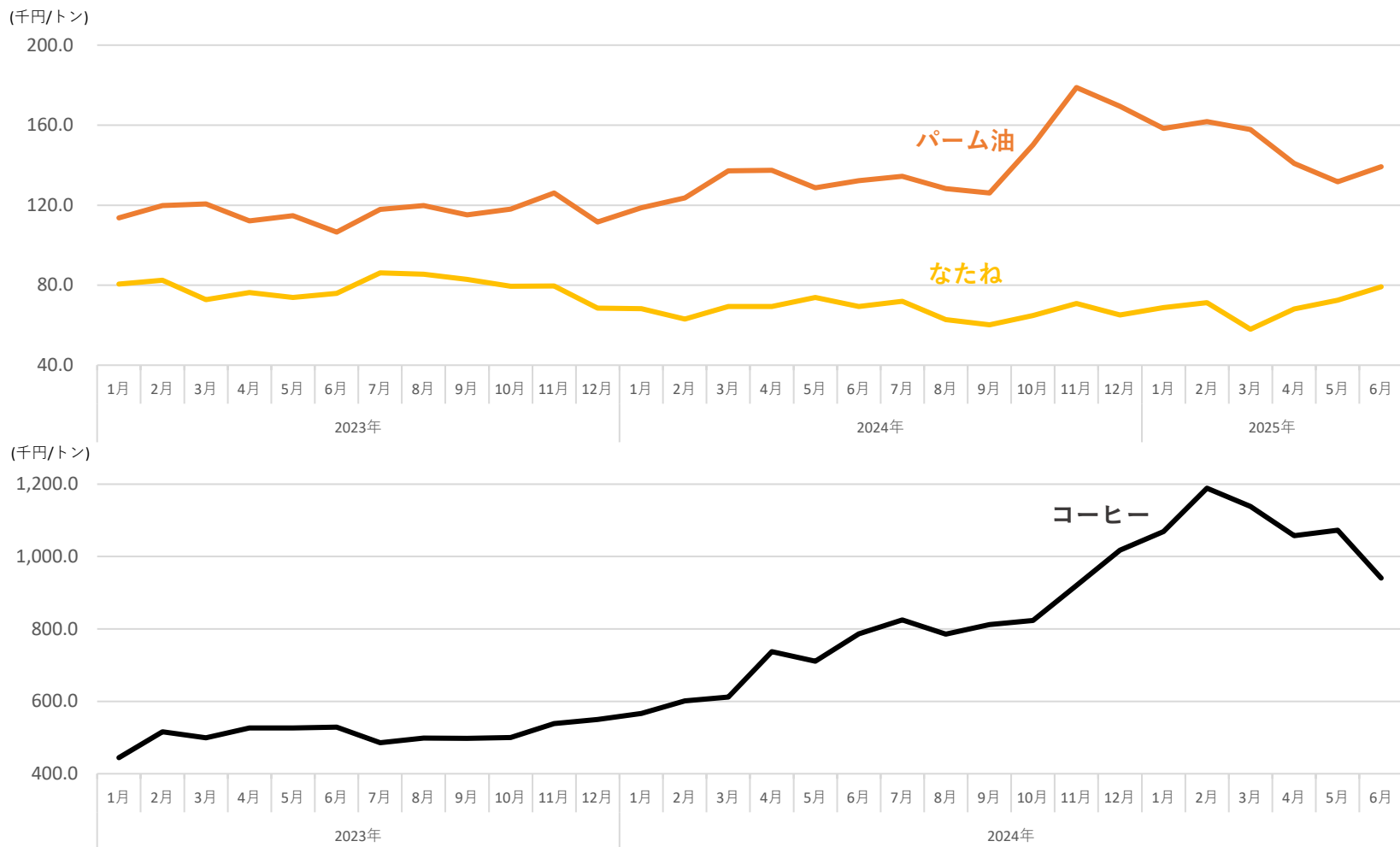
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇したが、直近ではマレーシアとインドネシアのパーム油生産量増加や在庫の増加見通し等により、価格は下落傾向にある。
- なたねについては、安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降上昇しているが、直近では米国の関税政策をめぐる不確実性等は残るものの、下落傾向で推移している。



2025年7月24日現在
□内は2023年1月以降
の最高値。

パーム油
139.2千円/トン

178.8千円/トン
(2024.11)

なたね
79.2千円/トン

86.2千円/トン
(2023.7)

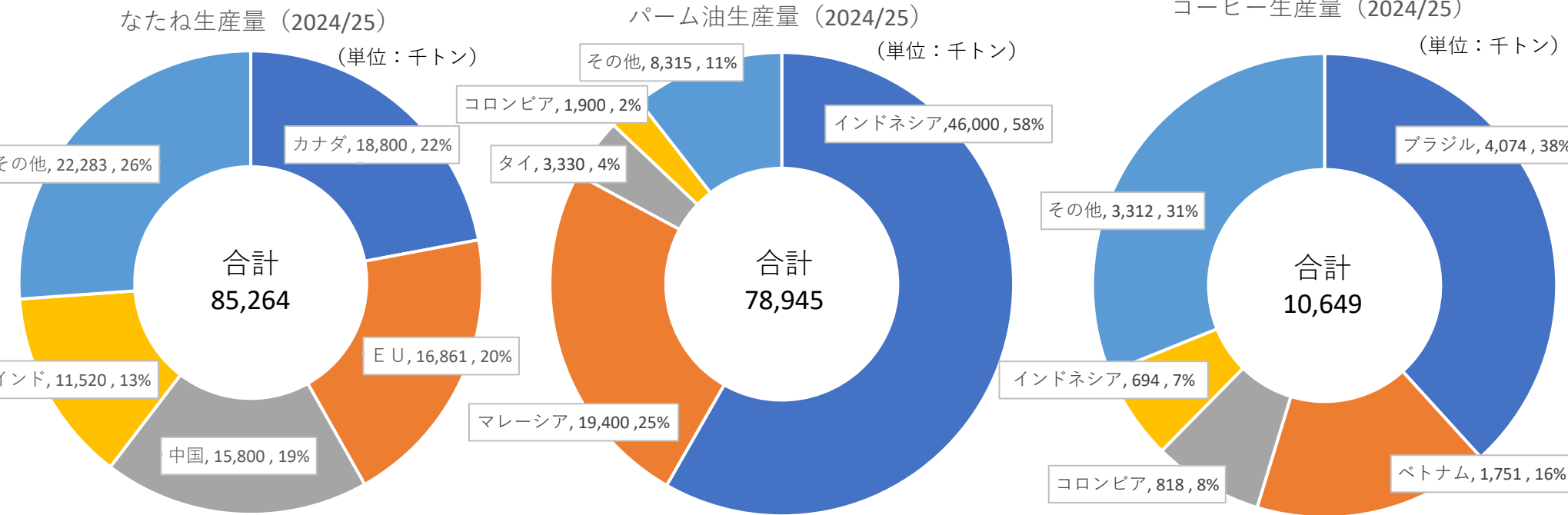
コーヒー
940.6千円/トン

1188.8千円/トン
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2025年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2025年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2025年7月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2024年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
オーストラリア	1,141	54.2%	マレーシア	561	85.6%	ブラジル	130	36.1%
カナダ	963	45.8%	インドネシア	94	14.4%	ベトナム	97	26.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.0%	コロンビア	36	10.0%
合計	2,104	100.0%	合計	655	100.0%	その他	97	26.9%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2	58.0	68.2	72.4	79.2						
前月比	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	103.7	81.4	117.6	106.3	109.4						
前年同月比	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	112.9	83.5	98.3	98.0	114.2						

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8	157.8	140.9	131.7	139.2						
前月比	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2	97.6	89.2	93.5	105.7						
前年同月比	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8	115.0	102.5	102.3	105.3						

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8	1138.7	1057.4	1072.9	940.6						
前月比	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2	95.8	92.9	101.5	87.7						
前年同月比	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8	186.2	143.5	150.9	119.6						

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年6月の国内の加工食品の消費者物価指数は117.7～151.8（前年同月比で-1.7%～5.5%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和7年1月～令和7年6月）

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和7年1月～令和7年7月）

	R4	R5	R6	R7								R4	R5	R6	R7									
品目	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前年 同月比)	品目	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	110.3	118.7	122.0	124.6	126.8	127.5	127.1	127.4	127.8	4.7%	食パン	107.8	114.5	117.9	122.5	124.0	124.5	124.7	124.0	124.2	125.3	0.9%	6.0%	
即席めん	107.6	119.7	122.4	118.0	121.2	120.8	119.1	121.0	119.3	-1.7%	即席めん	105.6	117.5	118.8	115.5	116.7	116.7	117.3	117.3	116.1	118.5	2.1%	-2.1%	
豆腐	105.3	114.6	118.2	119.4	119.3	120.1	120.4	120.6	121.8	3.3%	豆腐	103.7	113.0	116.4	118.5	118.0	117.6	120.7	119.8	119.8	118.5	-1.1%	2.2%	
食用油 (キャノーラ油)	144.4	160.2	148.6	149.0	147.6	149.2	147.5	149.3	149.8	0.5%	食用油 (キャノーラ油)	140.7	159.4	145.8	140.3	139.7	141.3	142.2	140.3	141.6	141.3	-0.2%	-1.1%	
みそ	101.3	108.1	113.6	114.5	114.8	115.3	116.1	118.0	117.7	3.4%	みそ	100.1	105.9	109.5	109.8	110.0	110.4	110.2	110.4	111.7	113.6	1.7%	3.3%	
マヨネーズ	125.6	149.5	153.1	153.9	152.8	152.0	151.9	153.7	151.8	-0.4%	マヨネーズ	117.7	139.8	141.2	140.6	139.9	138.9	138.9	140.3	139.6	139.6	0.0%	-0.5%	
チーズ	107.5	131.1	133.0	132.9	133.9	139.3	141.8	138.6	137.0	3.3%	チーズ	105.7	126.5	127.0	127.8	126.3	133.7	136.7	134.7	130.3	134.2	3.0%	3.8%	
バター	99.2	108.6	119.8	120.0	119.6	123.1	124.4	125.9	126.6	5.5%	バター	99.1	108.0	119.3	120.1	119.4	124.8	127.1	127.1	127.3	136.2	7.0%	13.8%	
生鮮食品を 除く食料	104.1	112.6	116.9	121.0	121.6	122.5	123.6	124.6	125.4	8.2%	注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。 注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。													

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料：総務省消費者物価指数

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年8月号（7月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）25年5月の牛肉生産量はかなりの程度減少、肥育牛価格は高値で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003827.html

（カナダ）24年の牛肉輸出量は前年比0.9%減、25年は前年並み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003828.html

（豪州）牛肉輸出は好調を維持、米国関税の影響は見られず

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003829.html

（アルゼンチン）25年1～4月の牛肉生産量は前年同期並み、一方、輸出量は大幅減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003830.html

◆豚肉

（米国）25年4月の豚肉輸出量、輸出競争の激化から前年同月比11.1%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003831.html

（EU）デンマークの豚枝肉卸売価格が上昇

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003832.html

（中国）豚肉小売価格は前年同月を上回るも下落傾向、豚肉輸入量は増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003833.html

◆牛乳・乳製品

（EU）25年4月の生乳出荷量、5カ月ぶりに前年同月上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003835.html

（豪州）生乳生産量の減少などを受け次年度乳価は引き上げ

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003836.html

（NZ）バターおよびチーズの輸出量は増加、GDT平均価格も上昇

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003837.html

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）25/26年度は消費量および輸出量の増加から期末在庫はやや減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003839.html

（世界・大豆）25/26年度の大豆生産量、輸出量は前月同、期末在庫はわずかに上方修正

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003840.html

（米国）米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003841.html

（ブラジル）24/25年度トウモロコシおよび大豆の生産量、いずれも前年度比増

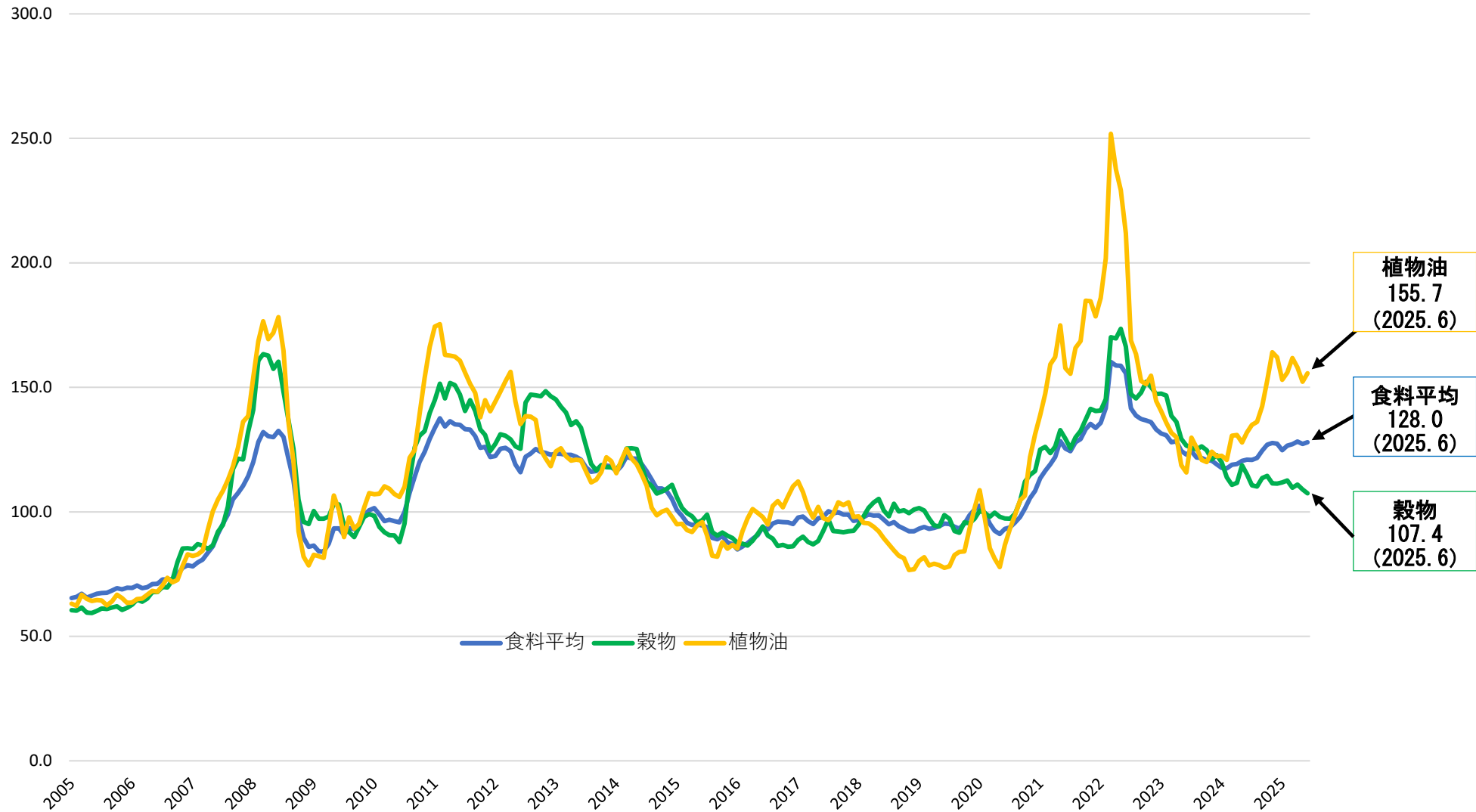
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003842.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003843.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.6)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

ベトナムの食料事情：農林水産業と貿易

1 はじめに

現在、ベトナムは1億人を超える人口、若い平均年齢（32歳）、人件費の安さなどによって、生産拠点としても、消費市場としても世界から注目される国となっています。ベトナム統計局によると、2024年の実質GDP成長率は7.1%、産業別では農林水産業が3.3%、鉱工業・建設業が8.2%、サービス業が7.4%とされています。

今回は、経済成長を続け工業国化を目指す現在のベトナムの農林水産業について紹介します。

2 ベトナムの農林水産業

ベトナムにおける2023年の名目GDPに占める農林水産業の割合は12.0%であり、農村人口は全人口の6割程度、農林水産業従事者は全事業の3割程度となっております。IMFによれば、2024年の1人当たりGDPは4,536ドルと増加傾向にあり、2045年までに先進国入りすることを目指して経済成長を続けるベトナムですが、農林水産業はいまだ重要な産業と言えます（表1）。

表1 経済指標比較（2023年）

	単位	ベトナム		日本	
		名目金額	GDP対比	名目金額	GDP対比
国内総生産（GDP）	億USD	4,297	100.0%	42,045	100.0%
うち農林水産業	億USD	514	12.0%	434	1.0%
1人当たりGDP	USD	4,317	—	33,845	—

資料：国際連合、IMFより作成。

（1）ベトナムにおける農林水産物の貿易状況

ベトナムは多くの農林水産物を輸出しており、2024年の農林水産物の輸出総額は前年比18.5%増加の624億ドル（9兆2,900億円程度）となり過去最高を記録し、貿易黒字も前年比53.1%増加の186億ドル（2兆7,690億円程度）と過去最高となりました（表2）。農林水産物のうち特に輸出額が大きい品目は、木材・木材製品、水産物、野菜・果物、コメ、コーヒーなどが挙げられます（表3）。

表2 品目別輸出額（ベトナム⇒世界）2024年

品目名	輸出額（億円）
木材・木製品	25,600
水産物	15,200
野菜・果物（生鮮・加工）	10,800
コメ	8,600
コーヒー	8,500
カシューナッツ	6,600
天然ゴム	5,200
コショウ	2,000
キャッサバ・キャッサバ製品	1,700
輸出額合計	92,900

表3 品目別輸出額（ベトナム⇒日本）2024年

品目名	輸出額（億円）
木材チップ	1,049
コーヒー生豆	537
えび	379
えび調製品	334
生鮮・乾燥果実	137
輸出額合計	6,306

資料：ベトナム統計総局、農林水産省「農林水産物輸出入概況（年別実績）」より作成

【今月のコラム】

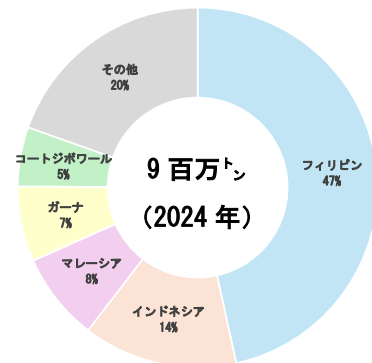
報道によると、2025 年上半期の農林水産物輸出額は 338 億 4,000 万ドル（前年同期比 15.5%増加）、貿易黒字は 98 億 3,000 万ドル（前年同期比 16.5%増加）となっています。特に、コーヒー（輸出額 54 億 5,000 万ドル、前年同期比 67.5%増加）、水産物（輸出額は 51 億 6,000 万ドル、前年同期比 16.9%増加）は大幅な増加が見られました。ベトナムの水産物は日本にも多く輸出されており、日本はアメリカ、中国に次ぐ第3位の輸出先国となっています。また、水産加工の分野では、複数の日系企業がベトナムに進出し、生産・販売・輸出に取り組んでいます。

（2）ベトナムのコメ生産・輸出

ベトナムは世界有数のコメ輸出国です。特に北部の红河デルタ、南部のメコンデルタが主要産地であり、北部では2期作、南部では3期作が可能です。USDA によれば、2024 年のコメの作付面積は7百万ヘクタール、収穫量は4千3百万トン、輸出量は9百万トン（輸出額 57 億ドル）となっており、主な輸出先はフィリピン、インドネシア、マレーシアなど ASEAN 地域が大部分を占めています（図1）。

また、2024 年の輸出額は前年比 20%増となっており、USDA によれば 2025 年の精米輸出量はベトナムがタイを抜いて世界2位（2024 年はタイに続く世界3位）となる見込みです。コメ生産・販売の分野にも複数の日系企業がベトナムに進出しており、現地農家と協力して、高品質なコメを生産し、ベトナム国内のほか、欧米や ASEAN 地域へ販売しています。

図1：ベトナムのコメの輸出先国

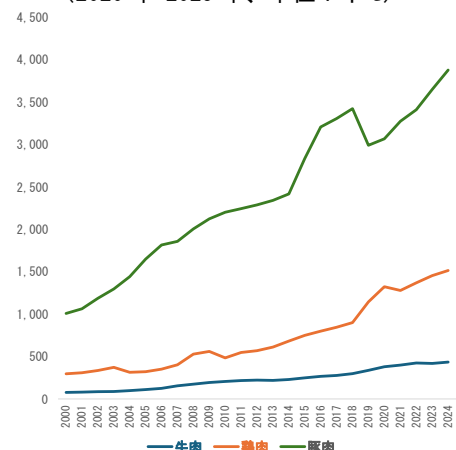


資料：ベトナム税関総局

（3）ベトナムの食肉消費・生産

ベトナムでは経済成長に伴い肉類の消費量及び生産量が増加しています（図2）。特に、1人当たり豚肉消費量は2023年の世界6位から、2024年には世界4位に急浮上しました。USDAによれば、ベトナムにおける豚肉及び鶏肉の国内消費量はそれぞれ3.9百万トン、1.5百万トンであるのに対して、牛肉は0.4百万トンに留まっています。今後、更なる経済成長に伴い、牛肉消費量の増加が見込まれており、ベトナム国内において高品質な牛肉の生産・販売に取り組む日系企業も現れています。

図2：ベトナムの国内食肉消費量の推移
（2020年-2025年、単位：千t）



資料：USDA「PS&D」より作成



写真1：肉売場の様子

【今月のコラム】

3 日本からベトナムへの農林水産物・食品の輸出

2024 年の日本からベトナムへの農林水産物・食品の輸出額は 862 億円（世界 6 位）でした。品目別では粉乳（111 億円）、ホタテ貝（106 億円）、清涼飲料水（40 億円）、さば（36 億円）、植木等（34 億円）となっています。

（1）粉乳

JETRO の調査によると、日本の粉乳は国別輸入金額・量ともに 1 位であり、現地で強い信頼を得ています。特に「安全・安心」の観点から、消費者から高く評価されています。今年に入ってから、成分を偽造した粉ミルクを製造・販売していたベトナム国内の組織が相次いで摘発されており、食品の安全性に対するベトナム国民の関心は一層高まっています。一方で、政府は食品安全管理の強化を目的とした法令改正を検討しており、輸入食品に関しては手続の煩雑化等が懸念されています。



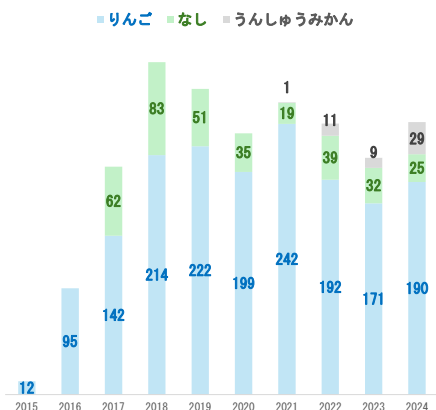
写真 2：粉乳売場の様子

（2）水産物

2024 年の日本からベトナムへの水産物の輸出額は 339 億円となり、2023 年の 238 億円から 4 割以上の増加となりました。この大幅な増加の主な要因は、ホタテの輸出額が 2023 年の 8 億円から、2024 年には 106 億円（前年比 1,225% 増加）へ急増したことです。JETRO の調査によると、中国による日本産水産物の輸入禁止後、2023 年から 2024 年にかけて、ベトナムは日本からのホタテ輸出額が最も増加した国となりました。また、2024 年以降、アメリカ向け輸出に対応するため、ベトナムでは、貝柱の膨潤化¹加工技術を習得した企業が増加しており、日本産ホタテを高く評価し、取引の意向を示す企業も多く見られます。

図 3：日本産果実の輸出額推移

（2015 年-2024 年、単位：百万円）



資料：財務省「貿易統計」より作成

（3）野菜・果実

2024 年の生鮮・加工の果物及び野菜の輸入額は 24 億 USD（3,600 億円）であり、主な輸入国は中国（1,500 億円）、アメリカ（810 億円）、オーストラリア（220 億円）、ミャンマー（210 億円）、ニュージーランド（160 億円）となっています。

2024 年に日本からベトナムに輸出された野菜・果実等の輸出額は 11 億円程度に留まっています。輸出拡大実行戦略で重点品目に位置付けられている果実のうち、りんご・なし・かんきつ（うんしゅうみかん）がベトナムへ輸出可能ですが、この 3 品目の合計輸出額は 2.4 億円程度です（図 3）。

¹ トリポリ・リン酸ナトリウム（STPP）等により、ホタテを加水加工すること。身が柔らかくなる一方で、貝柱自体は甘みやうまみを失い、色が真っ白になるため、加熱調理用に限られる。米国では主に膨潤化されたホタテが流通しており、米国向けに輸出する際に求められる加工技術。

【今月のコラム】

日本産果実の価格は他国産と比較して高価ですが、品質と安全性は評価されています。ベトナムの更なる経済成長による所得向上に伴い、日本産果実の輸出機会の増加が見込まれますので、引き続き、輸出品目の拡大、認知度の向上、年間を通じた安定供給等に努めることが重要と考えられます。



写真3：果物売場の様子

（4）コメ

財務省貿易統計によれば、2024年の日本からベトナムへのコメ（精米）の輸出量は181トン（50百万円）でした。ベトナム国内には多くの日本食レストラン（2023年：1,620店舗）がありますが、使用されているコメはベトナム産ジャポニカ米が多いようです。ベトナム産米は栽培・乾燥・精米など各過程の技術水準が日本ほど高くないため、品質面では日本産米に優位性があります。ベトナム在留邦人数は1万7千人で、国別で世界第15位となっています。また、日本には63万人以上のベトナム人が在留しています。こういった在留邦人や帰国ベトナム人をターゲットに日本産米の消費を拡大していくことが期待されます。



写真4：コメ売場の様子

文責：田中祐輔（在ベトナム日本国大使館 一等書記官）

【データ・出典】

JETRO「地域・分析レポート」：<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/7a41acc85494062a.html>

JETRO「ベトナム貿易投資年報」：<https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/gtir/>

JETRO「ベトナムにおけるホタテ加工の現状とベトナム水産加工事業者について」：

https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2025/a1e773a3c25b5166/rpvn202503_r.pdf

農林水産省「2024年農林水産物・食品の輸出実績（国・地域別）」：

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/attach/pdf/zisseki-259.pdf

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

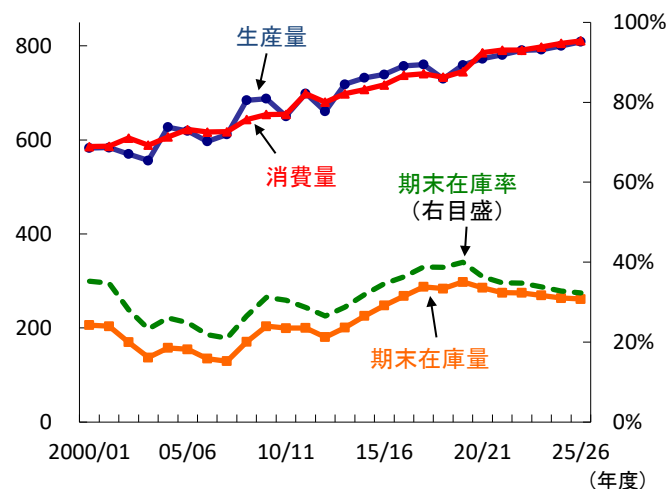
I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

＜USDA の見通し＞ 2025/26 年度		
生産量	前年度比	前月比
・カザフスタン、EU等で上方修正されたものの、カナダ、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。		
消費量	前年度比	前月比
・カナダ、インド等で下方修正されたものの、カザフスタン、タイ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。		
輸出量	前年度比	前月比
・ロシア、米国等で上方修正されたものの、EU、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。		
期末在庫量	前年度比	前月比

(百万トン)



資料:USDA「PS&D」(2025. 7. 11) をもとに農林水産省にて作成

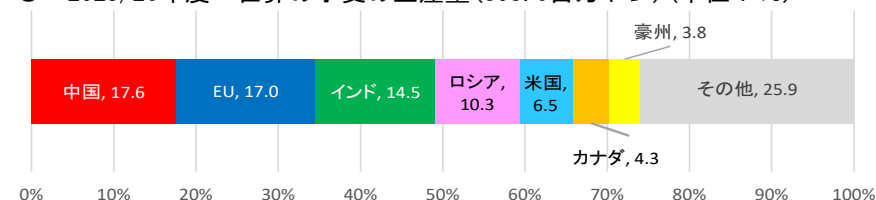
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

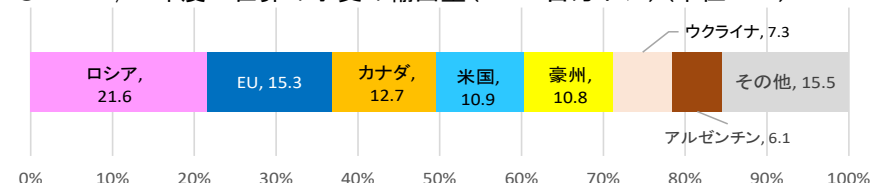
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	792.0	799.9	808.6	▲ 0.04	1.1
消費量	797.5	805.5	810.6	0.8	0.6
うち飼料用	159.1	154.8	156.1	0.3	0.9
輸出量	222.2	206.6	213.1	▲ 1.3	3.1
輸入量	223.0	198.0	208.8	▲ 2.1	5.5
期末在庫量	269.2	263.6	261.5	▲ 1.2	▲ 0.8
期末在庫率	33.8%	32.7%	32.3%	▲ 0.2	▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 July 2025)

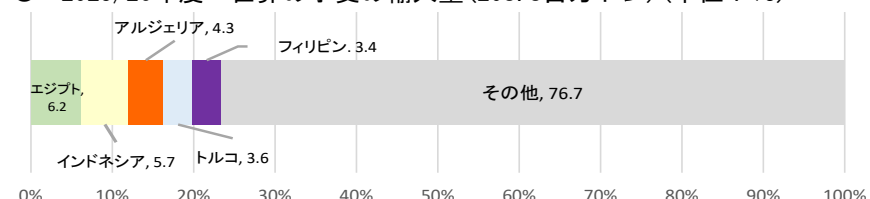
○ 2025/26年度 世界の小麦の生産量(808.6百万トン) (単位: %)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸出量(213.1百万トン) (単位: %)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸入量(208.8百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.2%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 52.5 百万トンと、収穫面積が前年度より減少することから前年度と比べ 2.2%減となるものの、過去 5 年平均 (48.4 百万トン) と比べ 8.5%増となる見込み。同「Acreage」(2025.6.30) によれば、2025/26 年度の作付面積は、1,840.4 万ヘクタールと前年度 (1,864.8 万ヘクタール) と比べ 1.3%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 1,348.6 万ヘクタールと前年度と比べ 0.2%減、春小麦も 406.5 万ヘクタールと同 5.5%減となる一方、デュラム小麦は 85.3 万ヘクタールと同 2.1%増となる見込み (表 1)。同「Crop Progress」(2025.7.14) によれば、7 月 13 日現在、2025/26 年度の冬小麦の収穫進捗率は、63%と前年同期 70%を下回っているものの、過去 5 年平均 64%と同水準となっている。春小麦は 78%が出穂 (前年同期 74%、過去 5 年平均 75%) している。作柄評価は、乾燥により「良～優良」の割合が 54%と、前年同期 77%を大きく下回っており、特にモンタナ州及びワシントン州の作柄が悪くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ及び年度当初の好調な販売を受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 23.1 百万トンと、前年度と比べ 2.9%増、過去 5 年平均 (22.2 百万トン) と比べても 4.1%増となる見込み。同「Wheat Outlook」(2025.6.16) によれば、2025/26 年度の輸出量は、2025/26 年度の実産量が過去 5 年平均比では増加していること、期末在庫量も 3 年連続で増加していること、ドル安により米国の小麦価格は他の輸出国と比べ競争力があることなどから、2020/21 年度 (27.0 百万トン) 以降最高となる見込み。一方で、他の輸出国の供給増により、米国の輸出量の劇的な増加は予想されておらず、主な競争相手国はロシア及び EU と見込まれている。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 22.5 百万トンと、前年度と比べ 17.0%増となる見込み。同「Global Agricultural Trade System」によれば、2024/25 年度の輸出量は、2,193.5 万トンと前年度と比べ 18.2%増。輸出先国別には、メキシコ 400.8 万トン (18.3%)、フィリピン 245.0 万トン (11.2%)、韓国 238.7 万トン (10.9%) の順となっている。一方で、中国への輸出は 15.3 万トン (0.7%) と大きく減少している (表 2)。

2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 24.2 百万トンとなるものの、前年度と比べ 4.7%増となる見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年6月～26年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.1	53.7	52.5	0.2	▲ 2.2
消 費 量	30.2	31.0	31.5	-	1.6
うち飼料用	2.3	2.8	3.3	-	16.4
輸 出 量	19.2	22.5	23.1	0.7	2.9
輸 入 量	3.8	4.1	3.3	-	▲ 19.3
期末在庫量	19.0	23.2	24.2	▲ 0.2	4.7
期末在庫率	38.4%	43.3%	44.3%	▲ 1.0	1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.01	15.57	14.83	▲ 0.24	▲ 4.8
単収(t/ha)	3.27	3.45	3.54	0.07	2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 July 2025)

表 1 米国の小麦の作付面積

	2024/25年度 (万ヘクタール)	2025/26年度 (万ヘクタール)	対前年度 増減率 (%)
冬小麦	1,351.3	1,348.6	-0.2
春小麦	430.0	406.5	-5.5
デュラム小麦	83.5	85.3	2.1
小麦計	1,864.8	1,840.4	-1.3

資料：USDA 「Acreage」(2025.6.30)をもとに農林水産省で作成

表 2 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年6月～2025年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	325.7	17.6	メキシコ	400.8	18.3
フィリピン	270.7	14.6	フィリピン	245.0	11.2
中国	203.6	11.0	韓国	238.7	10.9
日本	197.1	10.6	日本	215.1	9.8
韓国	128.7	6.9	台湾	103.5	4.7
台湾	110.5	6.0	タイ	93.2	4.2
その他	619.6	33.4	その他	897.2	40.9
計	1,855.9	100.0	計	2,193.5	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.5%減の見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2025.7.21）によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 34.4 百万トンと、史上 3 番目の生産量となった前年度（35.0 百万トン）と比べ 1.5%減となるものの、過去 5 年平均（32.1 百万トン）と比べ 7.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が収穫面積の引下げを受け前月予測から下方修正され 28.9 百万トンと、前年度（29.1 百万トン）と比べ 0.8%減。デュラム小麦は収穫面積の引上げを受け上方修正され 5.6 百万トンと、前年度（5.9 百万トン）と比べ 5.1%減となるものの、過去 5 年平均（5.1 百万トン）と比べ 9.9%増となる見込み。カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2025」（2025.6.27）によれば、2025/26 年度の作付面積は、10.90 百万ヘクタールと前年度と比べ 1.0%増となる見込み。種類別には、春小麦が 7.61 百万ヘクタールと前年度と比べ 0.7%減となる一方、デュラム小麦が 2.64 百万ヘクタールと同 2.6%増、冬小麦も 0.64 百万ヘクタールと同 18.2%増となる見込み（表 1）。USDA「World Agricultural Production」（2025.7.11）によれば、冬小麦の大半は良好な状態で登熟期を迎えている。春小麦は、最近の降雨により土壌水分の状態が改善した地域がある一方、乾燥が続いている地域では作物にストレスを与えている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出力は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 25.7 百万トンと、前年度と比べ 5.5%減となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.1 百万トンと前年度比 3.2%減、デュラム小麦が 4.6 百万トンと前年度比 14.8%減となる見込み。

2024/25 年度の輸出力は、好調な輸出を受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 27.2 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）比 7.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.8 百万トンと前年度比 0.1%増、デュラム小麦は 5.4 百万トンと生産量の回復による輸出余力の増大等を受け、前年度（3.5 百万トン）と比べ 52.2%増となる見込み。カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 5 月の輸出力は、2,322.4 万トンと、前年同期（2,132.5 万トン）と比べ 8.9%増。種類別には、普通小麦が 1,832.1 万トンと前年同期（1,828.1 万トン）と比べ 0.2%増。輸出先国別には、インドネシア 194.4 万トン（10.6%）、日本 158.8 万トン（8.7%）、中国 156.7 万トン（8.6%）の順。デュラム小麦は 490.3 万トンと前年同期（304.3 万トン）と比べ 61.1%増。国別には、アルジェリア 141.6 万トン（28.9%）、モロッコ 94.4 万トン（19.3%）、イタリア 78.6 万トン（16.0%）の順（表 2）。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)					
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	35.0	35.0 (34.4)	▲ 1.0	0.1
消 費 量	9.1	9.0	8.8 (8.6)	▲ 0.5	▲ 2.8
うち飼料用	4.0	3.8	3.5 (4.1)	▲ 0.5	▲ 7.9
輸 出 量	25.4	27.5	27.0 (25.7)	-	▲ 1.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	0.1	-
期末在庫量	4.6	3.6	3.5 (4.3)	▲ 0.9	▲ 4.1
期末在庫率	13.3%	10.0%	9.8% (12.6%)	▲ 2.3	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	10.65	10.70 (10.75)	▲ 0.20	0.5
単収(t/ha)	3.08	3.28	3.27 (3.20)	▲ 0.03	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 July 2025)

表 1 カナダの小麦作付面積の推移 (単位：万ヘクタール)

	2023/24年度	2024/25年度	2025/26年度	対前年度 増減率(%)
春小麦	789.0	766.6	761.2	-0.7
デュラム小麦	244.2	257.6	264.3	2.6
冬小麦	58.6	54.3	64.1	18.2
小麦計	1,091.8	1,078.4	1,089.6	1.0

資料：カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2025」
(2025. 6. 27) をもとに農林水産省で作成

表 2 カナダ産小麦の輸出力と輸出先国

○普通小麦 (輸出力：万トン、シェア：%)									
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)			
国 名	輸出力	シェア	国 名	輸出力	シェア	国 名	輸出力	シェア	
中国	310.3	14.7	中国	279.8	15.3	インドネシア	194.4	10.6	
インドネシア	251.9	11.9	インドネシア	210.9	11.5	日本	158.8	8.7	
日本	173.9	8.2	バングラデシュ	164.2	9.0	中国	156.7	8.6	
バングラデシュ	172.7	8.2	日本	148.6	8.1	ベルギー	134.7	7.4	
ベルギー	137.3	6.5	ベルギー	110.7	6.1	コロンビア	106.3	5.8	
その他	1,069.2	50.5	その他	914.0	50.0	その他	1,081.3	59.0	
計	2,115.3	100.0	計	1,828.1	100.0	計	1,832.1	100.0	
○デュラム小麦 (輸出力：万トン、シェア：%)									
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)			
国 名	輸出力	シェア	国 名	輸出力	シェア	国 名	輸出力	シェア	
アルジェリア	89.3	26.0	アルジェリア	86.3	28.4	アルジェリア	141.6	28.9	
モロッコ	81.7	23.8	モロッコ	70.3	23.1	モロッコ	94.4	19.3	
米国	46.2	13.5	イタリア	39.1	12.8	イタリア	78.6	16.0	
イタリア	44.7	13.0	米国	36.4	12.0	米国	45.4	9.3	
日本	21.2	6.2	日本	18.6	6.1	日本	19.2	3.9	
その他	60.4	17.6	その他	53.6	17.6	その他	111.1	22.7	
計	343.5	100.0	計	304.3	100.0	計	490.3	100.0	

資料：CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 4.5%増の見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」 (2025.6.3) によれば、2025/26 年度の生産量は、30.6 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから前年度 (34.1 百万トン) と比べ 10.4%減、過去 5 年平均 (33.8 百万トン) と比べ 9.5%減となる見込み。州別には、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) が 11.0 百万トン (前年度比 13.0%減)、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 9.7 百万トン (同 24.8%減)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 1.9 百万トン (同 17.0%減) と平年並みの天候になるとの予想から、豊作だった前年度に比べ減少する一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) が 4.2 百万トン (同 50.2%増)、ビクトリア州 (VIC 州) が 3.8 百万トン (同 8.6%増) と乾燥が続いているものの前年度に比べ生産量が増加する見込み (図)。他方、USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 31.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから前年度と比べ 9.1%減、過去 5 年平均 (33.8 百万トン) と比べ 8.2%減となる見込み。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) 「Crop Report」 (2025.7.11) によれば、WA 州の 2025/26 年度冬小麦の作付面積は、小麦から大麦へ作付転換が行われたこと等から、前月予測から 10.5 万ヘクタール下方修正され 429.5 万ヘクタールとなり、生産量は 9.4 百万トンとなる見込み。

現地情報会社の 7 月 11 日の情報によれば、WA 州の生産地域では、6 月を通じて適切な降雨があり小麦の生育は順調である一方、NSW 州では乾燥により降雨が必要な状況となっている。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2025/26 年度の輸出量は、23.0 百万トンと期首在庫量が増加することから前年度 (22.0 百万トン) と比べ 4.5%増加するものの、過去 5 年平均 (24.9 百万トン) と比べ 7.8%減となる見込み。他方、USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.0 百万トンと、生産量が減少することから、前年度と比べ 8.0%減、過去 5 年平均 (25.6 百万トン) と比べ 10.1%減となる見込み。

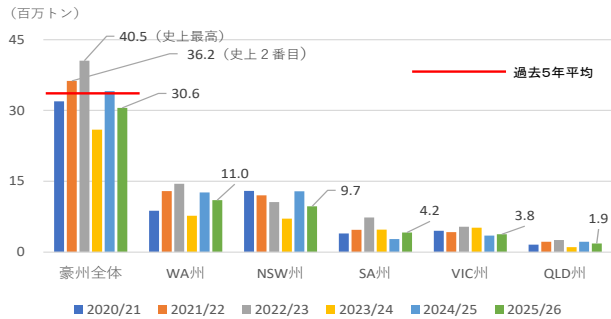
ABARES によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 5 月の輸出量は、1,513.6 万トンと前年同期 (1,486.1 万トン) と比べ 1.9%増。輸出先国別には、インドネシア 254.2 万トン (16.8%)、フィリピン 206.4 万トン (13.6%)、タイ 139.6 万トン (9.2%) の順で、中国は 81.3 万トン (5.4%) と大きくシェアを減少させている (表)。2025/26 年度の期末在庫量は、4.9 百万トンと生産量の減少及び輸出量の増加等を受け前年度 (6.1 百万トン) と比べ 19.6%減となる見込み。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	26.0	34.1	31.0 (30.6)	-	▲ 9.1
消費量	7.8	8.0	8.1 (8.8)	-	1.3
うち飼料用	4.3	4.5	4.6 ...	-	2.2
輸 出 量	19.8	25.0	23.0 (23.0)	-	▲ 8.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 ...	-	▲ 13.0
期末在庫量	2.9	4.3	4.4 (4.9)	0.03	2.4
期末在庫率	10.5%	12.9%	14.0% (15.5%)	0.1	1.1
(参考)					
収穫面積 (百万ha)	12.37	13.06	12.50 (12.63)	-	▲ 4.3
単収 (t/ha)	2.10	2.61	2.48 (2.42)	-	▲ 5.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 July 2025)
ABARES 「Australian Crop Report」 (3 June 2025)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」 (2025. 6. 3) をもとに
農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	375.6	19.0	中国	360.2	24.2	インドネシア	254.2	16.8
インドネシア	323.5	16.3	インドネシア	246.7	16.6	フィリピン	206.4	13.6
フィリピン	233.7	11.8	フィリピン	146.5	9.9	タイ	139.6	9.2
イエメン	152.2	7.7	イエメン	114.5	7.7	ベトナム	103.3	6.8
韓国	123.5	6.2	日本	87.6	5.9	韓国	98.2	6.5
日本	120.6	6.1	ベトナム	85.8	5.8	イエメン	95.5	6.3
その他	651.8	32.9	その他	444.9	29.9	その他	616.4	40.7
計	1,980.8	100.0	計	1,486.1	100.0	計	1,513.6	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 14.6%増の見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2025.6.26) によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 1.6 百万トン上方修正され 136.2 百万トンと、主産国で生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度 (118.9 百万トン) から生産量が回復することから、前年度と比べ 14.6%増、過去 5 年平均 (129.5 百万トン) と比べ 5.2%増となる見込み(図)。このうち、普通小麦は、128.2 百万トンと、フランス、ドイツ等で生産量が回復することから前年度と比べ 14.8%増、過去 5 年平均と比べ 5.1%増となる見込み。デュラム小麦もイタリアで増産となること等から 8.0 百万トンと、前年度と比べ 10.8%増、過去 5 年平均と比べ 6.5%増となる見込み。

同「JRC MARS Bulletin - Crop monitoring in Europe」(2025.6.23) によれば、フランス中部、ドイツ東部、ポーランド西部、ハンガリー等の一部地域では乾燥による作柄悪化、イタリア北部では降雨過多による秋播き作物の作柄悪化が懸念されているものの、スペイン、ポルトガル、ルーマニア、ブルガリア、ギリシャ等の秋播き作物の作柄は良好であり、EU 全体では生産量の増加が見込まれている。

【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 30.7 百万トンと、減産の前年度から生産量が回復することから前年度 (24.7 百万トン) と比べ 24.2%増となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 4 月の輸出量は、2,209.8 万トンと、減産により前年同期 (3,114.2 万トン) と比べ 29.0%減。種類別には、普通小麦が 2,140.8 万トンと、前年度と比べ 29.6%減。デュラム小麦も 69.0 万トンと、同 3.2%減 (表)。USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.7.11) によれば、EU は 2024/25 年度の生産量が大きく減少し、ロシア及びウクライナに北アフリカへの輸出シェアを奪われ、同地域への輸出シェアは 25%強まで低下した。

EC によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 5.4 百万トンと、ウクライナからの輸入が減少すると見込まれることから前年度 (10.3 百万トン) と比べ 48.1%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 4 月の輸入量は、888.7 万トンと、ウクライナやロシアからの輸入が減少したこと等から前年同期 (1,029.4 万トン) と比べ 13.7%減。種類別には、普通小麦が 714.5 万トンと、前年度と比べ 11.9%減。デュラム小麦も 174.2 万トンと、同 20.4%減 (表)。

2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.9 百万トン下方修正され 9.3 百万トンと、前年度 (10.5 百万トン) と比べ 11.2%減となる見込み。

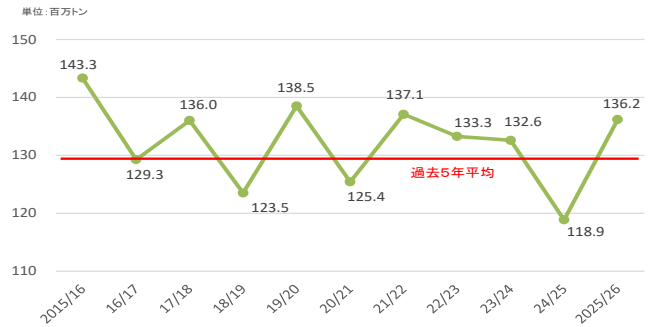
小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)			
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.4	122.1	137.3 (136.2)	0.7	12.4	
消 費 量	110.5	109.8	111.0 (112.0)	-	1.1	
うち飼料用	46.5	45.5	46.5 (46.7)	-	2.2	
輸 出 量	38.0	26.5	32.5 (30.7)	▲ 2.0	22.6	
輸 入 量	12.7	10.7	6.5 (5.4)	▲ 3.0	▲ 39.3	
期末在庫量	15.8	12.4	12.6 (9.3)	▲ 0.3	2.0	
期末在庫率	10.6%	9.1%	8.8% (6.5%)	▲ 0.1	▲ 0.3	

(参考)
収穫面積(百万ha) 24.32 22.70 24.00 (23.38) - 5.7
単収(t/ha) 5.57 5.38 5.72 (5.83) 0.03 6.3
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(26 June 2025)

図 EUの小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.6.26)
をもとに農林水産省で作成

表 EUの小麦の輸出量及び輸入量

〇輸出量					〇輸入量						
2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)			
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5	モロッコ	304.8	13.8	ウクライナ	647.1	53.9	ウクライナ	430.3	48.4
アルジェリア	396.7	11.0	アルジェリア	279.2	12.6	カナダ	138.5	11.5	カナダ	206.9	23.3
ナイジェリア	348.9	9.6	ナイジェリア	237.4	10.7	ロシア	82.1	6.8	モルドバ	56.6	6.4
中国	237.2	6.5	英国	157.0	7.1	トルコ	76.7	6.4	米国	55.6	6.3
エジプト	178.2	4.9	エジプト	145.9	6.6	モルドバ	72.9	6.1	セルビア	46.5	5.2
サウジアラビア	153.8	4.2	サウジアラビア	90.0	4.1	カザフスタン	56.8	4.7	英国	32.6	3.7
その他	1,817.3	50.2	その他	995.5	45.1	その他	126.4	10.5	その他	60.1	6.8
合計	3,621.2	100.0	合計	2,209.8	100.0	合計	1,200.5	100.0	合計	888.7	100.0

資料: EC 「EU trade for cereals」(2025.6.20)をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.3%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引上げを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 83.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することから前年度と比べ 2.3%増となるものの、過去 5 年平均（85.1 百万トン）と比べ 1.9%減となる見込み。種類別には、冬小麦は前月予測から 1.5 百万トン上方修正され 60.5 百万トンと、前年度（55.8 百万トン）に比べ 8.4%増となる一方、春小麦は前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 23.0 百万トンと、前年度（25.8 百万トン）と比べ 10.9%減となる見込み。

同「World Agricultural Production」（2025.7.11）によれば、冬小麦の主要生産地である欧州部では、2024 年秋、2025 年早春に乾燥に見舞われたが、5 月の降雨により冬小麦の作柄は回復し生産量見通しが向上した。一方、春小麦は、当初の作付進捗は早かったものの、主要生産地の広範囲にわたる降雨のため、進捗は大幅に減速した。6 月 27 日現在の春小麦の作付面積は 11.2 百万ヘクタールと、作付予定面積 12.3 百万ヘクタール、前年度 12.6 百万ヘクタールをそれぞれ大きく下回っている（図）。

現地情報会社によれば、7 月 11 日現在、2025/26 年度小麦の収穫進捗は、収穫面積が前年同期と比べ 338 万ヘクタール減の 335 万ヘクタールとなっており、南部の乾燥と高温により収穫は例年よりも早く始まったものの、降雨によりその後の進捗は遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の引上げ等により前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 46.0 百万トンと、生産量が増加することから前年度と比べ 7.0%増、過去 5 年平均（44.1 百万トン）と比べ 4.3%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 43.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 22.5%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べ 1.4%増となる見込み。現地情報会社によれば、2024/25 年度の輸出量は、4,073.4 万トンと前年同期（5,416.1 万トン）と比べ 24.8%減となっている。輸出先国別には、エジプト 821.2 万トン（20.2%）、トルコ 310.4 万トン（7.6%）、バングラデシュ 277.3 万トン（6.8%）の順。前年度同様にエジプトが首位である一方、第 2 位のトルコは、トルコ政府による輸入制限措置によりシェアが減少した（表）。

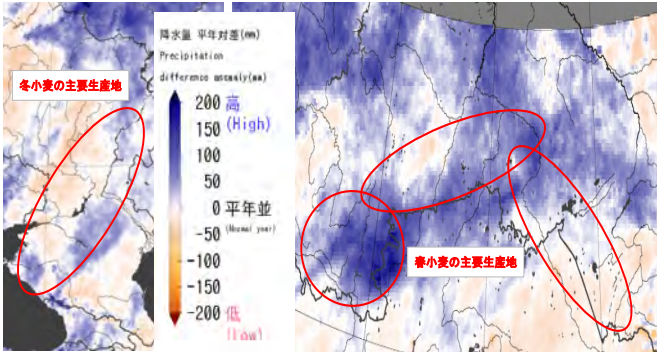
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 9.4 百万トンと、前年度と比べ 11.3%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	91.5	81.6	83.5 (81.7)	0.5	2.3
消 費 量	39.0	40.0	39.0 (39.1)	-	▲ 2.5
うち飼料用	16.0	17.0	16.0 (16.1)	-	▲ 5.9
輸 出 量	55.5	43.0	46.0 (43.0)	1.0	7.0
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.5)	-	-
期末在庫量	11.7	10.6	9.4 (9.4)	-	▲ 11.3
期末在庫率	12.4%	12.8%	11.0% (11.4%)	▲ 0.1	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.83	27.80	26.70 (26.36)	▲ 0.50	▲ 4.0
単収(t/ha)	3.17	2.94	3.13 (3.10)	0.08	6.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

図 ロシアの降水量平年対差（2025 年 5 月）



資料：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	877.8	16.2	エジプト	821.2	20.2
トルコ	693.6	12.8	トルコ	310.4	7.6
バングラデシュ	380.9	7.0	バングラデシュ	277.3	6.8
アルジェリア	241.3	4.5	アルジェリア	173.4	4.3
サウジアラビア	231.2	4.3	イスラエル	163.9	4.0
その他	2,991.3	55.2	その他	2,327.2	57.1
合計	5,416.1	100.0	合計	4,073.4	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 6.0%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の引下げを受け前月予測から1.0百万トン下方修正され22.0百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから前年度と比べ6.0%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べ21.2%減となる見込み。

同「World Agricultural Production」（2025.7.11）によれば、2025/26年度の単収は、前月予測から下方修正され4.40トン/ヘクタールとなるものの、直近2022/23～2024/25年度の平均単収4.31トン/ヘクタールは上回る見込み。冬小麦は、冬と春先は乾燥していたものの、その後、天候が回復し全般的に良好な生育条件のもとで開花、登熟が進み収穫が始まっている。現在の天候は乾燥しており、冬小麦の収穫には好条件であるものの、春小麦の生育には悪影響を与える可能性がある（図）。現地情報会社によれば、7月10日現在の冬小麦の収穫進捗率は、8.7%と高温乾燥により収穫が早まった前年同期（31.0%）と比べ遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26年度の輸出量は、生産量の引下げを受け前月予測から1.0百万トン下方修正され15.5百万トンと、生産量の減少等から前年度と比べ2.5%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べ14.4%減となる見込み。

EUは、2022年6月からウクライナ製品の輸入に関し、輸入関税及び輸入割当を停止してきた。当該措置は本年6月5日に失効し、6月30日に新たな貿易措置についてウクライナと合意したと発表した。小麦及びメスリンに対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンとなった。報道によれば、ウクライナは、EUへの小麦輸出が減少するため、北アフリカやアジアへの輸出に一層注力するとみられる。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度の輸出量は、1,562.2万トンと、前年同期（1,840.6万トン）と比べ15.1%減となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し96.4%の輸出となった。輸出先国別には、スペイン326.1万トン（20.9%）、エジプト211.1万トン（13.5%）、アルジェリア195.1万トン（12.5%）の順（表）。現地情報会社によれば、アルジェリアやアジア諸国のシェア増加の要因は、アルジェリアは同国で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要増や遠方への輸出が安定してきたことによる。

USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は、期首在庫量の増加を受け前月予測から0.1百万トン上方修正され1.6百万トンと、前年度同となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

（単位：百万トン）

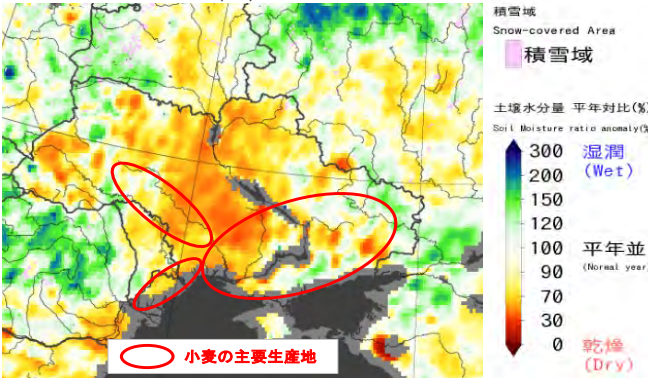
年 度	2023/24	2024/25 （見込み）	2025/26（25年7月～26年6月）			
			予測値、（ ）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	23.0	23.4	22.0（25.1）	▲ 1.0	▲ 6.0	
消 費 量	6.7	6.7	6.6（8.9）	-	▲ 1.5	
うち飼料用	2.0	2.0	2.0（1.4）	-	-	
輸 出 量	18.6	15.9	15.5（16.3）	▲ 1.0	▲ 2.5	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1（0.1）	-	25.0	
期末在庫量	0.7	1.6	1.6（0.8）	0.1	-	
期末在庫率	2.8%	7.0%	7.2%（3.0%）	0.7	0.2	

（参考）

収穫面積（百万ha）	5.01	5.20	5.00（6.10）	-	▲ 3.8
単収（t/ha）	4.59	4.50	4.40（4.12）	▲ 0.20	▲ 2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 July 2025）、
IGC 「Grain Market Report」（26 June 2025）

図 ウクライナの土壌水分量年対比
2025/7/1 ～ 15



資料：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 （2023年7月～2024年6月）			2024/25年度 （2024年7月～2025年6月）		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	589.9	32.1	スペイン	326.1	20.9
エジプト	172.1	9.3	エジプト	211.1	13.5
インドネシア	151.5	8.2	アルジェリア	195.1	12.5
トルコ	107.8	5.9	インドネシア	158.8	10.2
ルーマニア	100.1	5.4	ベトナム	104.7	6.7
その他	719.2	39.1	その他	566.5	36.3
合計	1,840.6	100.0	合計	1,562.2	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024/25 年度の輸入量は前年度から 70.7%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 142.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が増加することから史上最高の生産量となった前年度と比べ 1.4%増、過去 5 年平均（137.1 百万トン）と比べ 3.6%増となり史上最高を更新する見込み。

中国国家统计局（2025.7.10）によれば、2025/26 年度の夏季産小麦の作付面積は、23.07 百万ヘクタールと前年度から 1.7 万ヘクタール減少し 0.1%減となる見込み。単収は 5.99 トン/ヘクタールと、前年度から僅かに減少するものの、ほぼ横ばい。生産量は 138.2 百万トンと、前年度から 17 万トン減少し 0.1%減となる見込み。

中国農業農村部（2025.6.18）によれば、6 月 18 日現在の冬小麦の収穫進捗率は、96%となっており、主要生産地の収穫は終了している。また、中国中央气象台「作物生育期監測」（2025.7.6～7.12）によれば、春小麦の生育状況は主要生産地の大部分で開花期～登熟期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 150.0 百万トンと、前年度同となるものの、過去 5 年平均（150.9 百万トン）と比べ 0.6%減となる見込み。

2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 6.0 百万トンと、期首在庫量の減少等から前年度と比べ 50.0%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 4.0 百万トンと、期首在庫量及び生産量の増加等を受け前年度と比べ 70.7%減となる見込み。

中国国务院関税税則委員会は、米中共同声明を受け、5 月 14 日から税委会公告 2025 年第 4 号の追加関税 34%のうち 24%の適用を 90 日間停止するとともに、同第 5 号及び第 6 号の追加関税を停止すると発表（同第 7 号）した。これにより小麦は計 25%の追加関税を課すこととなった。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 5 月までの輸入量は、351.2 万トンと増産を受け前年同期（1,217.6 万トン）と比べ 71.2%減となっている。輸入先国別には、カナダ 152.8 万トン（43.5%）、豪州 86.4 万トン（24.6%）、米国 46.2 万トン（13.2%）の順となっている（表）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 124.6 百万トンと、前年度と比べ 2.4%減となる見込み。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26(25年7月～26年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	136.6	140.1	142.0 (140.0)	-	1.4	
消 費 量	153.5	150.0	150.0 (147.3)	-	-	
うち飼料用	37.0	33.0	33.0 (28.0)	-	-	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-	
輸 入 量	13.6	4.0	6.0 (6.2)	-	50.0	
期末在庫量	134.5	127.6	124.6 (134.7)	-	▲ 2.4	
期末在庫率	87.0%	84.5%	82.5% (90.8%)	-	▲ 2.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.63	23.59	23.60 (23.65)	-	0.04	
単収(t/ha)	5.78	5.94	6.02 (5.92)	-	1.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

図 中国の小麦輸入量の推移（累計）

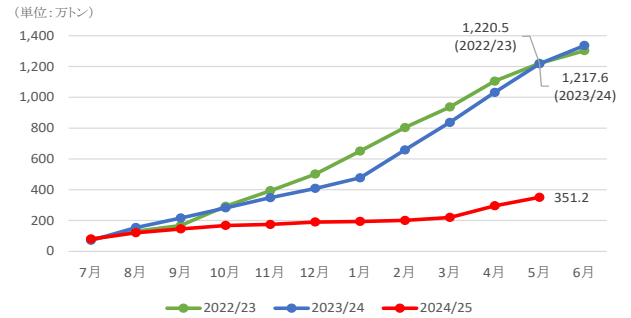


表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
豪州	503.5	37.7	豪州	477.6	39.2	カナダ	152.8	43.5
カナダ	307.6	23.0	カナダ	299.7	24.6	豪州	86.4	24.6
フランス	230.1	17.2	フランス	192.9	15.8	米国	46.2	13.2
米国	181.8	13.6	米国	143.6	11.8	カザフスタン	30.5	8.7
カザフスタン	66.8	5.0	カザフスタン	60.5	5.0	ロシア	29.4	8.4
ロシア	42.9	3.2	ロシア	39.7	3.3	日本	4.5	1.3
その他	3.9	0.3	その他	3.6	0.3	その他	1.4	0.4
合計	1,336.5	100.0	合計	1,217.6	100.0	合計	351.2	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・カナダ、メキシコで上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

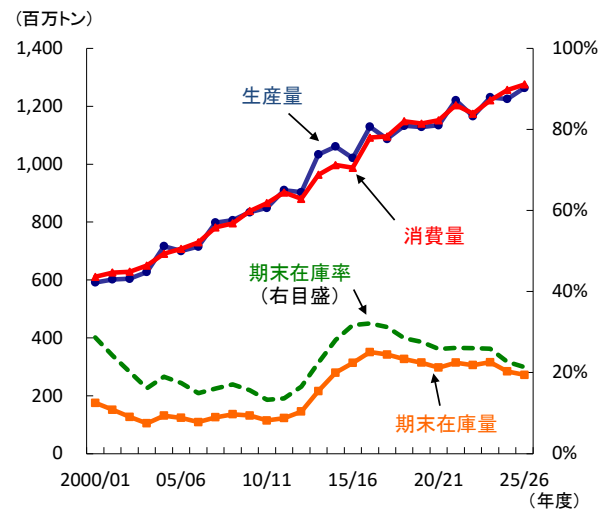
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル、エジプト等で上方修正されたものの、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・メキシコで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA 「PS&D」 (2025. 7. 11) をもとに農林水産省にて作成

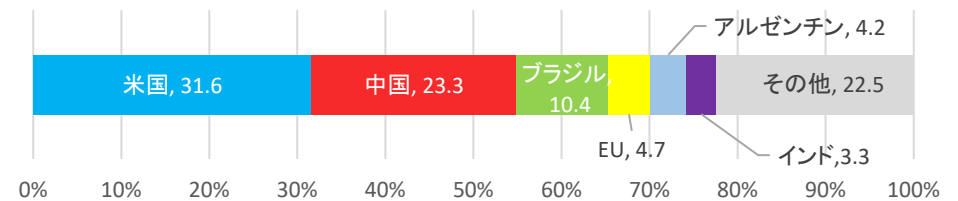
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

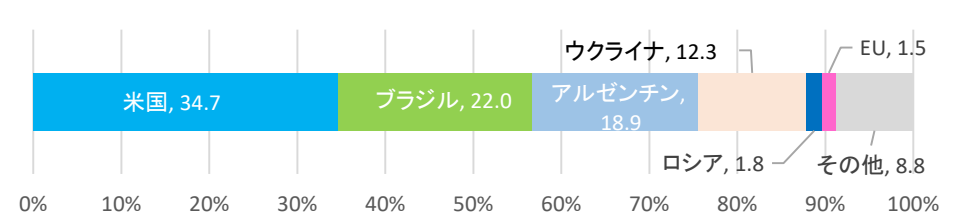
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,230.7	1,225.3	1,263.7	▲ 2.3	3.1
消費量	1,220.7	1,256.8	1,275.8	▲ 0.03	1.5
うち飼料用	770.1	784.2	800.9	▲ 1.0	2.1
輸出量	192.6	192.6	195.8	▲ 0.01	1.7
輸入量	197.7	182.9	187.8	0.3	2.7
期末在庫量	315.7	284.2	272.1	▲ 3.2	▲ 4.3
期末在庫率	25.9%	22.6%	21.3%	▲ 0.2	▲ 1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 July 2025)

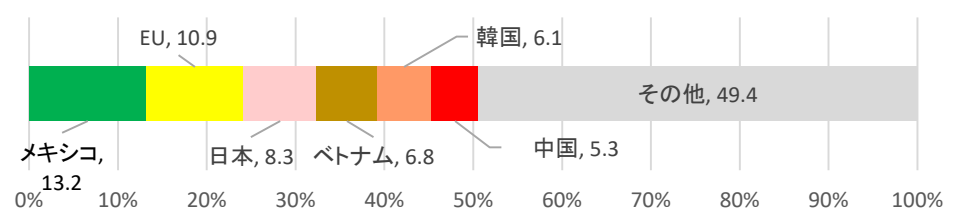
○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,263.7 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (195.8 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (187.8 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 5.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測から 2.9 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 5.6%増の 398.9 百万トンとなり、史上最高の見込み。とうもろこしの作付けに有利な価格相場により、多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」（2025.7.14）によれば、7 月 13 日現在、とうもろこしのシルキング進捗率は 34%と前年同期（39%）を下回ったものの過去 5 年平均（33%）を上回った。総じて生育に適した天候に恵まれ、作柄評価は「良～優良」の割合が 74%と、前年同期（68%）を上回った。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 1.3 百万トン下方修正されたものの、飼料用消費の増加等により、前年度比 1.4%増の 323.5 百万トンとなり、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.7%減の 68.0 百万トンの見込み。なお、2024/25 年度の輸出量は米国産とうもろこしの価格低下による輸出競争力の高まりにより、前月予測から 2.5 百万トン上方修正された。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 9 月～2025 年 6 月の輸出量は 5,572.2 万トンで、前年同期（4,286.2 万トン）より 30.0%増。輸出先国別には、メキシコ 1,786.5 万トン（32.1%）、日本 1,077.0 万トン（19.3%）、コロンビア 609.6 万トン（10.9%）の順となっている（表）。

同「Grain: World Markets and Trade」（2025.7.11）によれば、米国産の輸出価格は、7 月 8 日現在、良好な天候見通し等を受けて、前月から 9 ドル/トン下落し、194 ドル/トンとなった。なお、アルゼンチン産及びブラジル産はいずれも前月から 1 ドル/トン下落し、アルゼンチン産は 193 ドル/トン、ブラジル産は 204 ドル/トンとなった（図）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 2.3 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加を受け、前年度から 23.9%増、過去 5 年平均（35.9 百万トン）から 17.3%増の 42.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.0 ポイント増の 10.8%となる見込み。

とうもろこし－米国

（概ね 4～5 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月～26年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	389.7	377.6	398.9	▲ 2.9	5.6
消費量	322.9	319.2	323.5	▲ 1.3	1.4
うち飼料用	148.4	144.2	148.6	▲ 1.3	3.1
エタノール用等	139.1	139.7	139.7	-	-
輸 出 量	57.3	69.9	68.0	-	▲ 2.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	44.8	34.0	42.2	▲ 2.3	23.9
期末在庫率	11.8%	8.8%	10.8%	▲ 0.5	2.0

（参考）
収穫面積(百万ha) 35.01 33.55 35.12 ▲ 0.25 4.7
単収(t/ha) 11.13 11.26 11.36 - 0.9
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)

表 米国のとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年9月～2024年8月)			2023/24年度 (2023年9月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	2,090.4	39.9	メキシコ	1,706.0	39.8	メキシコ	1,786.5	32.1
日本	1,109.2	21.2	日本	876.3	20.4	日本	1,077.0	19.3
コロンビア	612.1	11.7	コロンビア	512.3	12.0	コロンビア	609.6	10.9
中国	286.0	5.5	中国	283.7	6.6	韓国	495.1	8.9
韓国	234.9	4.5	韓国	177.7	4.1	スペイン	215.3	3.9
その他	910.9	17.4	その他	730.1	17.0	その他	1,388.6	24.9
合計	5,243.5	100.0	合計	4,286.2	100.0	合計	5,572.2	100.0

資料：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに
農林水産省作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収の減少を受けて前年度より 0.8%減の 131.0 百万トンとなるものの、史上 3 番目の生産量となる見通し。なお、2024/25 年度の実産量は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、2023/24 年度から 10.9%増の 132.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.7.10）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 14.3%増の 132.0 百万トンの見込み。7 月上旬現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は、生産地域の大半において降雨量の減少により作業が順調に進んだ結果、97.2%に達した。但し、リオ・グランデ・ド・スール州では、降雨過多により作業を完了できず、作柄にも悪影響を及ぼしている。夏とうもろこしの生産量は、良好な気象条件及び生産技術の向上を受け、前年度比 8.5%増の 24.9 百万トンの見込み。また、冬とうもろこしは、6 月の降雨と気温の低下により穀粒の自然乾燥が遅れ、収穫の進捗が遅れているものの、単収は前年度を上回ると見込まれており、冬とうもろこしの生産量は、前年度比 15.7%増の 107.1 百万トンの見込み（図）。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、飼料用及びエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより、前年度から 3.3%増の 94.0 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、主にエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより輸出増加が抑制され、前年度と同水準の 43.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 3 ～ 6 月の輸出量は 145.3 万トンで、前年同期（175.4 万トン）と比べ 17.2%減。輸出先国別には、イラン 60.6 万トン（41.7%）、サウジアラビア 27.5 万トン（18.9%）、エジプト 12.8 万トン（8.8%）の順となっている（表）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、消費量の増加を受け、前年度から 55.1%減、過去 5 年平均（7.0 百万トン）から 48.9%減の 3.6 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 3.3 ポイント減の 2.6%となる見込み。

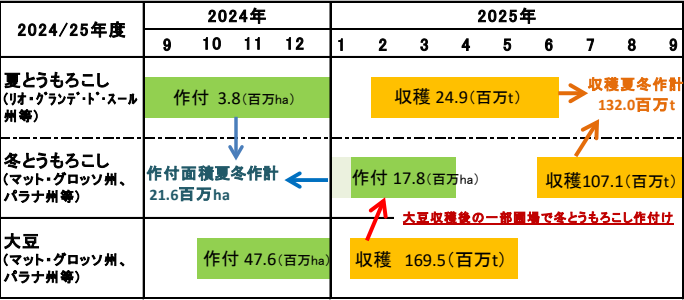
とうもろこしーブラジル

（夏とうもろこしは、概ね 8 ～ 翌年 1 月に作付けされ、2 ～ 4 月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1 ～ 3 月に作付けされ、6 ～ 10 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（26年3月～27年2月）			
			予測値、() はCONAB	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	119.0	132.0	131.0	(-)	-	▲ 0.8
消 費 量	84.0	91.0	94.0	(-)	1.0	3.3
うち飼料用	62.5	64.5	65.5	...	-	1.6
輸 出 量	38.3	43.0	43.0	(-)	-	-
輸 入 量	1.7	1.5	1.6	(-)	-	6.7
期末在庫量	8.5	8.0	3.6	(-)	1.0	▲ 55.1
期末在庫率	6.9%	6.0%	2.6%	(-)	0.7	▲ 3.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	21.65	22.30	22.60	(-)	-	1.3
単収(t/ha)	5.50	5.92	5.80	(-)	-	▲ 2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
CONAB「Graos」(10 July 2025)

図 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）



資料：CONAB「Graos」（2025.7.10）をもとに農林水産省にて作成

表 ブラジルのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年 3 月～2025年 2 月)			2023/24年度 (2024年 3 月～2024年 6 月)			2024/25年度 (2025年 3 月～2025年 6 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	601.1	15.7	アルジェリア	40.8	23.3	イラン	60.6	41.7
イラン	536.9	14.1	エジプト	32.0	18.3	サウジアラビア	27.5	18.9
ベトナム	450.9	11.8	イラン	19.0	10.9	エジプト	12.8	8.8
韓国	243.3	6.4	モロッコ	10.9	6.2	ベトナム	10.3	7.1
日本	214.3	5.6	ベトナム	10.8	6.1	ヨルダン	8.1	5.6
その他	1,772.8	46.4	その他	61.8	35.3	その他	26.0	17.9
合計	3,819.4	100.0	合計	175.4	100.0	合計	145.3	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度と比べ 6.0%増、過去 5 年平均（49.0 百万トン）から 8.2%増の 53.0 百万トンとなる見込み。前年度は病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付意欲に負の影響を及ぼしたが、被害の改善により 2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、2023/24 年度より 2.0%減の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の月報及び週報（2025.7.17）によれば、7 月 17 日現在の収穫進捗率は 82%で、前年同期（88%）を下回っている。州別には、サンタフェ州で 95%、コルドバ州で 89%、ブエノスアイレス州で 77%、ラ・パンパ州で 59%となっている。ブエノスアイレス州とラ・パンパ州では、一時的に洪水の影響を受けるなど、気象条件の悪化により収穫作業に遅れが生じている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 2.6%増の 15.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け、前年度より 7.2%増の 37.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 3～6 月の輸出量は 1,307.0 万トンで、前年同期（1,362.1 万トン）より 4.0%減。輸出先国別には、ベトナム 242.4 万トン（18.5%）、ペルー152.1 万トン（11.6%）、エジプト 144.1 万トン（11.0%）の順となっている（表）。

アルゼンチン政府は、2025 年 1 月 27 日から、とうもろこしの輸出税を一時的に 9.5%に引き下げていたが、2025 年 6 月 30 日、この引き下げ措置が終了し、7 月 1 日からは、従来の税率である 12%に戻っている。現地報道情報によれば、国内の農業関係者からは、採算の悪化を懸念する声が上がっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け、前年度から 14.7%増、過去 5 年平均（3.1 百万トン）から 3.1%増の 3.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 0.5 ポイント増の 6.1%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (59.1)	-	6.0
消 費 量	14.6	15.2	15.6 (20.9)	-	2.6
うち飼料用	10.4	10.8	11.2 (15.9)	-	3.7
輸 出 量	36.3	34.5	37.0 (38.0)	-	7.2
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.5	2.8	3.2 (1.4)	-	14.7
期末在庫率	4.9%	5.6%	6.1% (2.5%)	-	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.78	6.40	7.50 (8.22)	-	17.2
単収(t/ha)	6.56	7.81	7.07 (7.20)	-	▲ 9.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年3月～2025年2月)			2023/24年度 (2024年3月～2024年6月)			2024/25年度 (2025年3月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
ベトナム	667.8	18.4	ベトナム	261.8	19.2	ベトナム	242.4	18.5
ペルー	433.1	11.9	韓国	139.1	10.2	ペルー	152.1	11.6
マレーシア	333.6	9.2	ペルー	137.1	10.1	エジプト	144.1	11.0
韓国	282.2	7.8	アルジェリア	124.8	9.2	アルジェリア	134.7	10.3
アルジェリア	280.1	7.7	マレーシア	118.1	8.7	マレーシア	116.2	8.9
その他	1,628.2	44.9	その他	581.0	42.7	その他	517.4	39.6
合計	3,624.9	100.0	合計	1,362.1	100.0	合計	1,307.0	100.0

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに農林水産省にて作成

写真 サンタフェ州の圃場（2025 年 6 月 25 日撮影）



撮影者：José Daniel Peloni

9 月の早植えとうもろこしの作付け作業に向けた土づくりの様子。穀物を輸送する際に重い車両によって土壌が圧縮されるため、改造した小型プラウで土壌をほぐし、反転する作業を行っている。

＜ ウクライナ ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、高温乾燥等の影響により生産量が減少した前年度から 13.8%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去 5 年平均（2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン）と比べ 9.4%減の 30.5 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、6 月末現在のとうもろこしの生育ステージは、作付けの早かった圃場では 13～17 葉期、作付けの遅かった圃場では 7～11 葉期を迎えており、作柄は概ね良好。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 21.0%増の 6.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受けて、前年度から 9.1%増の 24.0 百万トンとなる見込み。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 6 月の輸出量は 1,910.8 万トンと、前年同期（2,670.8 万トン）より 28.5%減。輸出先国別には、トルコ 545.5 万トン（28.5%）、イタリア 257.6 万トン（13.5%）、スペイン 240.7 万トン（12.6%）の順となっている（表）。

2022 年 6 月より適用されてきた EU のウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置が 2025 年 6 月 5 日に適用期限を迎え失効し、欧州委員会は、6 月 6 日以降、深化した包括的自由貿易協定（DCFTA）を含む連合協定に基づく関税割当を適用している。6 月 30 日には欧州委員会とウクライナが DCFTA の下で新たな貿易措置に合意したことが発表され、とうもろこしの年間の関税割当量は、現行の 65 万トンから 100 万トンに拡大された。現地情報会社によれば、とうもろこしについては、EU の関税率は 0 %であるため、割当量の増減による影響はないとみられる。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により、前年度から 93.5%増となるものの、ロシアの侵攻前の 5 か年平均（2.5 百万トン）からは 76.2%減の 0.6 百万トンの見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント増の 2.0%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8 月～11 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.5	26.8	30.5 (28.6)	-	13.8	
消 費 量	5.4	5.2	6.2 (4.7)	-	21.0	
うち飼料用	4.5	4.2	5.3 (3.3)	-	26.2	
輸 出 量	29.5	22.0	24.0 (23.9)	-	9.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	0.6	0.3	0.6 (0.9)	-	93.5	
期末在庫率	1.8%	1.1%	2.0% (3.1%)	-	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.20	4.10	4.20 (4.00)	-	2.4	
単収(t/ha)	7.74	6.54	7.26 (7.16)	-	11.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	617.4	21.0	スペイン	584.3	21.9	トルコ	545.5	28.5
中国	461.9	15.7	中国	461.4	17.3	イタリア	257.6	13.5
エジプト	361.9	12.3	エジプト	348.5	13.0	スペイン	240.7	12.6
オランダ	277.7	9.4	オランダ	226.4	8.5	オランダ	187.4	9.8
イタリア	253.0	8.6	イタリア	211.6	7.9	エジプト	160.6	8.4
その他	975.1	33.1	その他	838.6	31.4	その他	519.0	27.2
合計	2,947.0	100.0	合計	2,670.8	100.0	合計	1,910.8	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

写真 西部テルノーポリ州のとうもろこしの圃場 (2025 年 7 月 4 日撮影)



生育ステージ
は 10～12 葉期
を迎えている。
降雨量は十分
でないものの、
現段階では作
柄は良好。

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加を受け、前年度から 0.03%増、過去 5 年平均（278.8 百万トン）から 5.8%増の 295.0 百万トンと、史上最高の見込み（図）。

中国中央气象台「全国農業気象週報」（2025.7.7）によれば、7 月上旬、春とうもろこしの主産地である東北部では、降水量が多く土壌水分量も適切であったことから、生育に良い影響があった。同「作物生育期監視」によれば、7 月中旬、東北部における春とうもろこしの生育ステージは、主に 7 葉期～節間伸長期となっている。また、華北部における夏とうもろこしの生育ステージは、主に 3 葉期～節間伸長期となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の増加を受け、前年度より 1.6%増の 321.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、中国農業農村部「中国農業展望報告（2025－2034）」（2025.4）（以下、「展望報告」という。）によれば、飼料用とうもろこしの需要は、今後、畜産物単位当たりの飼料消費量の減少に伴い、減少に転じる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、大幅に輸入量が減少した前年度から 100.0%増の 10.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 5 月の輸入量は、前年同期比 92.6%減の 151.8 万トン。輸入先国別には、ブラジル 72.4 万トン（47.7%）、ウクライナ 31.0 万トン（20.4%）、ミャンマー19.3 万トン（12.7%）の順となっている（表）。展望報告によれば、輸入量の減少は、国内の供給が安定し国内価格が低下したことによる。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 5 月号」によれば、5 月の国内価格は、前月（2,260 元/トン）から上昇し 2,360 元/トン。

中国国務院関税税則委員会は、4 月 12 日以降、米国のとうもろこしに対して計 140%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5 月 14 日から、計 25%の追加関税を課することとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の増加を受け、前年度より 8.2%減、過去 5 年平均（205.5 百万トン）から 12.8%減の 179.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 6.0 ポイント減の 55.8%となる見込み。

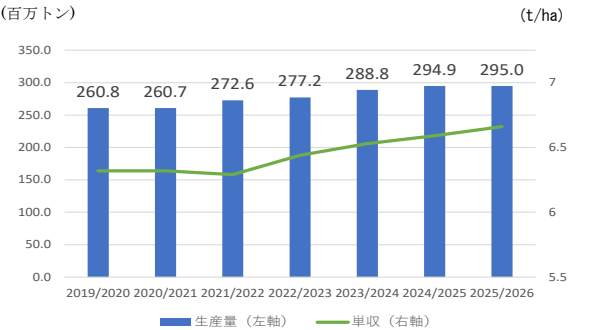
とうもろこしー中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	288.8	294.9	295.0 (299.5)	-	0.03	
消費量	307.0	316.0	321.0 (313.2)	-	1.6	
うち飼料用	225.0	234.0	239.0 (211.0)	-	2.1	
輸出入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸入量	23.4	5.0	10.0 (8.0)	-	100.0	
期末在庫量	211.3	195.2	179.2 (178.4)	▲ 2.0	▲ 8.2	
期末在庫率	68.8%	61.8%	55.8% (57.0%)	▲ 0.6	▲ 6.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.22	44.74	44.30 (44.90)	-	▲ 1.0	
単収(t/ha)	6.53	6.59	6.66 (6.67)	-	▲ 1.1	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

図 中国産とうもろこしの生産量、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025. 7. 11)をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2023/24 年度 (2023年10月～2024年 9 月)						2024/25年度 (2023年10月～2024年 5 月)						2024/25年度 (2024年10月～2025年 5 月)					
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1,502.3	64.4	ブラジル	1,479.6	71.7	ブラジル	72.4	47.7	ウクライナ	456.5	19.6	ウクライナ	307.6	14.9	ウクライナ	31.0	20.4
ウクライナ	456.5	19.6	ウクライナ	307.6	14.9	ウクライナ	31.0	20.4	ミャンマー	298.8	12.8	ミャンマー	209.8	10.2	ミャンマー	19.3	12.7
米 国	298.8	12.8	米 国	209.8	10.2	ミャンマー	19.3	12.7	ロシア	19.8	0.8	ロシア	19.5	0.9	ロシア	16.7	11.0
ミャンマー	19.8	0.8	ミャンマー	19.5	0.9	ロシア	16.7	11.0	ブルガリア	18.2	0.8	ブルガリア	15.3	0.7	ラオス	6.2	4.1
ブルガリア	18.2	0.8	ブルガリア	15.3	0.7	ラオス	6.2	4.1	ロシア	15.6	0.7	ロシア	11.9	0.6	米 国	3.9	2.6
ロシア	15.6	0.7	ロシア	11.9	0.6	米 国	3.9	2.6	その他	21.8	0.9	その他	19.8	1.0	その他	2.3	1.5
その他	21.8	0.9	その他	19.8	1.0	その他	2.3	1.5	計	2,332.9	100.0	計	2,063.6	100.0	計	151.8	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省にて作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し>

2025/26 年度

生産量

前年度比

前月比

消費量

前年度比

前月比

輸出量

前年度比

前月比

期末在庫量

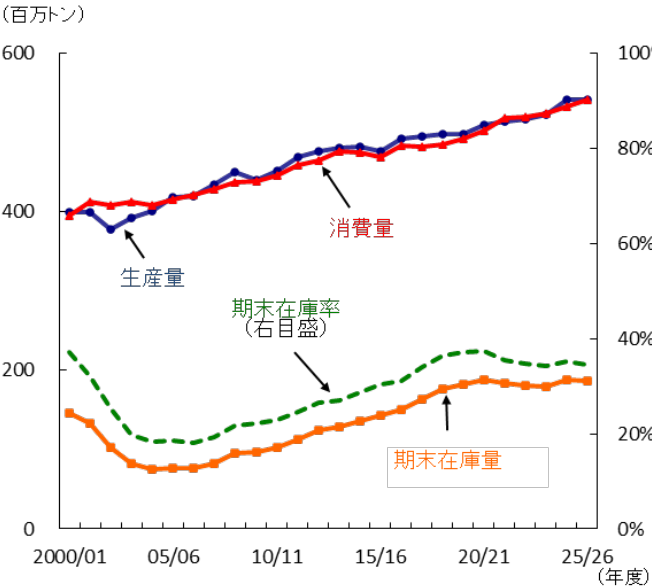
前年度比

前月比

・米国、トルコで下方修正され、前月から下方修正された。

・米国、モザンビークで下方修正されたものの、中国、ガーナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

・米国で下方修正されたものの、ミャンマー、カンボジアで上方修正され、前月から上方修正された。



資料：USDA「PS&D」(2025.7.11)をもとに農林水産省にて作成

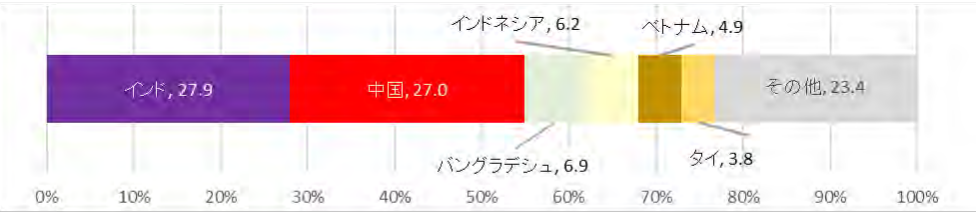
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

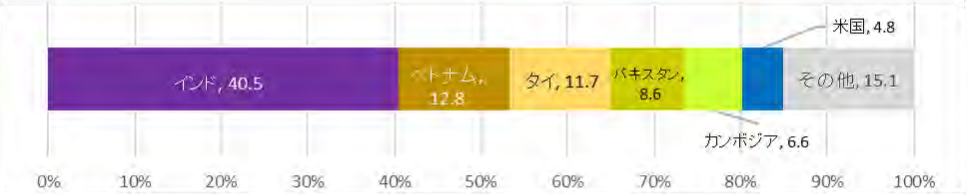
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	523.7	541.5	541.3	▲ 0.3	▲ 0.04
消 費 量	524.6	533.7	541.6	0.6	1.5
輸 出 量	56.8	62.2	61.8	0.04	▲ 0.7
輸 入 量	53.4	58.5	59.0	0.1	0.9
期末在庫量	179.8	187.6	187.3	▲ 0.6	▲ 0.2
期末在庫率	34.3%	35.2%	34.6%	▲ 0.1	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 July 2025)

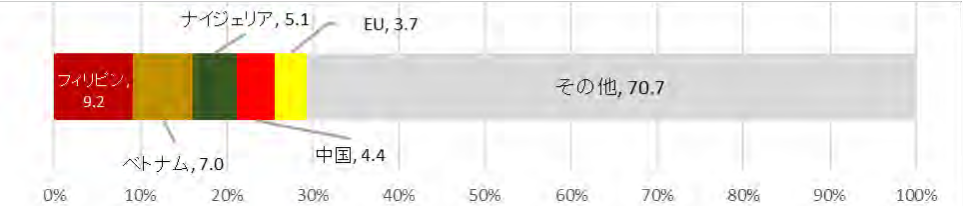
○ 2025/26年度 世界のコメの生産量 (541.3百万トン) (単位：%)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸出量 (61.8百万トン) (単位：%)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸入量 (59.0百万トン) (単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

< タイ > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から 8 万ヘクタール減少（前年度比 0.7%減）することから、前年度に比べ 0.7%減の 20.4 百万トンの見込み。単収は、過去最高の 2.86 トン/ヘクタールを維持する見込み。一方、同「Grain and Feed Annual」（2025.4.4）によれば、2025/26 年度の生産量は、乾季米の作付拡大と安定した単収に支えられ、20.7 百万トンの微増と予測している。

タイ農業協同組合農業経済局「農業経済」（2025.6）によれば、2025/26 年度の雨季米（2025 年 5 月～10 月作付け）の作付面積は、前年度（992 万ヘクタール）から微減の 991 万ヘクタールとなる見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.7.1 及び 7.8）によれば、6 月 22 日から 7 月 5 日の間、タイ北東部の稲作地域では、モンスーンの影響で 300 ミリに達する降雨量があり、作物の生育に貢献した（図）。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.6）によれば、雨季米は現在、作付け及び初期分げつ期にあり、4 月の早い段階での降雨により前年度に比べ作付けが早く開始されている。作付面積は、国際市場におけるコメ価格の下落を受け、わずかに減少すると予測されている。北東部の水田では、高い価格と製糖工場からの補助金を理由としてサトウキビ畑への転換がされているが、全国的には、雨季の降雨量が作付けにとって十分なことから、単収及び生産量は、前年度に比べ増加すると見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、コメ価格の低下及び潤沢な供給量を背景に、前年度から 2.9%増加し、7.2 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 1～5 月の輸出量は、前年同期比 25.8%減の 305.0 万トンで、輸出先国別には、イラク 41.3 万トン（13.5%）、米国 37.4 万トン（12.2%）、南アフリカ 28.4 万トン（9.3%）の順となっている（表）。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は 4 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 97%減となった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、政府の大規模備蓄計画を受け、前年度比 18.1%増の 3.9 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.7 ポイント増の 19.7%となる見込み。

コメ・タイ

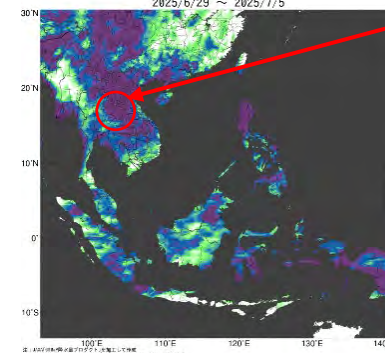
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年 1 月～26年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.0	20.6	20.4 (20.4)	-	▲ 0.7
消 費 量	12.3	12.5	12.7 (12.7)	-	1.2
輸 出 量	9.9	7.0	7.2 (7.5)	-	2.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.02)	-	-
期末在庫量	2.2	3.3	3.9 (3.3)	-	18.1
期末在庫率	10.0%	17.0%	19.7% (16.5%)	-	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.65	10.88	10.80 (10.80)	-	▲ 0.7
単収(稲t/ha)	2.85	2.86	2.86 (1.89)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC「Grain Market Report」(26 June 2025)（単収は稲米t/ha）

図 タイの降水量（2025 年 6 月 29 日～7 月 5 日）

2025/6/29 ～ 2025/7/5



タイ北東部（天
水稻作地域）

出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 タイのコメの輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～5月)			2024/25年度 (2025年1月～5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	133.3	13.4	インドネシア	94.1	22.9	イラク	41.3	13.5
イラク	99.7	10.0	イラク	36.3	8.8	米国	37.4	12.2
米国	84.8	8.5	米国	34.5	8.4	南アフリカ	28.4	9.3
南アフリカ	83.3	8.4	フィリピン	28.6	6.9	中国	25.3	8.3
フィリピン	61.8	6.2	南アフリカ	23.0	5.6	フィリピン	13.2	4.3
セネガル	46.2	4.6	モザンビーク	15.0	3.6	セネガル	12.4	4.1
その他	485.4	48.8	その他	179.6	43.7	その他	147.0	48.2
計	994.5	100.0	計	411.1	100.0	計	305.0	100.0

資料：タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 7.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Rice Outlook」（2025.7.15）によれば、2025/26年度の生産量は、収穫面積が前月予測から0.1百万トン下方修正されたことを受け、前月予測から0.3百万トン下方修正され、前年度比7.7%減の6.5百万トンの見込み。種類別では、長粒種は4.9百万トンと前月予測から0.2百万トン下方修正され、前年度比11.2%減の見込み。これは4～5月にかけての過度の降雨と洪水及び長粒種米の価格低下により、南部主要生産6州における作付面積が減少したことによる。中・短粒種は1.7百万トンと、前月予測から0.08百万トン下方修正されたものの、前年度比で4%増加する見込み。これは南部生産州の作付面積減をカリフォルニア州の作付面積増が相殺したことによる。

同「Acreage」（2025.6.30）によれば、2025/26年度のコメ全体の作付面積は前年度に比べ7.8%減の1.09百万ヘクタール。種類別の作付面積は、長粒種は同10.8%減の0.82百万ヘクタール、中・短粒種は同2.9%増の0.26百万ヘクタールとなる見込み。

同「Crop Progress」（2025.7.14）によれば、7月13日時点の主要生産6州の出穂進捗率は33%と前年同期（42%）を下回るものの、過去5年平均（30%）を上回っている。南部の主要生産州のアーカンソー州では、今春の作付期の降雨過多の影響を受け17%と前年同期（40%）を下回るものの、過去5年平均（15%）を上回っている。また中・短粒種の主要生産州のカリフォルニア州では、前年同期（19%）をやや上回り、過去5年平均並みの20%となっている。作柄評価は、「良～優良」の割合が77%と、前年同期（80%）を下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、タイやインドからの香り米の輸入継続が予測され、前年度に比べ4.5%増の1.6百万トンとなる見込み。

2025/26年度の輸出量は、前月予測から0.1百万トン下方修正、前年度から0.7%減の3.0百万トンの見込み。同「Exports Sales Query System」（2025.7）によれば、2024/25年度のうち2024年8月～2025年6月の輸出量は273.1万トンで、輸出先国別には、メキシコ66.8万トン（24.4%）、日本34.1万トン（12.5%）、ハイチ28.6万トン（10.5%）の順（表）。種類別には、長粒種は、輸出量200.5万トンで、輸出先国別には、メキシコ60.8万トン（国別シェア30.3%）、ハイチ28.6万トン（同14.3%）、ホンジュラス24.4万トン（同12.2%）。中・短粒種は、輸出量72.7万トンで、輸出先国別には、日本34.1万トン（国別シェア46.9%）、韓国13.0万トン（同17.8%）、ヨルダン6.5万トン（同9.0%）。

コメー米国

長粒種の生産量が7割を占め、中・短粒種の生産量は3割、その内、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

（単位：百万精米トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.9	7.1	6.5	▲ 0.3	▲ 7.7
消費量	4.9	5.4	5.2	▲ 0.1	▲ 3.0
輸出量	3.2	3.0	3.0	▲ 0.1	▲ 0.7
輸入量	1.4	1.5	1.6	-	4.5
期末在庫量	1.3	1.5	1.4	▲ 0.1	▲ 4.7
期末在庫率	15.8%	17.8%	17.3%	▲ 0.3	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.16	1.16	1.07	▲ 0.1	▲ 7.8
単収(穀t/ha)	8.56	8.69	8.68	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)

写真 カリフォルニア州イースト・ビッグス近郊の水田



撮影者：Vicky Boyd

（7月上旬撮影）

既に湛水された水田（中粒種）に、雨水や雪解け水を貯めた貯水池から水路やパイプで水を足している様子。

表 米国のコメの輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	93.3	28.0	メキシコ	82.7	27.3	メキシコ	66.8	24.4
ハイチ	36.0	10.8	ハイチ	33.1	10.9	日本	34.1	12.5
日本	29.7	8.9	日本	26.6	8.8	ハイチ	28.6	10.5
ベネズエラ	21.7	6.5	ベネズエラ	21.7	7.1	ホンジュラス	24.4	8.9
ホンジュラス	20.2	6.1	ホンジュラス	18.2	6.0	イラク	17.6	6.4
イラク	17.5	5.2	イラク	17.5	5.8	ニカラグア	13.0	4.8
その他	114.8	34.5	その他	103.5	34.1	その他	88.7	32.5
計	333.2	100.0	計	303.2	100.0	計	273.1	100.0

資料：USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、農作物の生産性向上との政府計画に沿って作付面積が安定し、単収が向上するとの予測から、前年度比 0.5%増の 146.0 百万トン（精米ベース）となる見込み。中国政府は、穀物生産を国家戦略上の優先課題とし、単収向上に重点を置いた国内支援プログラムを通じ、国内生産の拡大を継続的に推進している。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.6.24 及び 7.8）によれば、6 月 15 日から 21 日の間、中国南部及び東北部では、広範囲で降雨に恵まれ、長江以南の地域に十分な水分供給をもたらした（図）。一方、6 月 29 日から 7 月 5 日の間、中国南東部は異常な乾燥と高温（30℃以上）に見舞われ、作物へのストレスとなった。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.7.15）によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料としてのコメの利用拡大を要因として、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度比 0.5%増の 146.7 百万トンとなる見込み。

2025/26 年度の輸入量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、国際市場におけるコメ価格の下落と国内コメ価格の高止まりを要因として、ミャンマー、タイ、ベトナム及びインドといった伝統的なインディカ米供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 8.3%増の 2.6 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 5 月までの輸入量は、210.9 万トンと前年同期（144.7 万トン）と比べ 45.7%増となっている。輸入先国別には、ミャンマー 58.5 万トン（27.7%）、タイ 50.6 万トン（24.0%）、ベトナム 45.9 万トン（21.8%）の順となっている（表）。

USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 21.7%減の 0.9 百万トンの見込み。これは価格競争力の高いインドや他のアジア産米との競争と軟調な需要に基づく輸出継続が予測されるため。2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加予測を受け前年度比 1.0%増の 104.5 百万トンの見込み。期末在庫率は前月予測から 0.7 ポイント下方修正され、前年度比 0.5 ポイント増の 70.8%となる見込み。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域（華南、華中、西南高原地域）で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年 7 月～26年 6 月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	前年度 増減率(%)
生産量	144.6	145.3	146.0 (146.0)	-	0.5
消費量	148.1	146.0	146.7 (145.5)	0.7	0.5
輸出量	1.6	1.2	0.9 (1.9)	-	▲ 21.7
輸入量	1.5	2.4	2.6 (2.4)	0.2	8.3
期末在庫量	103.0	103.5	104.5 (102.8)	▲ 0.5	1.0
期末在庫率	68.8%	70.3%	70.8% (69.7%)	▲ 0.7	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.95	29.01	29.00 (29.00)	-	▲ 0.03
単収(粒t/ha)	7.14	7.15	7.19 (5.03)	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)、
IGC「Grain Market Report」(26 June 2025)（単収は精米t/ha）

図 中国南部及び東北部の降水量(2025 年 6 月 16 日～30 日)

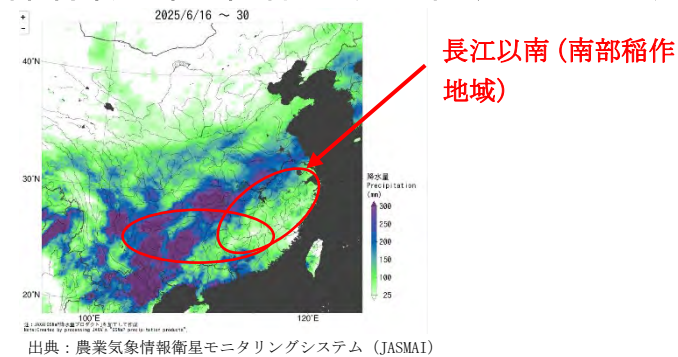


表 中国のコメの輸入量と輸入先国 (輸入量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ベトナム	46.1	30.2	ベトナム	44.3	30.6	ミャンマー	58.5	27.7
タイ	44.3	29.0	タイ	42.4	29.3	タイ	50.6	24.0
ミャンマー	36.4	23.8	ミャンマー	33.4	23.1	ベトナム	45.9	21.8
カンボジア	12.8	8.4	カンボジア	12.8	8.8	インド	21.8	10.4
パキスタン	7.3	4.8	パキスタン	6.3	4.3	パキスタン	19.8	9.4
インド	3.0	2.0	インド	3.0	2.1	カンボジア	10.5	5.0
その他	2.8	1.8	その他	2.6	1.8	その他	3.8	1.8
合計	152.7	100	合計	144.7	100	合計	210.9	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、151.0 百万トンと前月予測からの変更はなく、前年度比 0.7%増、過去 5 年平均（135.5 百万トン）と比べても 11.5%増加し、史上最高の見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.7.8）によれば、6 月 29 日に南西モンスーンの影響を受け、インド全土で降水量が増加した（図）。予報より 9 日早いモンスーンの到来により、灌漑用水が増加し、コメを含む夏播き作物の作付けが早まった。

インド農業・農民福祉省によれば、2025/26 年度のカリフ米の作付面積は、6 月 26 日時点で 35 百万ヘクタール（前年度比 47.3%増）となっている。コメの主要産地である西ベンガル州では、作付けが順調に進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、前年度比 3.7%増の 126.5 百万トンとなる見込み。世界第 2 位のコメ消費国であるインドは、大量供給により 4 年連続で消費量増加が見込まれている。また、生産量増により、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度（PDS）の継続実施が可能となっている。政府は PDS により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。本年度もより多くのコメが国民に供給される見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前月予測及び前年度からの変更はなく、25.0 百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」（2025.7.11）によれば、インドのパーボイルド米輸出は、規制の撤廃後、価格の下落によりサハラ以南のアフリカ及びバングラデシュへの販売が増加し、過去最高を記録する勢いにある。

インド輸出入統計によれば、2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸出量は 1,469.5 万トンで、輸出先国別には、ベナン 144.1 万トン（9.8%）、バングラデシュ 99.4 万トン（6.8%）、サウジアラビア 91.3 万トン（6.2%）の順となっている（表）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、政府備蓄米放出等により前年度に比べ 1.1%減の 44.5 百万トンとなるが、政府が望む在庫水準（13.59 百万トン）は大幅に上回る見込み。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 6 月時点の期末在庫量は、38.0 百万トン（精米）と前年同期比で 16.6%増の見込み。

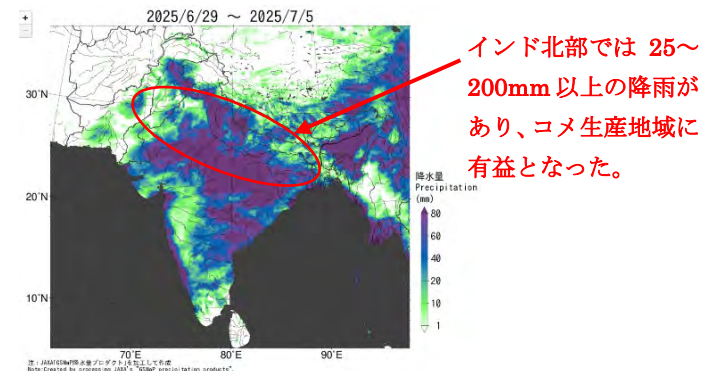
コメ・インド

カリフ米：雨季/モンスーン期（5～10 月）に栽培。
ラビ米：冬季の 11 月～翌 3 月に栽培。
夏季米：3～6 月に栽培。

（単位：百万精米トン）						
年 度	2023/24	2024/25 （見込み）	2025/26（25年10月～26年9月）			
			予測値、（）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生産量	137.8	150.0	151.0（151.0）	-	-	0.7
消費量	116.4	122.0	126.5（124.2）	-	-	3.7
輸出量	14.4	25.0	25.0（24.1）	-	-	-
輸入量	0.0	0.0	0.0（0.0）	-	-	-
期末在庫量	42.0	45.0	44.5（49.1）	-	▲ 1.1	
期末在庫率	32.1%	30.6%	29.4%（33.1%）	-	▲ 1.2	
（参考）						
収穫面積（百万ha）	47.83	51.42	51.50（51.00）	0.5	0.2	
単収（t/ha）	4.32	4.38	4.40（2.96）	▲ 0.04	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 July 2025）
IGC「Grain Market Report」（26 June 2025）（単収は精米t/ha）

図 インド降水量（2025 年 6 月 29 日～7 月 5 日）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 インドのコメの輸出量と輸出先国

2023/24年度 （2023年10月～2024年9月）		2023/24年度 （2023年10月～2024年4月）		2024/25年度 （2024年10月～2025年4月）		（輸出量：万トン、シェア：%）	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア		
サウジアラビア	136.7 9.4	サウジアラビア	88.2 10.3	ベナン	144.1 9.8		
ベナン	125.0 8.6	イラク	57.9 6.8	バングラデシュ	99.4 6.8		
イラク	90.2 6.2	ギニア	55.3 6.5	サウジアラビア	91.3 6.2		
ギニア	84.5 5.8	ベナン	46.7 5.5	コートジボワール	86.1 5.9		
イラン	74.0 5.1	コートジボワール	41.2 4.8	ギニア	82.6 5.6		
コートジボワール	71.8 4.9	イラン	40.3 4.7	イラク	61.0 4.1		
その他	872.1 60.0	その他	525.0 61.4	その他	905.1 61.6		
計	1,454.2 100.0	計	854.7 100.0	計	1,469.5 100.0		

資料：インド農業・加工食品輸出振興局（APEDA）「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

＜ ベトナム ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は26.3百万トンと、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少により前年度を2.4%下回る見込み。

ベトナム総統計局（2025.7.5）によれば、2025年（USDA：2024/25年度）の乾季米（冬春作）の作付面積は、全国で297.02万ヘクタールとなった。特に南部メコンデルタ地域において塩害の影響が軽減し、作付面積は前年度に比べ1.62万ヘクタール増加した。北部では、複数地域で農地の非農業用途への転換や経済効率の高い多年生作物・水産養殖への転換により、前年度から0.89万ヘクタール減少し105.09万ヘクタールとなっている。南部では、雨季米（夏秋作）の作付けも行われており、6月20日時点における作付面積は136.04万ヘクタールで、前年同期（102.6%）と、良好な気象条件と広域的な降雨を活かし、早いペースで作付けが進捗している。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.6）によれば、北部の乾季米（冬春作）は、0.23百万ヘクタールが収穫段階に入っている。主に単収の低い高品質米品種への転換を要因として、単収は6.3トン/ヘクタールと前年に比べ2.8%減が見込まれている。また雨季米（夏秋作）の作付けが開始され、南部では作付け及び分げつ期にある。作付面積は1.3百万ヘクタールに達し、適当な降雨条件の下、平年並みの生育状況となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、カンボジアからの粳米（国内精米用）の大量輸入継続から、前年度に比べ2.5%増の4.1百万トンと、過去最高となる見込み。2025/26年度の輸出量は、インドとの競争激化が予測されるものの、前月予測及び前年度からの変更はなく7.9百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2025年1月～6月の輸出量は471.9万トンと、前年同期（457.1万トン）に比べ3.2%増加。輸出先国別には、フィリピン210.7万トン（44.6%）、コートジボワール54.8万トン（11.6%）、ガーナ47.8万トン（10.1%）の順（表）。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.7.11）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の7月9日までの週の価格は、アジアの主要コメ市場における需要減を受け、前月6月9日までの週から8ドル/トン下落し378ドル/トンとなった（図）。2025/26年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ7.4%減の3.1百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度より0.9ポイント減の10.2%となる見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年1月～26年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.2	27.0	26.3 (28.6)	-	▲ 2.4
消 費 量	22.5	22.7	22.8 (23.0)	-	0.4
輸 出 量	9.0	7.9	7.9 (8.0)	-	-
輸 入 量	3.7	4.0	4.1 (2.6)	-	2.5
期末在庫量	3.0	3.4	3.1 (2.2)	-	▲ 7.4
期末在庫率	9.5%	11.1%	10.2% (7.2%)	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.11	7.00	6.90 (7.18)	-	▲ 1.4
単収(穀t/ha)	6.12	6.16	6.10 (3.99)	-	▲ 1.0

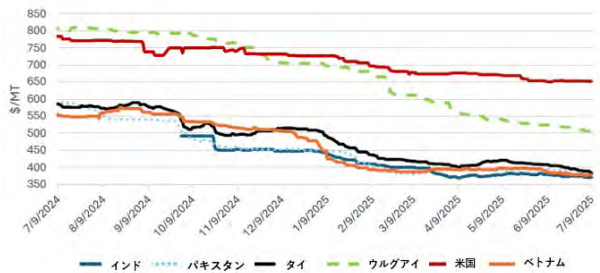
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC「Grain Market Report」(26 June 2025)（単収は精米t/ha）

表 ベトナムのコメの輸出量と輸出先国 (輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～6月)			2024/25年度 (2025年1月～6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
フィリピン	422.1	46.7	フィリピン	194.2	42.5	フィリピン	210.7	44.6
インドネシア	125.7	13.9	インドネシア	71.1	15.6	コートジボワール	54.8	11.6
マレーシア	71.9	8.0	マレーシア	45.6	10.0	ガーナ	47.8	10.1
ガーナ	61.3	6.8	ガーナ	25.1	5.5	中国	44.7	9.5
コートジボワール	48.3	5.3	中国	21.5	4.7	マレーシア	22.6	4.8
中国	28.5	3.2	コートジボワール	21.2	4.6	バングラデシュ	10.5	2.2
その他	145.5	16.1	その他	78.6	17.2	その他	80.9	17.1
計	903.4	100.0	計	457.1	100.0	計	471.9	100.0

資料：ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

図 長粒種の輸出価格（FOB）の推移
（2024年7月9日～2025年7月9日）



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.7.11）

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国で下方修正されたものの、ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

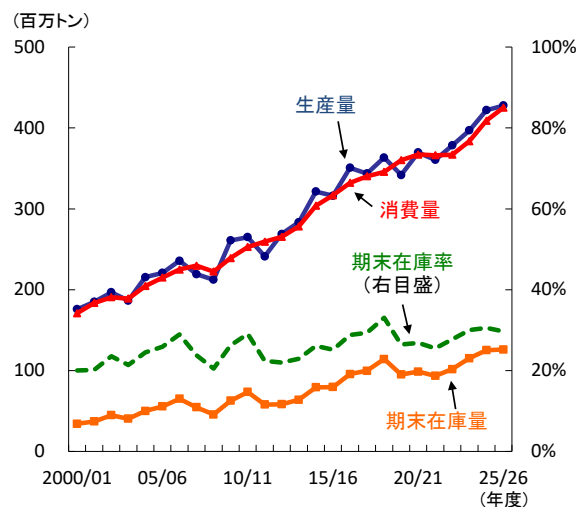
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ、アルゼンチンで上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2025. 7. 11) をもとに農林水産省で作成

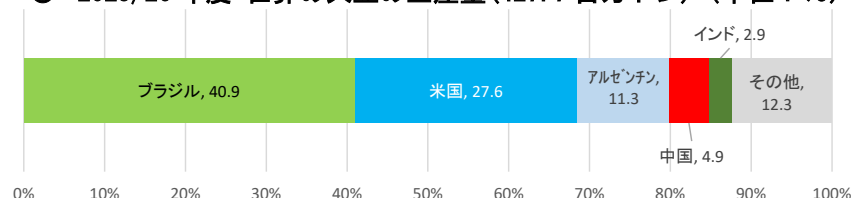
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

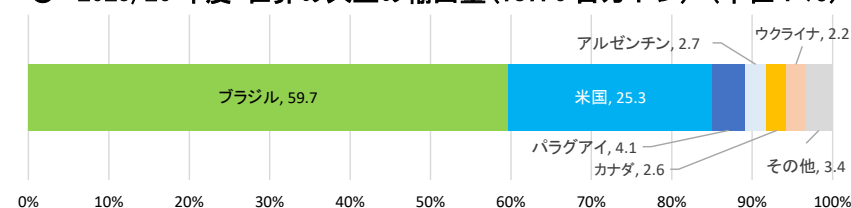
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	396.9	422.0	427.7	0.9	1.3
消費量	383.7	409.0	425.2	1.0	3.9
うち搾油用	331.0	353.2	367.7	1.1	4.1
輸出量	177.8	180.7	187.6	▲ 0.8	3.8
輸入量	178.1	177.6	186.1	▲ 0.8	4.8
期末在庫量	115.3	125.1	126.1	0.8	0.8
期末在庫率	30.1%	30.6%	29.7%	0.1	▲ 0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 July 2025)

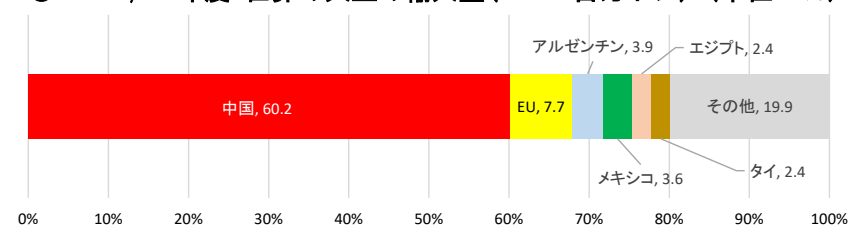
○ 2025/26 年度 世界の大豆の生産量(427.7 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸出量(187.6 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界の大豆の輸入量(186.1 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、収穫面積の減少を受け前年度比 0.7%減の 118.0 百万トンの見込み。同「Acreage」(2025.6.30)によれば、作付面積は前年度より 4.2%減の見込み。作付け時の価格相場がとうもろこしの作付けに有利であったため、多くの農家がとうもろこしの作付けに切り替えたとみられる。

同「Crop Progress」(2025.7.14)によれば、7月 13 日現在、開花進捗率は 47%と前年同期(49%)を下回っており、過去5年平均(47%)並みとなっている。着莢進捗率は 15%と前年同期(17%)を下回っており、過去5年平均(14%)を上回っている。総じて生育に適した天候に恵まれ（図）、作柄評価は「良～優良」の割合が 70%と、前週(66%)及び前年同期(68%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 1.4 百万トン上方修正され、搾油用需要等の増加等を受け、前年度より 5.2%増の 72.1 百万トンと史上最高の見込み。

米国環境保護庁(EPA)は、6月 13 日、再生可能燃料基準制度(RFS)について、2026～2027 年の混合基準量案を公表した。バイオ燃料混合総量を 2026 年は 240 億 2,000 万ガロン、2027 年は 244 億 6,000 万ガロンと過去最高の数量を設定しており、国内におけるバイオ燃料の利用拡大等が期待されている。また、近年のバイオ燃料の国内需要の増加に伴い、搾油工場の建設計画が発表されている。2025/26 年度の大豆油由来のバイオ燃料の国内消費量は、前年度(5.6 百万トン)より 26.5%増の 7.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、国内の搾油用需要の増加及びブラジル産の豊富な供給等により、前月予測から 1.9 百万トン下方修正され、前年度より 6.4%減の 47.5 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度のうち 2024 年9月～2025 年6月の輸出量は 4,615.7 万トンと、前年同期(4,165.5 万トン)に比べ 10.8%増。輸出先国別には、中国 2,232.5 万トン(48.4%)、メキシコ 404.0 万トン(8.8%)、エジプト 304.1 万トン(6.6%)の順となっている（表）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、搾油用需要等の増加を受け前年度より 11.4%減の 8.4 百万トンと、過去5年平均(8.1 百万トン)を上回る見込み。期末在庫率は、前年度より 0.9 ポイント減の 7.1%となる見込み。

大豆－米国

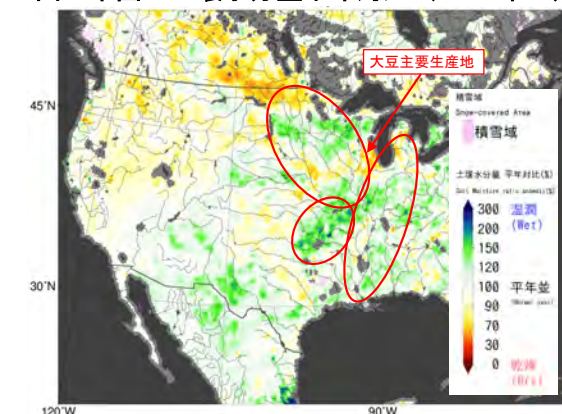
（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月～26年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	113.3	118.8	118.0	▲ 0.1	▲ 0.7
消費量	65.4	68.6	72.1	1.4	5.2
うち搾油用	62.2	65.9	69.1	1.4	5.0
輸 出 量	46.3	50.8	47.5	▲ 1.9	▲ 6.4
輸 入 量	0.6	0.7	0.5	-	▲ 20.6
期末在庫量	9.3	9.5	8.4	0.4	▲ 11.4
期末在庫率	8.3%	8.0%	7.1%	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.29	34.82	33.40	▲ 0.07	▲ 4.1
単収(t/ha)	3.40	3.41	3.53	-	3.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 July 2025)

図 米国の土壌水分量平年対比（2025 年 6 月）



資料：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 米国産大豆の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年9月～2024年8月)			2023/24年度 (2023年9月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	2,455.2	54.8	中国	2,414.2	58.0	中国	2,232.5	48.4
メキシコ	461.0	10.3	メキシコ	390.3	9.4	メキシコ	404.0	8.8
ドイツ	251.3	5.6	ドイツ	193.3	4.6	エジプト	304.1	6.6
インドネシア	227.9	5.1	インドネシア	186.5	4.5	ドイツ	231.6	5.0
日本	188.4	4.2	日本	167.7	4.0	イタリア	195.7	4.2
その他	897.2	20.0	その他	813.7	19.5	その他	1,247.9	27.0
合計	4,480.9	100.0	合計	4,165.5	100.0	合計	4,615.7	100.0

資料：USDA 「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となり単収も増加することから、前年度より 3.6%増の 175.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.7.10）によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の増加及び良好な気象条件による単収の増加から、前年度（147.7 百万トン）より 14.7%増の 169.5 百万トンの見込み。収穫作業は 6 月時点でほぼ完了している。全国的に生育に適した天候に恵まれ、ほぼすべての州で当初予想を上回る単収を記録した。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要等の増加を受けて、前年度より 2.0%増の 62.3 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル政府は、インフレ懸念により 14%からの引上げが延期されていたバイオディーゼルの混合率について、2025 年 8 月 1 日から 15%へ引上げることを決定した。これにより化石燃料輸入量の減少、脱炭素化及び農家の所得向上等が期待されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等により、前年度から 9.7%増の 112.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 6 月の輸出量は 7,421.6 万トンと前年同期（7,876.4 万トン）に比べ、5.8%減。輸出先国別には、中国 5,549.9 万トン（74.8%）、スペイン 288.8 万トン（3.9%）、タイ 257.9 万トン（3.5%）の順となっている（表）。

USDA「Oilseeds:World Markets and Trade」（2025.7.11）によれば、米中関税交渉による中国のブラジル産大豆への依存度の高まり、リアル高及びバイオディーゼル混合率引上げ発表による国内需要の増加により、ブラジル産大豆の輸出価格が上昇傾向にある（図）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け、前月予測から 2.7 百万トン上方修正され、生産量の増加を受け、前年度より 2.4%増の 37.0 百万トンと、過去 5 年平均（31.9 百万トン）を上回る見込み。期末在庫率は、前年度より 0.9 ポイント減の 21.2%となる見込み。

大豆ーブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	154.5	169.0	175.0 (-)	-	3.6
消 費 量	58.3	61.1	62.3 (-)	-	2.0
うち搾油用	54.4	57.0	58.0 (-)	-	1.8
輸 出 量	104.2	102.1	112.0 (-)	-	9.7
輸 入 量	0.9	0.6	0.2 (-)	-	▲ 72.7
期末在庫量	29.8	36.1	37.0 (-)	2.7	2.4
期末在庫率	18.3%	22.1%	21.2% (-)	1.5	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	46.15	47.40	48.80 (-)	-	3.0
単収(t/ha)	3.35	3.57	3.59 (-)	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 July 2025)

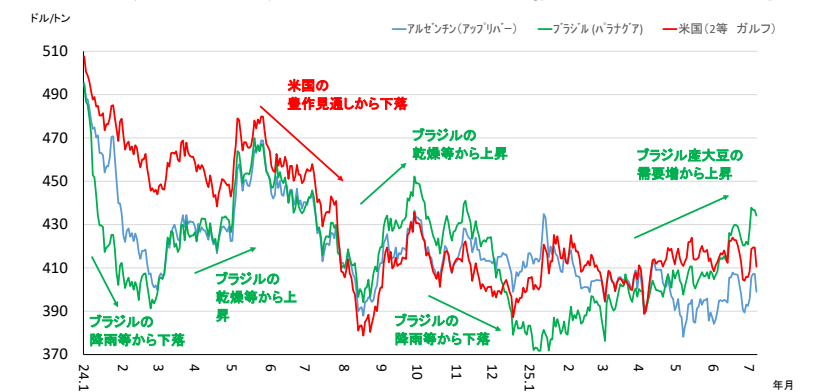
CONAB「Graos」(10 July 2025)

表 ブラジル産大豆の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	7,820.2	75.1	中国	5,904.8	75.0	中国	5,549.9	74.8
スペイン	393.4	3.8	スペイン	231.0	2.9	スペイン	288.8	3.9
タイ	303.3	2.4	タイ	229.2	2.9	タイ	257.9	3.5
トルコ	248.4	2.9	トルコ	212.8	2.7	トルコ	165.1	2.2
イラン	180.5	1.7	イラン	142.3	1.8	イラン	144.9	2.0
その他	1,469.8	14.1	その他	1,156.4	14.7	その他	1,015	13.7
合計	10,415.6	100.0	合計	7,876.4	100.0	合計	7,421.6	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< カナダ > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.9%減少する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.7.21)によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、単収が前年度より減少すること受け、前年度 (7.6 百万トン) から 1.9%減の 7.4 百万トンの見込み (図)。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2025」(2025.6.27)によれば、2025/26 年度の作付面積は前年度より 0.5%増の 232.2 万ヘクタールの見込み。州別には、主要生産地のオンタリオ州では、前年度より 7.4%減の 117.4 万ヘクタールと減少するものの、マニトバ州では、前年度より 13.0%増の 64.8 万ヘクタール、ケベック州では前年度から 4.4%増の 44.5 万ヘクタールとなる見込み。また、オンタリオ州、マニトバ州及びケベック州の作付けはほぼ完了している。

オンタリオ州穀物生産者協会 (2025.6.16、7.7)によれば、7月上旬の気温上昇により、5月下旬～6月上旬の低温により遅れていた作物の生育が持ち直している。また一部圃場では、土壌水分過多等の影響による再作付けが6月末まで行われた。

オンタリオ州農業食品省 (2025.7.3)によれば、オンタリオ州南部の開花期を迎えた圃場や乾燥ストレスを受けた圃場の一部で、数年ぶりに大豆アブラムシの発生が報告されている。

【需要状況】AAFCによれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の減少等により、前年度 (2.5 百万トン) から 8.7%減の 2.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度 (5.4 百万トン) より 4.6%増の 5.7 百万トンとなる見込み。

カナダ統計局によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 5 月の輸出量は 491.2 万トンと、前年同期 (442.4 万トン) に比べ 11.0%増。輸出先国別には、中国 102.0 万トン (20.8%)、イラン 76.5 万トン (15.6%)、アルジェリア 47.1 万トン (9.6%) の順となっている (表)。

AAFCによれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.03 百万トン下方修正され、前年度 (0.6 百万トン) から、4.5%減の 0.5 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度より 0.3 ポイント減の 6.7%となる見込み。

大豆－カナダ

(概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位：百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値、()は AAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.0	7.6	7.0 (7.4)	-	▲ 7.5
消費量	2.3	2.4	2.5 (2.3)	-	4.2
うち搾油用	1.7	1.6	1.7 (1.7)	-	9.7
輸出量	4.8	5.3	4.8 (5.7)	-	▲ 9.4
輸入量	0.3	0.3	0.4 (0.5)	-	20.0
期末在庫量	0.6	0.7	0.8 (0.5)	-	8.2
期末在庫率	7.9%	9.5%	10.8% (6.7%)	-	1.3

(参考)

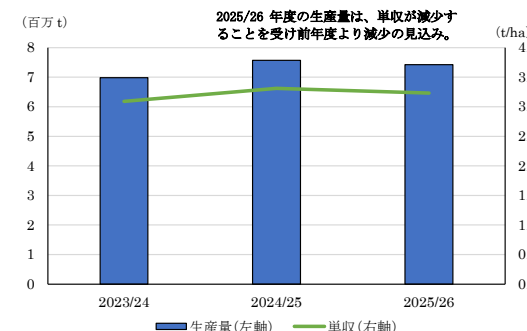
収穫面積(百万ha)	2.26	2.29	2.30 (2.30)	0.05	0.4
単収(t/ha)	3.09	3.30	3.04 (3.23)	▲ 0.07	▲ 7.9

資料：USDA「PS&D」、

「World Agricultural Production」(11 July 2025)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 July 2025)

図 カナダ産大豆の生産量及び単収の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.7.21)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量及び輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	152.9	31.6	中国	152.0	34.4	中国	102.0	20.8
アルジェリア	58.2	12.0	アルジェリア	54.9	12.4	イラン	76.5	15.6
イラン	52.3	10.8	イラン	52.3	11.8	アルジェリア	47.1	9.6
日本	33.9	7.0	日本	27.7	6.3	米国	34.1	6.9
インドネシア	27.7	5.7	インドネシア	24.2	5.5	日本	31.6	6.4
米国	21.7	4.5	米国	15.4	3.5	バングラデシュ	26.1	5.3
その他	136.9	28.3	その他	115.9	26.2	その他	173.8	35.4
合計	483.6	100.0	合計	442.4	100.0	合計	491.2	100.0

資料：カナダ統計局のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受け前年度より 1.7%増の 21.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

中国中央气象台「全国農業気象月報」(2025.7.4)によれば、6月は主要生産地の東北部の大部分で気温及び土壌水分量等が良好で、順調に生育しているとみられる。同「全国農業気象周報」(2025.7.21)によれば、7月 19 日現在においても良好な気象条件となっており、開花及び着莢に概ね好影響を与えている。

同「作物生育期監測」(2025.7.21)によれば、東北部では7月 19 日現在、開花期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け、前年度より 4.8%増の 133.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「中国農業展望報告(2025－2034)」(2025.4)によれば、2025 年は豚肉生産量の増加に伴い、短期的に飼料用需要の増加が見込まれるものの、2034 年までの長期的な見通しでは、養豚施設の大規模化や防疫水準の向上により、飼料用需要は今後安定的に推移する見込み。その一方で、飼料用大豆粕の減量への取り組みが本格的に進み、大豆粕需要は徐々に減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.2%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び、史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年5月の輸入量は 6,029.1 万トンと前年同期(6,026.6 万トン)と同水準。輸出先国別には、ブラジル 3,365.9 万トン(55.8%)、米国 2,216.1 万トン(36.8%)、アルゼンチン 198.1 万トン(3.3%)の順で、ブラジルと米国を合わせたシェアが9割を超えている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年5月号」によれば、国産大豆の在庫が減少傾向であることから、5月の国内価格は 4,560 元/トンと、前月(4,480 元/トン)から上昇した。

中国国務院関税税則委員会は、4月 12 日以降、米国的大豆に対して計 135%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5月 14 日から、計 20%の追加関税を課すこととなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、搾油用需要の増加等を受け、前年度より0.2%減の 43.4 百万トンと、過去5年平均(34.9 百万トン)を上回り、史上2番目の見込み(図)。期末在庫率は、前年度より 1.6 ポイント減の 32.6%となる見込み。

大豆－中国

(概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.8	20.7	21.0 (21.1)	-	1.7
消 費 量	121.8	126.9	133.0 (133.2)	-	4.8
うち搾油用	99.0	103.0	108.0 (109.8)	-	4.9
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
輸 入 量	112.0	106.5	112.0 (108.3)	-	5.2
期末在庫量	43.3	43.5	43.4 (44.0)	▲ 1.5	▲ 0.2
期末在庫率	35.5%	34.2%	32.6% (33.0%)	▲ 1.1	▲ 1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.47	10.33	10.50 (10.50)	-	1.6
単収(t/ha)	1.99	2.00	2.00 (2.01)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

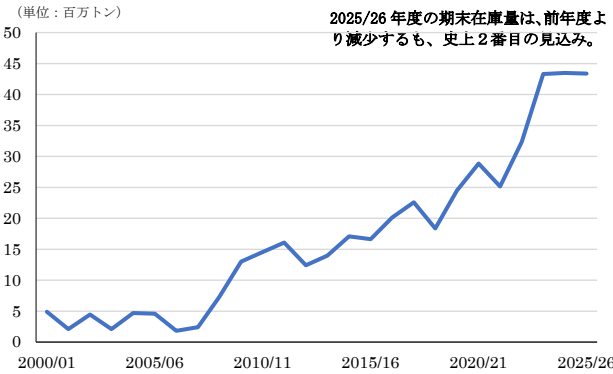
表 中国における大豆の輸入量及び輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,732.1	73.8	ブラジル	3,979.5	66.0	ブラジル	3,365.9	55.8
米国	2,091.6	20.0	米国	1,721.8	28.6	米国	2,216.1	36.8
アルゼンチン	267.7	2.6	カナダ	150.6	2.5	アルゼンチン	198.1	3.3
カナダ	151.9	1.5	アルゼンチン	65.7	1.1	ウルグアイ	110.6	1.8
ウルグアイ	102.7	1.0	ロシア	61.3	1.0	カナダ	109.6	1.8
その他	128.6	1.2	その他	47.6	0.8	その他	28.7	0.5
合計	10,474.7	100.0	合計	6,026.6	100.0	合計	6,029.1	100.0

資料：中国海関統計のデータをもとに農林水産省にて作成

図 中国における大豆の期末在庫量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.7.11)をもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が減少したことを受け、前年度より 2.8%減の 48.5 百万トンの見込み（図）。現在の価格相場はとうもろこしの作付けに有利であるため、多くの農家が大豆からとうもろこしの作付けに切り替えるとみられる。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の週報（2025.7.17）によれば、7 月 17 日現在、2024/25 年度の実産量の収穫進捗率は 99.9%とほぼ完了している。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要が増加することから、前年度比 1.8%増の 50.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少及び搾油用需要の増加に伴い輸入が増加することから前年度より 10.8%増の 7.2 百万トンの見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前月予測より 0.5 百万トン上方修正されたものの、前年度より 18.0%減の 5.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、大豆には 33%、大豆油及び大豆粕には 31%の税率が適用されてきたが、1 月 27 日～6 月 30 日まで大豆に 26%、大豆油及び大豆粕に 24.5%へと一時的に引き下げられた。7 月 1 日からは、従来の税率に戻っている。

USDA 「Oilseeds:World Markets and Trade」（2025.7.11）によれば、収穫作業が最盛期を迎える中、輸出業者が 7 月 1 日の輸出税引上げ前に貨物の確保を行ったとみられる。

同「OIL WORLD Weekly」（2025.7.4）によれば、6 月中の売却が増加した結果、2025 年 7 月～12 月の輸出量は中国向けを中心に前年同期を大幅に上回る見込み。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受け前月予測より 0.5 百万トン下方修正されるものの、輸入量の増加等を受け、前年度より 0.8%増の 25.0 百万トンと、過去 5 年平均（22.9 百万トン）を上回る見込み。期末在庫率は前年度より 0.5 ポイント増の 45.0%となる見込み。

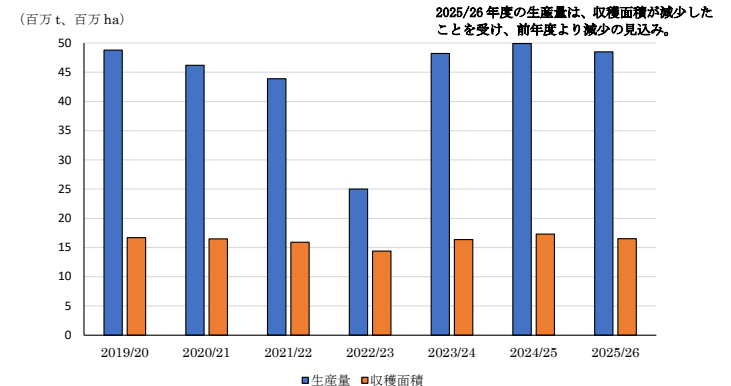
大豆－アルゼンチン

（早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫され、遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.2	49.9	48.5 (50.5)	-	▲ 2.8
消 費 量	43.8	49.6	50.5 (50.5)	-	1.8
うち搾油用	36.6	42.1	43.0 (44.0)	-	2.1
輸 出 量	5.1	6.1	5.0 (4.7)	0.5	▲ 18.0
輸 入 量	7.8	6.5	7.2 (5.4)	-	10.8
期末在庫量	24.1	24.8	25.0 (9.5)	▲ 0.5	0.8
期末在庫率	49.1%	44.4%	45.0% (17.1%)	▲ 1.3	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	17.30	16.50 (17.55)	-	▲ 4.6
単収(t/ha)	2.95	2.88	2.94 (2.88)	-	2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2025)
IGC 「Grain Market Report」(26 June 2025)

図 アルゼンチン産大豆の生産量及び収穫面積の推移



資料：USDA 「PS&D」（2025.7.11）をもとに農林水産省にて作成

写真 サンタフェ州コレア村の貯蔵施設（2025. 6. 25 撮影）



アルゼンチン農業連合の集荷・貯蔵施設である。現在、サイロ 2 基の増設が計画されており、貯蔵能力の拡充が見込まれている。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2025/26年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	25年6月～26年5月	25年9月～26年8月	25年8月～26年7月	25年9月～26年8月
カナダ	25年8月～26年7月			25年8月～26年7月
豪州	25年10月～26年9月		26年3月～27年2月	
EU	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
中国	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月
ロシア	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		25年9月～26年8月
ウクライナ	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
ブラジル		26年3月～27年2月	26年4月～27年3月	25年10月～26年9月
アルゼンチン	25年12月～26年11月	26年3月～27年2月		25年10月～26年9月
タイ			26年1月～12月	
インド	25年4月～26年3月		25年10月～26年9月	
ベトナム			26年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel （ブッシェル） （穀物により異なる）	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

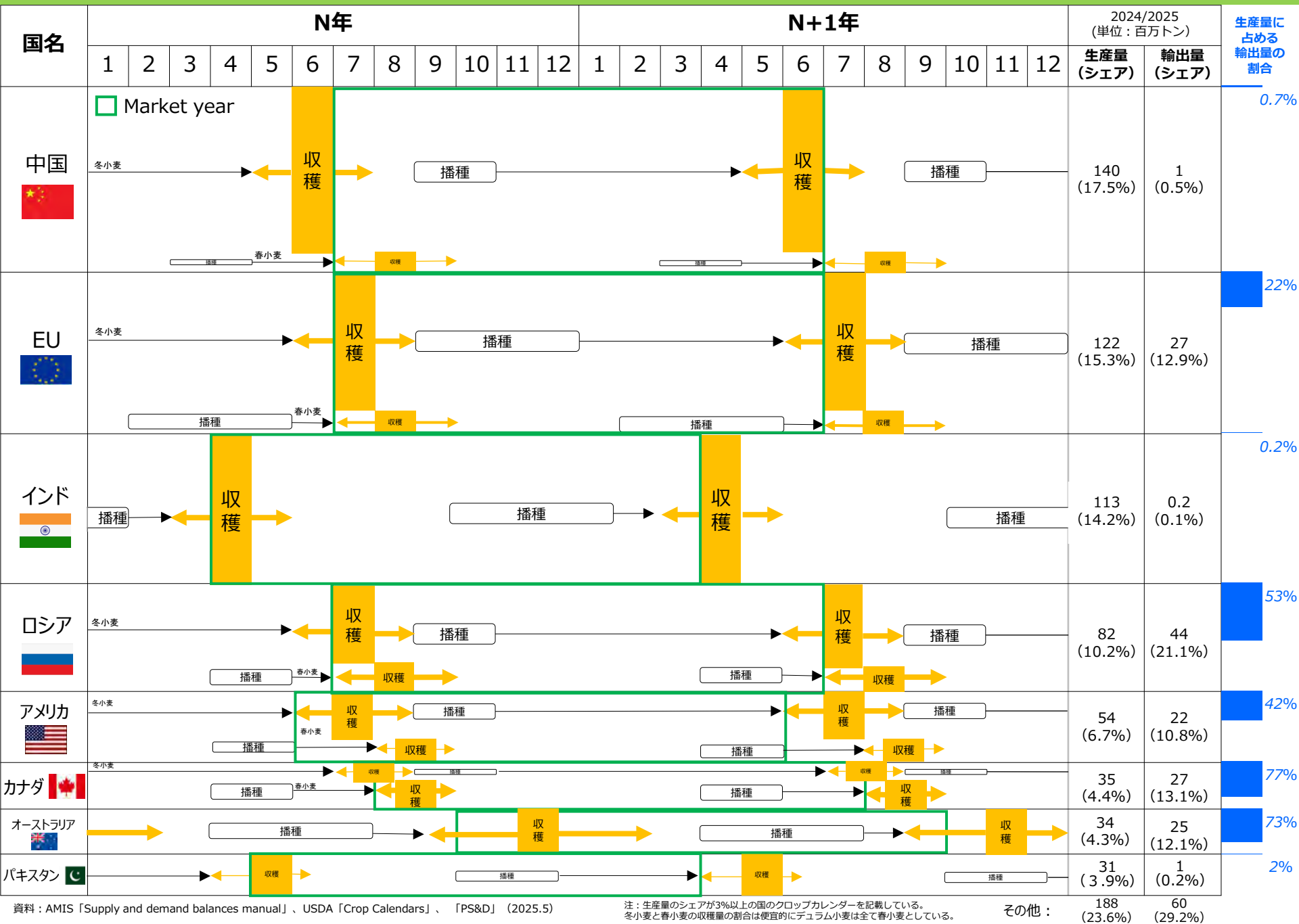
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロップカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

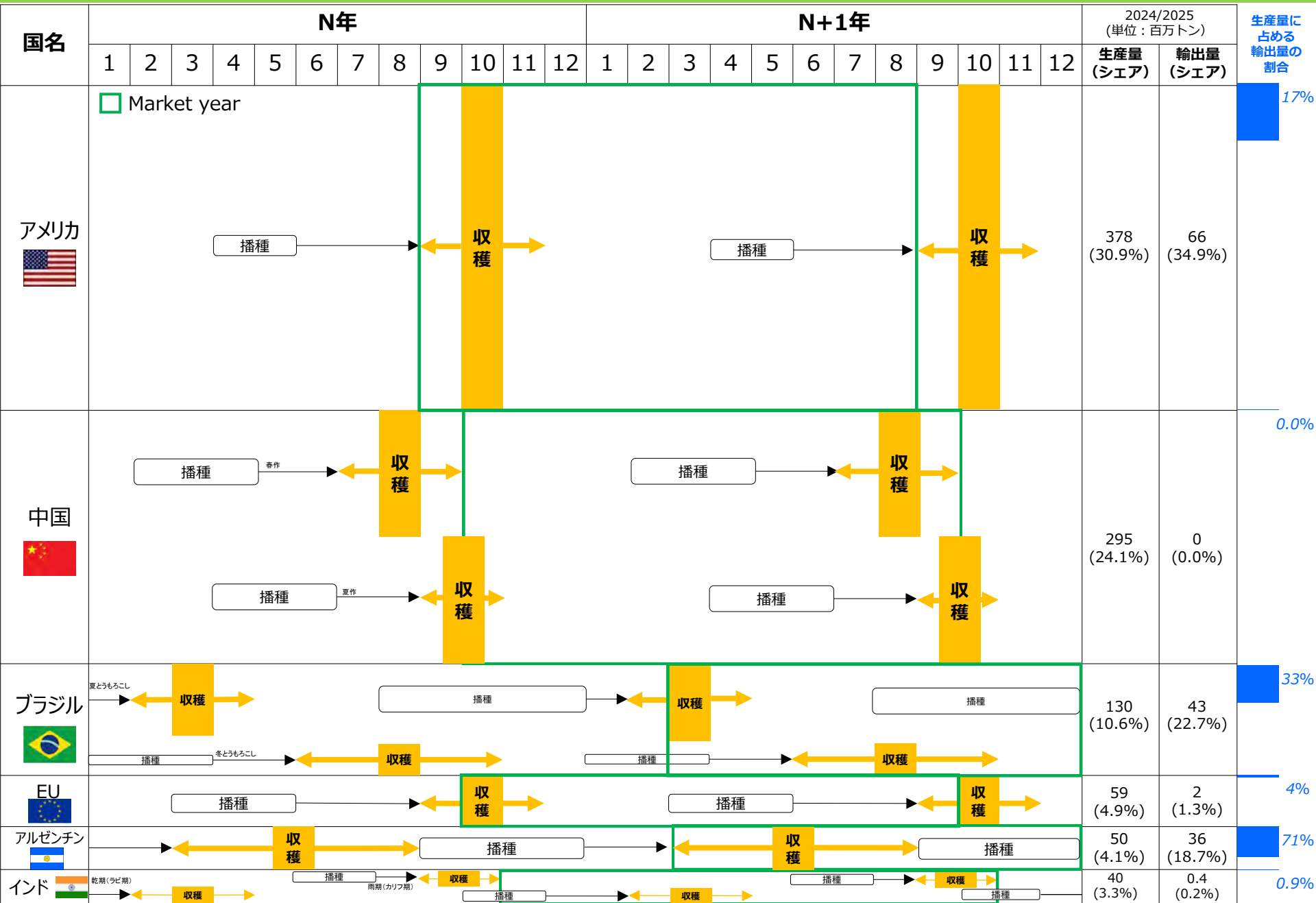


※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、PS&D（2025.5） 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他： 127 (23.6%) 21 (34.4%)

主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

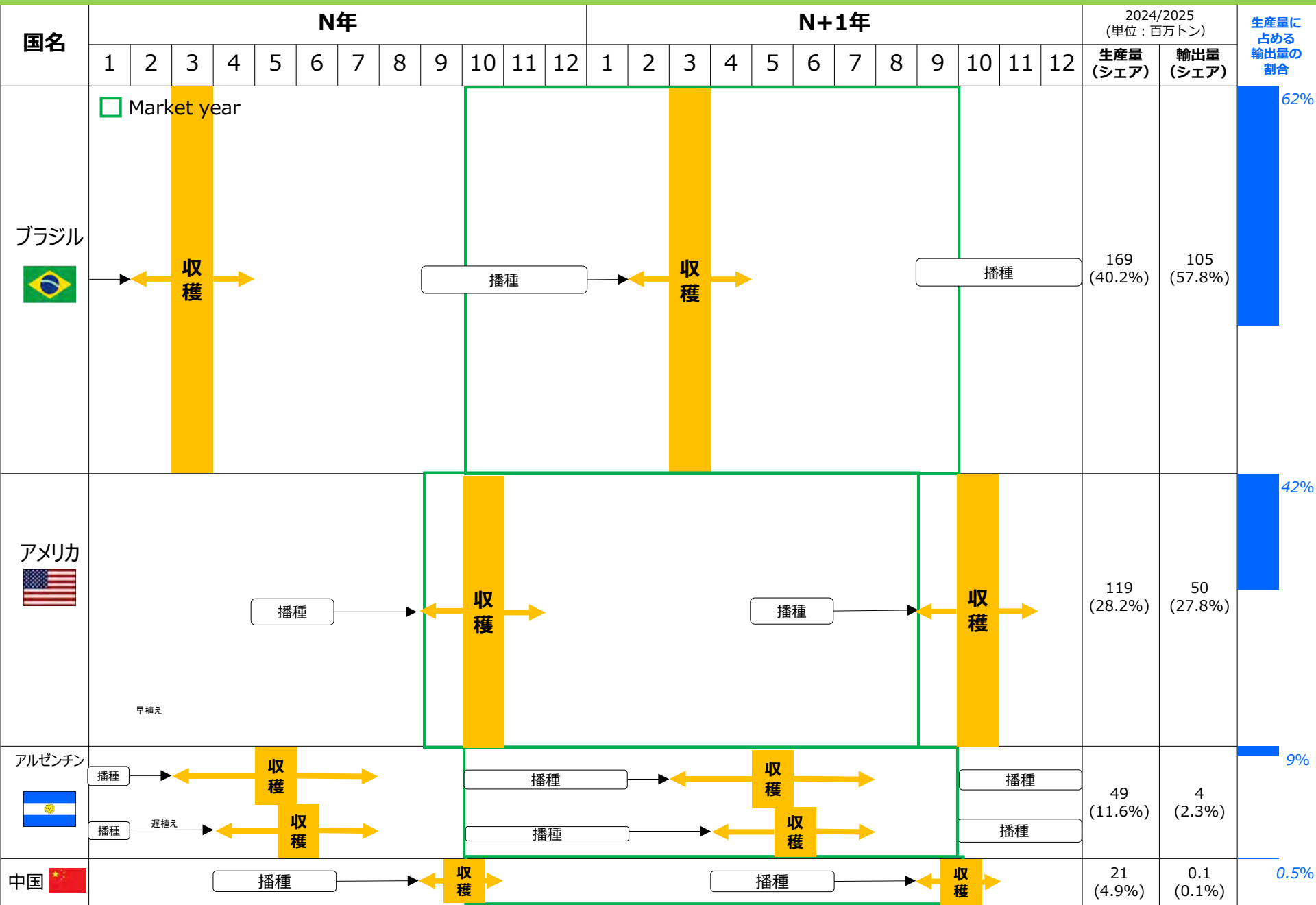
※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2025.5）注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：269 (22.1%) 42 (22.2%)

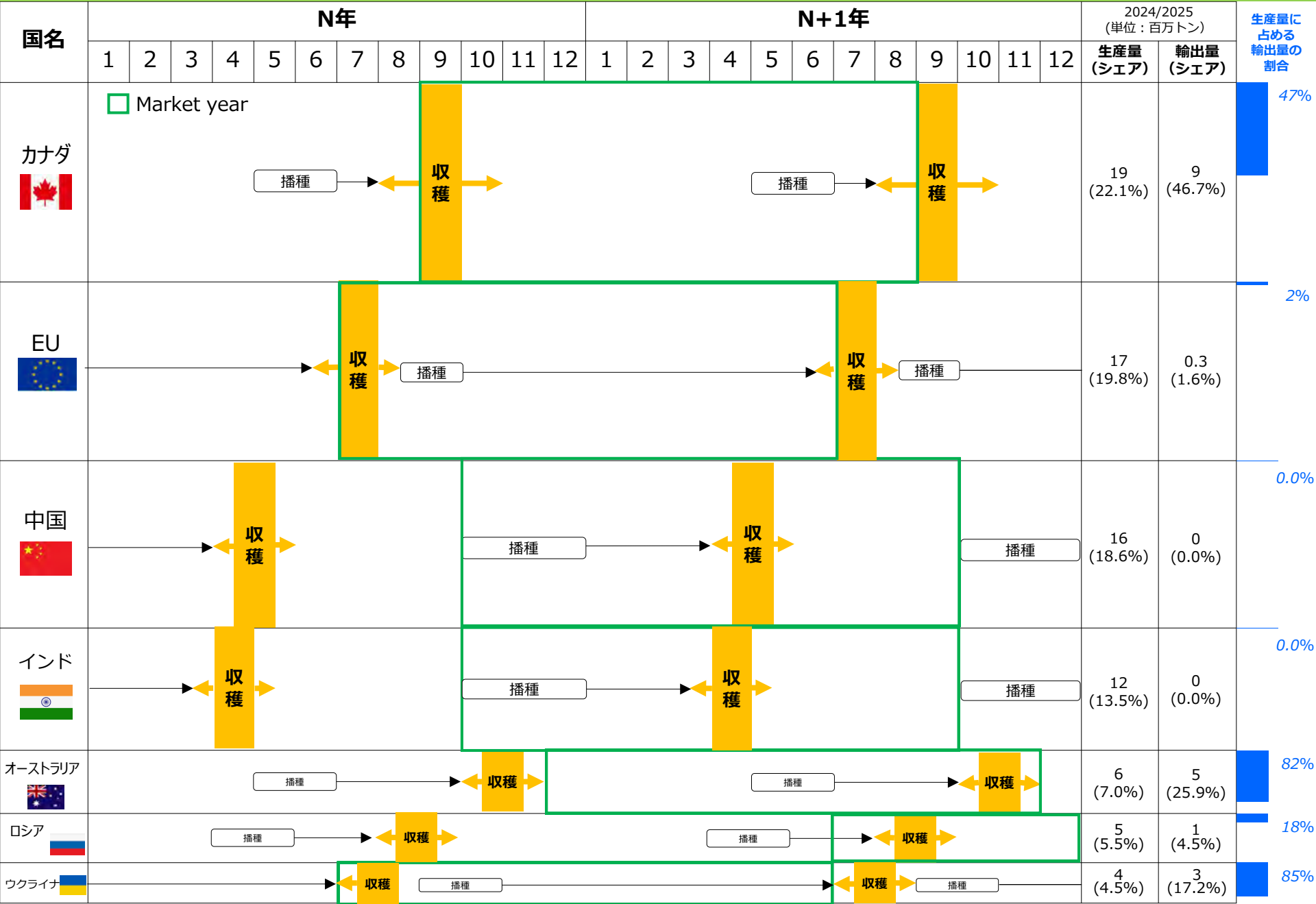
主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2025.5)

注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

その他：(9.1%) (4.1%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2025 年 7 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2025/26 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

